

○市制(町村制第十五條) (明治四十四年四月七日) 法律第六十八號
 第十八條 左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一月ヲ經過セサル者亦同シ
 四 神官神職僧侶其ノ他諸宗教師

○民事訴訟法(抄) (明治二十三年四月二十一日) 法律第二十九號

第二百九十八條 左ノ場合ニ於テハ證言ヲ拒ムコトヲ得
 第二 醫師、藥商、穩婆、辯護士、公證人、神職及ヒ僧侶カ其身分又ハ職業ノ爲メ委託ヲ受ケタルニ因リテ知リタル事實ニシテ默秘スヘキモノニ關スルトキ

○刑事訴訟法(抄) (明治三十三年十月七日) 法律第九十九號
 第二百二十五條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ證言ヲ拒ム

●宗規第十一號 法衣條例 (明治三十八年十月二十八日內務大臣認可) 年十一月二十三日甲第一號發布

第一條 本條例ハ宗憲第九條第四十七條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 本派僧侶ノ被着スヘサ法衣ハ左ノ三種トス

- 一 袈裟 大 衣 七 條
- 一 正 衣 袍 裳 鈍 色 五 條
- 直 綴 襲 衣 間 衣

一副 衣 帽子 燕尾 寶冠帽

第三條 正衣ノ色ヲ七種ニ分チ左表ニ依リ相當教師ニ應シ管長ノ允可ヲ得テ被着セシム

色	教師	大僧正	權大僧正	大僧都	中僧都	少僧都	律師	教師試補
衣	緋	紫	萌黃	黃	淺青	淡紅	黑	

第四條 別格本山以下末寺以上ノ住職ハ左表ニ依リ教師相當色衣以上ノ寺格ニ限リ管長ノ允可ヲ得テ寺格ニ相當ノ色衣ヲ被着スルコトヲ得

但シ本條ニ依ル色衣ハ其寺内若クハ檀信徒ニ對シ寺格ヲ表明スル時ニ限リ被着スヘキモノトス

寺	格	別格本山	常法談林	准談林	格院	末寺
色	衣	紫	萌黃	黃	淺青	淡紅

第五條 前條ノ寺格ハ左表ニ依リ相當寺院等級ニシテ管長ノ允可ヲ得タルモノニ限ル從來既得ノ寺格ニシテ寺院等級以上ナルトキハ其寺院等級ニ相當スル寺格ハ管長ノ允可ヲ要

セサルモノトス

寺格	別格本山	准別格本山	常法談林談	林准談林格	院	平格院	末寺
等級	特等 一等 二等 三等 四等 五等	特等 四等 五等	一地 一等 二等 三等 四等 五等	六等 七等 八等 九等 十等	十一等 十二等 十三等	十四等 十五等 十六等 十七等	

(等地十八等以下ハ門徒地トス)

第六條 寺格相當色衣被着允許ヲ得ルモ住職罷免セラレタルトキハ其資格ヲ失フ

第七條 教師相當ノ被着允可ヲ得ルモ奪免セラレタルトキハ其資格ヲ失フ

但シ降級セラレタルトキハ其教師相當ノ色衣ハ別ニ允可ヲ要セス被着スルコトヲ得

第八條 少僧正以上ノ者ハ管長ノ允可ヲ得サルモ緋紋白ノ袈裟ヲ被着スルコトヲ得

第九條 允可ヲ得スシテ色衣ヲ被着シ若クハ允可ヲ得サル色衣等級以上ノ色衣ニ類似セル

色衣ヲ被着スルコトヲ得ス

第十條 從來寺格ニ應ジ允可ヲ得タルモノト雖モ本條例ノ規定ニ牴觸スルモノハ之ヲ被着

スルコトヲ得ス

第十一條 本條例施行細則ハ管長別ニ之ヲ定ム

●法衣條例施行細則(大正五年二月一日教令第六號)

第一條 本則ハ宗規第十一條法衣條例第十一條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 同條例第三條教師相當ノ色衣被着允可願ハ左ノ様式ニ依ルヘシ

色衣被着允可願

(僧籍) 何々

現何色何年何月何日被着允可

現 級 氏 名

右今回(教師等級)ニ御昇補被成下候ニ付テハ相當色衣被着御允可願上候也

年 月 日

右本人 級 氏 名印

新義眞言宗智山派管長級氏名殿

第三條 同條例第四條寺格相當色衣被着允可願ハ左ノ様式ニ依ルヘシ

色衣被着允可願

(僧籍) 何々

級 氏 名

一 寺 格 何々 何寺

右者寺格相當色衣被着御允可被下度此段願上候也

年 月 日

右何々寺住職 級 氏 名印

新義眞言宗智山派管長級氏名殿

宗務支所奥印ヲ要ス

宗規及規則

第四條 同條例第九條ニ未允可色衣若クハ未允可色衣以上ノ類似色衣ヲ被着スルモノアリタルトキハ其事實ヲ宗務支所ニ具申スヘシ
以 上

●宗規第十二號

賞罰條例

(明治三十八年十一月二十三日甲第一號發布明治四十三年六月十三日修正發布大正三年六月八日修正發布大正七年八月二十四日修正發布)

第一章 總 則

第一條 本條例ハ宗憲第十條第五十一條ニ依リ之ヲ定ム

第二章 褒 賞

號二條

本派僧侶ニシテ左項ノ一ニ該當スルモノハ教師等級ヲ陞進セシムルコトヲ得

- 一 國家ノ公益ヲ圖リ宗光ヲ發揮セシ者
 - 二 派内僧侶ノ教育又ハ布教ニ顯著ナル功績アル者
 - 三 學術德行衆ニ超絶シ世ノ模範トナル者
 - 四 教育布教其他ニ關スル著述ヲナシ社會ヲ益セシ者
 - 五 宗務ニ從事シ顯著ナル功績アル者
 - 六 寺院ヲ建立シ若クハ永世維持ノ方法ヲ確立セシ者
- 第三條 本派僧侶ニシテ左項ノ一ニ該當スル者ハ袈裟若クハ正衣副衣ヲ授與ス
派内僧侶ノ教育上又ハ布教上特別勉勵ノ者

二 宗務ニ從事シ顯著ナル功績アル者

三 品行方正ニシテ護法ノ念篤キ者

四 寺門興隆ノ功著シキ者

第四條

本派僧侶及檀信徒ニシテ左項ノ一ニ該當スル者ハ法名若クハ物品ヲ授與ス

一 法資養成上功績アル者

二 淨財又ハ田圃ヲ喜捨シ若シクハ寺門永遠ノ基礎ヲ立テシ者

三 寺院堂塔改造ノ爲メ拔群ノ盡力ヲ爲シ又ハ多額ノ淨財ヲ喜捨セシ者

四 本派宗學生ノ爲メ淨財ヲ喜捨シ法命相續ヲ扶ケシ者

五 忠孝節義ニシテ他ノ模範トナル者

第五條

本派僧侶及檀信徒ニシテ左項ノ一ニ該當スル者ハ賞狀ヲ授與ス

一 派内僧侶ノ教育又ハ布教ニ勉勵セシ者

二 三寶篤信ニシテ他ノ模範トナル者

三 寺門外護ノ誠意ヲ盡シ其功勞アル者

第六條

本派僧侶及檀信徒ニシテ生前特殊ノ功勞アル者ハ前各條ニ準シ追賞スルコトアル

ヘシ

第七條

宗務支所管理ハ其管内ニ於テ行賞スヘキ者アルコトヲ認メタルトキハ其事實ヲ調査シテ管長ニ具申スヘシ

第三章 懲 罰

第八條

本派僧侶ニシテ左項ノ一ニ該當スルモノハ譴責ニ處ス

- 一 宗務所又ハ宗務支所ヨリ日ヲ定メ達シタル書類ヲ正當ノ理由ナク遲延セシメタル者

- 二 職務上過誤又ハ怠慢セル者

第九條

本派僧侶ニシテ左項ノ一ニ該當スルモノハ一週間以上三百日以下ノ懺悔ニ處ス

- 但シ第一項第三項ニ當ルモノハ其情狀ニ依リ停職又ハ教師降級ニ處ス

- 一 他ノ住職進退ニ關シ私意ヲ挾ミテ故障セシ者

- 二 師僧ニ對シ施暴ヲ爲セル者

- 三 住職ニシテ法資養成ヲ怠リタル者

- 四 寺院等級資格ヲ詐稱セシ者

- 五 正當ノ理由ナクシテ宗務所又ハ宗務支所ノ召喚ニ應セサル者

- 六 允可ナキ色衣及ヒ等級以上ノ色衣ニ類似セル色衣ヲ被着セル者

- 七 濫リニ寺院ヲ貸與シ又ハ傳染病室ニ充テ若クハ歌舞演劇政談集會異教演說ヲ爲サシメタル者

- 八 托鉢免許規則ヲ犯セシ者

- 九 遠警罪ノ處分ヲ受ケタル者

- 十 濫リニ宗務支所ノ分合ヲ企圖セシ者

第十條

本派僧侶ニシテ左項ノ一該ニ當スルモノハ三十日以上三百日以下ノ停職ニ處ス

- 一 寺院ノ用ニ託シテ濫リニ勸財ヲナス者

- 二 宗費ヲ滯納セシ者

- 三 罰金ノ刑ニ處セラレタル者

第十一條

本派僧侶ニシテ左項ノ一ニ該當スル者ハ降級ニ處ス

- 一 本派ノ宗意ニ違背セル演說說教又ハ加持祈禱ヲシタル者

- 二 宗務所又ハ宗務支所ノ名義ヲ詐稱シタル者

- 三 政黨ニ加入シ又ハ政事ヲ論議スルモノ

- 四 一派ノ職員ニシテ職務上敗徳ノ行爲ヲナセシモノ(大正七年八月二十四日教令第十七號ヲ以テ本項ヲ加フ)

第十二條

本派僧侶ニシテ左項ノ一ニ該當スル者ハ住職罷免ニ處ス

- 一 品行不良又ハ私利ヲ營ミ寺門ヲ荒廢セシ者

- 二 管長ノ命令ヲ奉セサル者

- 三 濫リニ離加又ハ轉派轉宗ヲ企圖セシ者

- 四 一派ノ選舉投票ニ賄賂ヲ授受シ不正ノ行爲アル者

- 五 布教興學ノ義務ヲ盡サ、ル者

- 六 私ニ寺有財産ヲ典賣セントシタル者

第十三條 本派僧侶ニシテ左項ノ一ニ該當スル者ハ教師黜免ニ處ス

- 一 私ニ寺有什器寶物及動產不動產ヲ典賣セシ者
- 二 師僧及法類ニ對シ奸曲ノ所業ヲ爲セシ者
- 三 家資分産ノ處分ヲ受ケシ者

第十四條 本派ノ僧侶ニシテ左項ノ一ニ該當スル者ハ一宗ヲ擯斥ス

- 一 本派ノ教義及祖師ノ遺訓ニ背キ異議ヲ唱フル者
- 二 宗憲宗規ヲ遵守セス反テ管長ノ命ニ抗抵シ又ハ徒黨ヲ企ツル者
- 三 宗費ヲ納メス反テ主務者ニ抗抵シ又ハ他人ヲ教唆シ同上ノ所爲ヲナサシムル者
- 四 一派ノ職員ニシテ宗金ヲ私消シ辨償ノ義務ヲ盡サ、ル者
- 五 管長宗務所宗務支所及學林ノ印章ヲ偽造又ハ變更シテ行使シタル者
- 六 管長宗務所宗務支所及宗學校ノ名義ヲ詐稱シ金穀物品ヲ騙取セシ者
- 七 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

第十五條 降級以上ノ懲罰處分ハ懲誠審査會ノ決議ヲ經テ之ヲ行フ

第四章 誠 例

第十六條 本派僧侶ニシテ教師ニ補セラレサルモノニシテ第十一條第十二條ニ該當スル所爲アルトキハ懺悔ニ處ス

又ハ非住職ノ者第十條ノ所爲アルトキハ懺悔ニ處シ第十二條ノ所爲アルトキハ降級ニ處ス

ス

第十七條 此條例ニ正文ナクシテ他ノ宗規ニ正條アルモノハ其明文ニ依リ之ヲ處斷ス

第十八條 第八條已下第十四條ノ規定ニ該當セスト雖モ僧侶ノ本分ニ背キタル不應爲ノ行爲アルモノハ其情狀ノ輕重ニ依リ相當ノ懲誠ヲ加フル者トス

第十九條 懲誠ニ付スヘキ者ノ内左項ノ一ニ該當スル者ハ一等乃至三等ヲ減スルコトヲ得

但シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルニ依リ懲誠スヘキ者ハ此ノ限リニアラス

- 一 自首セシ者
- 二 丁年未滿ノ者
- 三 七十歳以上ノ者

第二十條 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノニシテ刑ノ執行猶豫ヲ受ケタルモノニ對シテハ一等乃至四等ヲ減シテ處分スルコトヲ得(大正三年六月本條ヲ加フ)

但シ執行猶豫ヲ取消サレタルトキハ更ニ原罪ニ依リ之ヲ處分ス

第二十一條 同科再犯ノ者ハ本罰ニ一等ヲ加ヘ二科具發ノ者ハ重キヲ以テ處斷ス

第二十二條 懲誠ノ加重並ニ輕減ハ左ノ等級ニ依ル

但シ本罰學階教師黜免ニ當ル者ハ加ヘテ一宗擯斥ニ入ルヲ得ス又本罰譴責ニ當ル者ヲ減スルトキハ懲誠セサル者トス

- 一 一宗擯斥

- 二 學階教師黜免
- 三 住職罷免
- 四 降 級
- 五 停 職
- 六 懺 悔
- 七 譴 責

第二十三條 宗務支所管理ハ其部内ニ處罰スヘキ行爲アルモノヲ認メタルトキハ其事績ヲ調査シテ管長ニ具申ス

第五章 懲誠ノ減免

第二十四條 管長ハ停職又ハ懺悔ニ處セラレタル者ニシテ改悛ノ實アル者ハ本人能轄本山又ハ本寺住職ノ副書ヲ得管理ノ具狀アルトキハ其懲誠特免又ハ輕減スルコトヲ得

第二十五條 管長ハ降級又ハ教師黜免又ハ住職罷免ニ處セラレタル者ニシテ滿一ヶ年以上ヲ經過シ改悛ノ實アル者ハ能轄本山又ハ本寺住職ノ副書ヲ得管理ノ具狀アルトキハ其懲誠ヲ特免スルコトヲ得

但シ家資分散ノ處分ヲ受ケタル者ハ復權ノ上ニアラサレハ本文ノ限リニアラス

第二十六條 管長ハ一宗擯斥ニ處セラレタル者ニシテ滿三ヶ年以上ヲ經過シ改悛ノ實アル者ハ能轄本山又ハ本寺住職ノ副書ヲ得管理ノ具狀アルトキハ其懲誠ヲ特免スルコトヲ得

但シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノハ復權ノ上ニアラサレハ本文ノ限リニ非ス又重罪ノ刑ニ處セラレタル者ノ特免ハ復權ノ上尙宗會ノ協賛ヲ要ス

第二十七條 分限復得ニ關スル規程及本條例施行細則ハ管長之ヲ定ム(本條修正ハ大正三年六月發布)但シ賞罰條例ニ基キ分限復得ニ關スル規定ヲ定ムル時ハ認可ヲ受クヘシ(文部大臣ヨリ附記)

●懲誠審査會規則(大正七年八月二十四日教令第十號發布)

第一章 總 則

第一條 懲誠審査會ハ賞罰條例宗規第十二號第十五條ニ依リ之ヲ設ク

第二章 審 查 會

第二條 降級以上ノ懲誠ニ關スル審査ハ懲誠審査會ヲシテ合議判定セシム

第三條 懲誠審査會ハ宗務所内ニ於テ之ヲ開キ委員ノ召集ハ宗務所ヨリ七日以前ニ通告スルモノトス

第四條 懲誠審査會ノ委員ハ宗務長課長及小會常置委員ヲ以テ之ニ充ツ

懲誠審査會ノ議長ハ宗務長之ニ當ル宗務長事故アルトキハ委員ノ互選ヲ以テ定ム

第三章 審 查 方 法

第五條 降級以上ノ懲誠ニ關スル事件ハ管長ニ具狀スル以前ニ於テ宗務長ハ審査會ヲ開キ該關係書類ヲ提出シテ其審査ニ附スヘシ

第六條 審査事件ニ關シ宗務所員ハ審査會ニ出席シテ説明ヲナシ又ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第七條 懲誠審査會ハ委員總數ノ四分ノ三以上ノ出席ニ依リ開會シ議事ハ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

但シ可同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第八條 懲誠審査會委員ハ自己又ハ自己ノ身附法類者又ハ親族者ノ審査ニ關シテハ辨明スルコトヲ得ルモ議決ニ加ハルコトヲ得ス

第九條 審査會ハ審査上本人ノ出席ヲ要スル時ハ其召喚ヲ宗務所ニ請求スヘシ宗務所ハ適法ノ召喚ヲナシ本人カ正當ノ事由ナクシテ應セサルトキハ其旨審査會ニ通告スヘシ此場合ニハ本人供述ノ有無ニ拘ハラズ審査會ハ審査ヲ進行スルモノトス

第十條 審査會ノ審査終了シタル時ハ宗務長ハ直チニ其結果ヲ管長ニ具狀スヘシ

但シ審査會ノ決定宗規ニ背クト認ムル時ハ宗務長ハ管長ノ指揮ヲ受ケ理由ヲ示シテ再議ニ附スルコトヲ得尙ホ之ヲ改メサル場合ハ管長ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得

第十一條 宗會解散ニ依リ常置委員缺員ノ場合ハ更ニ宗會成立ノ上常置委員互選ニ至ル迄管長ニ於テ議員ノ被選舉權ヲ有スル者ヨリ臨時補充員ヲ特選スルモノトス

附 則

本規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

以 上

●新義眞言宗智山派恩赦規則(大正三年六月八日文 部大臣認可同日發布)

第一條 皇室國家ノ大事ニ際シ恩赦ヲ行ハセラレタル場合又ハ一派ノ重大慶吊ノ事アル場合ニ於テ管長ノ意見ヲ以テ本派懲誠處分者ニ對シ特免減誠ヲ行ヒ及分限ヲ復得セシメ又ハ本派懲誠規則ニ觸レタルニヨリ處分スヘキ者ニシテ其事犯ノ現ニ調査中ニ屬スル者ニ對シ懲誠ヲ免除シ若クハ輕減シテ處分スルコトアルヘシ

第二條 恩赦ハ恩德ニ感セシメ舊情ヲ洗滌シ新善ニ遷ルノ機會ヲ得セシムルヲ趣旨トス

第三條 國法ヲ犯シタルニヨリ懲誠ニ處シタル者並ニ懲誠ニ處スヘキ者ニ對シテハ其處刑ヲ終リ又ハ其之ヲ受クルコトナキニ至リタルモノ又ハ恩赦勅令ニ依リ赦免セラレタルモノニアラサレハ本規則ヲ適用セス

第四條 恩赦ハ其情狀ヲ認定シ左項ニ依リ之ヲ行フ

第一項 懺悔ハ其期間ヲ短縮シ乃至之ヲ特免ス

第二項 停職ハ其期間ヲ短縮シ若クハ一等ヲ減シテ懺悔ニ處シ乃至之ヲ特免ス

第三項 降級ハ從前ノ教師以下ニ復シ若クハ二等ヲ減シテ懺悔ニ處ス

第四項 住職罷免ハ之ヲ特赦シ將來住職ニ任セラルヘキ資格ヲ復得セシム

第五項 教師黜免ハ二等ヲ減シテ降級ニ處シ若クハ之ヲ特免シ教師最下級乃至從前ノ教

師等級ノ資格ヲ復得セシム

第六項 一宗擯斥ハ一等ヲ減シテ教師黜免ニ處シ僧籍ヲ復得セシメ若クハ二等ヲ減シテ降級ニ處シ又ハ教師等級ニ復セシム

第五條 降級、住職罷免、教師黜免ニ處セラレタルモノニシテ恩赦ニ依リ資格分限ヲ復得スト雖モ其從前ノ職務ニ關シテハ効力ヲ及ホサス

第六條 恩赦ニヨリ僧籍ヲ復得シタル者ニシテ之カ師僧アラサルトキハ依止師ヲ定メ届出ツヘキモノトス

第七條 本規則施行細則ハ必要ニ依リ管長之ヲ定ム

懲誠減免具狀書

縣府	縣府
市郡	宗務支所下
村町	院寺
	住職

級 氏 名
年月日生

一、懲誠ヲ受ケタル事實及理由並ニ條項

大正何年何月何日何々ニヨリ大正何年何月何日賞罰條例第何條第何項ニヨリ何々ニ處セラル

一、減免ヲ受クヘキ理由及事實

右級氏名ハ所罰後何ケ年ヲ經過シ改悛ノ狀顯著ナルモノアリ其事實ハ別紙上申書(本寺住職或ハ本山副申)ニヨリ明カナリ(又家資分産復得後滿三ケ年以上ヲ經過シ別紙ノ通リ云々)(禁錮所刑後復權別紙ノ通リ云々)

右賞罰條例(第二十三條乃至第二十六條)(各當該條項ヲ記入ノコト)ニヨリ懲誠御減免被成下度別紙處罰後ノ功績(又ハ行狀)調書相添ヘ(又ハ本寺住職ヨリノ願書)此段具狀仕候也

大正 年 月 日

縣府 支所管理

級 氏 名印

新義真言宗智山派管長大僧正氏名殿

備考 參考書類トシテハ懲誠處分申渡書寫其ノ後ノ素行調書(重刑ノ者ハ所轄警察署ノ證明書ヲ要ス)功績調書(家資分産復權證明書及其他權利復得ノ證明書)身分證明書等添付ヲ要ス
皆何レモ本寺住職又ハ本山ノ副申ヲ要ス

書式

褒賞具狀

何府縣何宗務支所部内

何府縣何市郡何町村本派何寺
住職(又ハ氏名法資)
級 氏 名
又ハ……………何寺檀徒

(又ハ信徒)

住所族職 氏 名

一功績事實及理由 何々ト明記スルコト
一證據 別紙寄附證寫若クハ調書又ハ何々ノ如シ

右ハ本派賞罰條例第何章何條何項ニ該當スルモノト相認候條御詮議ノ上相當ノ御行賞相成度此段具狀候也
何年何月何日

何府縣何宗務支所管理級氏名印
管長宛

懲誠具狀

肩書同上 級 氏 名

一所犯事實及理由 何々ト明記スルコト
一證據 別紙調書又ハ何々ノ如シ
右ハ本派賞罰條例第何章何條何項ニ該當ス

ルモノト相認候條御詮議ノ上相當ノ御處分相成度此段具狀候也
何年何月何日

支所管理 級 氏 名印
管長宛

賞狀下附願

何府縣宗務支所管内
何府縣何郡何町村大字何

何 寺 院

當寺本堂再建ノ義曩ニ出願許可ヲ得何年何月日届出ノ通り落成仕候就テハ該工事ニ關シ特志檀信徒ヘ相當御賞狀下附相成度別紙金額人名表相添ヘ此段連署ヲ以テ出願候也
年 月 日

連署人住職、檀徒總代
備考 本願書ハ宗務支所經由スルコト
管長宛

諸法令拔抄

○教師住職ノ罷免又ハ宗内擯斥及減免處分

其都度報告ノ件

(明治二十七年二月五日) 神佛各管長
内務省訓令第四號

【參照】三十年十月内務省訓令第九三一號
自今教師僧侶ニ對シ教規宗制等ニ規定セル懲戒法ニヨリ教師住職ヲ罷免シ又ハ宗内擯斥ノ處分ヲ爲シタルトキ若クハ右處分ノ後更ニ減免等前懲戒ニ關スル處分ヲ爲シタルトキハ其人名處分及事由ヲ略記シ其都度届出ツヘシ

○同上報告記載事項ノ件

(明治二十八年一月十一日) 神佛各管長
社寺局通牒發第二三號

其宗教所屬教師懲戒處分届出ノ儀ハ自今總テ懲戒申渡書ノ謄本ヲ添ヘ左記ノ事項詳細御報告相成度此段及通牒候也
一 懲戒スヘキ所爲
一 懲戒ノ理由

但裁判所又ハ警察署ニ於テ法律命令ニヨリ處分ヲ受ケタルカ爲メニ教師ヲ懲戒ニ處シタルトキハ其宣告

書又ハ言渡書ノ謄本ヲ添附スヘシ若シ之ナキトキハ其宣告又ハ言渡ヲ受ケタル裁判所又ハ警察署及年月日處分ニ適用シタル法律命令ノ條項並ニ罪名刑罰ヲ詳記スヘシ

一 懲戒ニ適用シタル教規宗制寺法ノ條項

○教師住職ノ犯罪者又ハ行政上妨害者ハ管長ヘ照會スヘキ件

(明治二十年一月六日) 道廳府縣宛
内務省訓令第一號

神佛教師及寺院住職タル者犯罪ノ處分ヲ受ケ若クハ行政上妨害ノ行爲アリト認ムルモノハ相當處分方直ニ該管長ヘ照會スヘシ

○同上管長ニ於テ取調相當處分スヘキ件

(明治二十年一月六日) 神佛各管長
内務省訓令第二號

教師及寺院住職タル者犯罪ノ處分ヲ受ケ若クハ行政上妨害ノ行爲アリト認メ地方廳ヨリ照會ニ及フモノハ取調相當處分ノ上其都度當省ヘ届出ツヘシ

○懲戒ノ赦免ハ教規宗制ノ明文ニ依ルヘキ件
(明治三十年十月十八日) 神佛各管長
内務省訓令第九十三號

同	十六等	金六拾五圓以上
同	十七等	金五拾五圓以上
同	十八等	金四拾五圓以上
同	十九等	金參拾五圓以上
同	二十等	金貳拾五圓以上
同	廿一等	金貳拾圓以上
同	廿二等	金拾五圓以上
同	廿三等	金拾圓以上
同	廿四等	金五圓以上
同	廿五等	金五圓未納
準	地	無收

第三條 寺院等級ノ昇進ハ管長ニ於テ正當ト認メタルトキ之ヲ許可シ降下ハ宗會大會又ハ小會ノ協賛ニ依ル

第四條 寺院等級ヨリ教師等級高キモノ住職セル寺院ハ管長ノ認可ヲ得テ一代限リ教師相當ノ寺格ニ準スル寺院等級ニ昇進スルコトヲ得

第三章 寺 格

第五條 本派寺院ノ寺格ヲ左ノ通り定ム

一	別格本山
二	準別格本山
三	常法談林
四	談 林
五	準談林
六	格 院
七	平格院
八	末 寺
九	門 徒

第六條 寺格ハ寺院等級ニ依リ左ノ通り管長ノ認可ヲ得テ之ヲ公稱ス

特等一等二等三等	別格本山
特等四等五等	準別格本山
等地一、二、三、四、五等	常法談林
等地六、七等	談 林
等地八等	準談林
等地九、十等	格 院
等地十一、十二、十三等	平格院

等地十四、十五、十六、十七等 末 寺
等地十八等以下 門 徒

第七條 従前公稱セル寺格ハ其寺等級ニ合致スルモノニ限り依然之ヲ公稱ス

第八條 従前公稱セル寺格ニシテ其寺等級ヨリ高キトキハ之ヲ公稱スルコトヲ得スシテ其寺等級相當ノ寺格ヲ公稱スヘシ

前項ノ寺院ニシテ將來等級昇進シタルトキハ従前公稱セル寺格迄ハ禮祿ヲ要セスシテ其等級相當ノ寺格ヲ公稱スルコトヲ得

第九條 従前公稱セル寺格ニシテ其寺等級ヨリ卑キトキハ管長ノ許可ヲ得テ其寺等級相當ノ寺格ニ昇格シ之ヲ公稱ス

前項ノ許可申請ニ際シ當該本寺ハ之ヲ故障スルコトヲ得ス

但シ本條例第二條ノ標準收入ナキトキハ此ノ限リニアラス

第十條 第八條ニ該當スル寺院ニシテ五ケ年以内ヲ期シ收入増加ノ方法ヲ確立スルモノニ限り管長ハ宗會小會ノ協賛ニ依リ其寺格公稱ヲ該期間認可スルコトヲ得

第十一條 第八條ニ該當スル寺院ニシテ該寺法流上特別ノ緣故又ハ歷史上顯著ノ事蹟ヲ有スル爲メニ其寺格公稱ノ必要アルモノハ管長ハ宗會小會ノ協賛ニ依リ之ヲ認可スルコトヲ得

但シ該寺ニ收入増加ノ方法ヲ講セシメ將來等級昇進セシムルコトヲ要ス

第四章 法 流

第十二條 本派寺院ハ門徒ヲ除クノ外總本山ノ法流ヲ相傳スルモノトス

但シ其寺傳來ノ法流アルモノハ此限リニ非ス

第十三條 本條例施行細則ハ管長別ニ之ヲ定ム

●本派朝鮮寺院取扱法(大正四年十二月二十三日教令第十四號)

第一條 朝鮮總督府令第八十二號神社寺院規則發布セラレタルニ付本取扱法ヲ定ム

第二條 同規則第二條ニ依リ管長ノ承認書ヲ申請スルトキハ同條各號ヲ明記シ所轄支所管理ノ奥印進達ヲ要ス

同規則附則ニ依リ現在寺院カ該條ノ手續ヲ爲ストキ又同シ

第三條 前條第二項ノ本派寺院ハ同規則第十二條ノ現檀信徒總代届及ヒ第十三條ノ現在不動產寶物届ハ前條第二項ノ手續ト同時ニ爲スヘシ

第四條 同規則第十四條ノ本派寺院財產臺帳ハ本派宗規第十七號寺有財產保管條例及同條例施行細則ニ依リ作成届ヲ要ス

第五條 同規則第十七條ニ依リ管長ノ意見書ヲ申請スルトキハ事實詳細調書ヲ添附シ所轄支所管理ノ奥印進達ヲ要ス

第六條 同規則第十八條ノ各届出ト同時ニ所管支所管理ヲ經由シテ本派宗務所ニ届出ツヘ

第七條 同規則及本取扱法以外ノ寺院ニ關スル事ハ内地寺院取扱法ヲ準用ス
以 上

●本末規則

第一條 總本山智積院ハ本派ノ源泉タルニ依リ寺院及僧侶ハ同山ノ維持及教學振興ニ關シ
テハ至誠以テ責務ヲ盡スヘシ

第二條 本寺住職ハ法資教育布教傳道寺門興隆等ニ専心努力シ門末寺院ノ模範タルヘシ

第三條 本寺住職ハ門末寺院財産什器ノ保管及寺務ノ勤惰ヲ監督ス

第四條 本寺住職ハ門末寺院住職ノ行爲不良ナルトキハ説諭ヲ加ヘ尙悔悟セサルトキハ其
事實ヲ宗務所ニ具申ス

第五條 本寺住職ハ門末寺院住職及後任候補者選定ニ關シ公正ヲ主トシ宗憲宗規ニ牴觸セ
サル限リハ古來ノ縁習ニ依リ干與スルコトヲ得

第六條 門末寺院住職任命ノ際地方本寺ヘ納ムヘキ繼目禮祿ハ左ノ標準ニ依ル
但公稱寺院ハ各派關係寺院取扱法ノ規定ニ依ル

等地一等 金七圓五拾錢
同 二等 金七圓

同	三	等	金六圓五拾錢
同	四	等	金六圓
同	五	等	金五圓五拾錢
同	六	等	金五圓
同	七	等	金四圓五拾錢
同	八	等	金四圓貳拾五錢
同	九	等	金四圓
同	十	等	金參圓七拾五錢
同	十一	等	金參圓五拾錢
同	十二	等	金參圓貳拾五錢
同	十三	等	金參圓
同	十四	等	金貳圓七拾五錢
同	十五	等	金貳圓五拾錢
同	十六	等	金貳圓
同	十七	等	金壹圓五拾錢
同	十八	等	金壹圓
同	十九	等	金五拾錢

- 同 二十等 金參拾七錢五厘
- 同 二十一等 金貳拾五錢
- 同 二十二等 金貳拾五錢
- 同 二十三等 金貳拾五錢
- 同 二十四等 金貳拾五錢
- 同 二十五等 金貳拾五錢

第七條 門末寺院ニシテ其本寺ヨリ寺格及寺院等級高等ナルモ其本寺ニ對スル禮節及法要
其他ノ儀式ハ從前ノ慣例ニヨル

第八條 門末寺院ハ其本寺カ維持又ハ寺格保存ノ爲メ基本金ヲ募集セントスルトキハ同心
協力スヘシ

第九條 本末ニ關スル必要ノ規約ハ本末ノ協議ヲ以テ管長ノ認可ヲ得ヘシ

●根來山大傳法院寺法

根來山大傳法院ハ興教大師唱寂ノ靈地ニシテ新義真言宗智山派同豊山派ニ屬スル寺院ナル
ヲ以テ茲ニ智豊兩派管長商議ノ上祖山ノ慣例ニ基キ時運ニ鑑ミ左ノ六章十二條ヲ協定シ以
テ根來山大傳法院ノ寺法ト爲ス

第一章 總 則

第一條 根來山大傳法院ハ大本山ト稱シ新義真言宗智山派同豊山派ノ兩派ニ於テ共同維持
スヘキモノトス

第二章 住 職

第二條 大傳法院ニハ專任住職ヲ置カス智豊兩山管長各滿二ケ年宛輪次交替ニテ兼務スル
モノトス

第三條 大傳法院住職ハ古規ニ依リ座主ト稱ス

第三章 末 寺

第四條 大傳法院ノ末寺々院ハ別表ノ如ク智豊兩派ニ分屬シ各派ノ宗制寺法ニ依リ之ヲ統
理ス

但シ大傳法院ト其末寺トハ智豊兩派カ宗制寺法ニ依リ各派内ニ於テ末寺ヲ有スル寺院
其末寺トノ間ニ有セシメタル權義ト同一ノ權義ヲ有セシム

第四章 執 事

第五條 大傳法院ニ執事二名ヲ置キ座主ヲ補佐シテ大傳法院ノ事務ヲ處辨セシメ其任期ハ
滿二ケ年トス

但シ再任ヲ妨ケス

第六條 執事ノ内一名ハ智山派管長ニ於テ一名ハ豊山派管長ニ於テ各其派内權中僧都以上
ノ者ノ中ヨリ薦舉シ座主ノ名義ヲ以テ之ヲ任命ス

第七條 智山派管長座主タル間ハ豊山派管長薦舉ノ執事主任トナリ豊山派管長座主タル間ハ智山派管長薦舉ノ執事主任トナリ事務ヲ擔當スルモノトス

第八條 智山派管長薦舉ノ執事ハ其執事タル間山内律乘院ニ住職又ハ兼務住職豊山派管長薦舉ノ執事ハ其執事タル間同蓮花院住職又ハ兼務住職ニ就職スルコトヲ得

第九條 執事ニ於テ不都合ノ行爲之アルトキハ各其薦舉ノ區分ニ依リ所屬宗派ノ懲罰條例ニ照シ之ヲ處分ス

第五章 會計

第十條 大傳法院ノ經費ハ歲計豫算ヲ以テ座主之ヲ定メ智豊兩派管長ノ承認ヲ經ヘキモノトス

第十一條 大傳法院ノ基金ノ保管法及會計ニ關スル細則ハ座主之ヲ定メ智豊兩派管長ノ認可ヲ經ヘキモノトス

第六章 補則

第十二條 本寺法實施ニ付必要ナル細則ハ座主ニ於テ之ヲ定メ智豊兩派管長ノ認可ヲ經テ行フヘキモノトス

●興教大師誕生院復興之件(大正二年十月二十四日智豊聯達第二號)

新義眞言開祖興教大師誕生ノ靈蹟ハ久シク廢絶ニ歸シ居リタル處地方有志復興事業ヲ經營

セルヲ以テ昨年十月兩派宗務長ヲ特派シ地ヲ相シ事務所ヲ設ケ庭園ヲ修メ五輪塔ヲ安シ記念碑ヲ建テ第一期工事全ク竣工セリ依テ千歲一遇ノ好期ニ際シ該靈蹟ニ於テ來ル十一月十五日記念法要ヲ勤修スヘキニ付本派ノ僧侶ハ勿論檀信徒タルモノ參拜ヲ遂ケ報恩謝徳ノ誠ヲ致スヘシ

●誕生院復興認可ノ件

聯達

大正三年六月智豊兩化主ヨリ佐賀縣知事へ出願セシ同縣藤津郡鹿島町誕生院復興願ノ件八月三十日附ヲ以テ文部大臣ヨリ認可ヲ得タル旨其筋ヨリ通牒有之候條右聯達ス

大正六年九月十五日

豊山派宗務所
智山派宗務所

文部省佐宗一四號

佐賀縣藤津郡鹿島町誕生院復興ノ件該縣知事ノ伺ニ對シ今回別紙ノ通り條件ヲ附シ特ニ認可相成候處將來本堂ニ充ツヘキ講堂ノ建設費並ニ該院ノ維持費處辨方ニ付テハ貴派ニ於テ其ノ一部負擔ノコトニ決定ノ旨御副申ノ趣モ有之同院ハ貴派ニ對シテハ特別ノ關係有之候次第ニ付右講堂建設費ノ支出并ニ維持費補助ノ永續ニ付テハ十分確實ヲ保證シ該

寺ニ於テ右條件ヲ履行スルニ努メシムルハ勿論向後寺院ノ維持ニ付テハ豊山派ト協力シ充分ノ注意ヲ加ヘラレ度依命此段申進候也
大正六年八月三十日

文部省宗教局長 柴田駒三郎

新義真言宗智山派管長伊藤宗盛殿
佐宗一四號

大正三年十二月八日附收佐學第三〇三四號伺寺院復興ノ件認可ス

但講堂ヲ滿五年以内ニ建設シ且同寺ニ少クトモ金五千圓以上維持資金ヲ蓄積スヘシ右履行セサルトキハ復興許可ヲ取消スコトアルヘシトノ條件ヲ附スヘシ

大正六年八月三十日

文部大臣 岡田良平

●誕生院寺法認可ノ件

聯達

佐賀縣藤津郡鹿島町誕生院寺法本年五月十九日附主務大臣へ認可申請ノ處六月九日左記ノ通り認可セラレタリ
右聯達ス

大正八年六月十三日

新義真言宗智山派管長

大僧正 大江存良

新義真言宗豊山派管長

大司教大僧正 早川快亮

●密嚴山誕生院寺法

佐賀縣藤津郡鹿島町密嚴山誕生院ハ興教大師聖誕ノ靈蹟ニシテ新義真言宗智豊兩派所屬ノ大本山根來山大傳法院ノ末寺ナリシモ永祿元年兵燹ニ罹リテ殆ント廢滅ニ歸セシヲ大正六年八月三十日主務官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ復興シタルヲ以テ茲ニ兩派管長商議ノ上左ノ條項ヲ協定シ誕生院ノ寺法ト爲ス

第一章 總則

第一條 誕生院ハ新義真言宗智山派同豊山派ノ兩派ニ於テ共同維持スルモノトス

第二條 誕生院ハ大本山根來山大傳法院ノ末寺ニ屬シ之レヲ別格本山トス

第二章 住職

第三條 誕生院ニハ智豊兩派ノ教師ヲ以テ各派交代ニ住職セシムルモノトス

第四條 誕生院住職ハ任期ヲ定メス辭任死亡其他ノ事由ニ由リ缺員トナリタルトキハ前條

ニ依リ交代スルモノトス

第五條 誕生院住職ハ其教師所屬ノ管長ニ於テ其派ノ宗制宗規ニ依リ之ヲ任命シ兩派互ニ通牒スルモノトス其辭任、死亡等ノ場合亦同シ

第六條 誕生院住職ニ對スル賞典又ハ懲戒ハ兩宗派管長協議ノ上住職所屬宗派管長ニ於テ其派ノ宗制宗規ニ依リ施行スルモノトス

第七條 誕生院住職任命ニ對スル禮祿金ハ之ヲ徵收セス

第八條 誕生院住職ハ寺ヲ代表シ寺務及法要執行ノ責ニ任ス

第九條 住職ノ職務ニ關シテハ本寺法ニ定ムルモノノ外住職所屬宗派ノ宗制宗規ヲ遵由スヘキモノトス

第三章 評議員

第十條 評議員ハ智豐兩派教師中各二名宛外ニ誕生院ニ對シ特殊ノ關係又ハ功勞アル信徒中ヨリ若干名ヲ兩派管長協議ノ上之ヲ選定ス

第十一條 評議員ハ誕生院ニ關スル重要ノ件ヲ議決ス

第十二條 評議員ハ何時タリトモ誕生院ノ財産及事務ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

第十三條 評議員ノ任期ハ參ヶ年トス任期中辭任死亡其他ノ事由ニ依リ缺員ヲ生シタルトキハ第十條ノ規定ニ依リ補缺員ヲ選定ス補缺員ノ任期ハ前任者ノ殘任期トス

第四章 會計

第十四條 誕生院ノ經費ハ住職ニ於テ歲計豫算ヲ以テ評議員ノ議決ヲ經テ之ヲ定メ智豐兩派管長ノ承認ヲ受クヘシ

第十五條 誕生院ノ寺有財産管理及會計ニ關スル規則ハ住職ニ於テ評議員ノ議決ヲ經テ之ヲ定メ智豐兩派管長ノ認可ヲ經ヘキモノトス

第五章 補則

第十六條 本寺法ヲ改正増補ヲ要スルトキハ智豐兩派管長協議ノ上主務大臣ノ認可ヲ得ヘキモノトス

第十七條 本法施行ニ付必要ナル細則ハ住職ニ於テ評議員ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ智豐兩派管長ノ認可ヲ受クヘシ
以上

諸法令抄

(明治十一年二月一日)府縣宛
(內務省達乙第八號)

○離末本寺換ニ關シ届出及願出ノ件
離末本寺換之儀是迄各寺ヨリ管轄廳へ出願致管轄廳ヨリ

當省へ何來候處自今同宗派内之分ハ本末寺協濟之上新舊本寺承諾之書面相添管轄廳へ爲届出其都度當省へ届出候儀ト可心得此旨相達候事
但他宗派へ附屬候向ハ從前ノ通タルヘシ

宗規第十四號

住職任免條例

(明治三十八年十一月二十三日發布大正三年六月八日修正發布大正八年二月二十六日教令第一號修正發布)

第一章 總則

第一條 本條例ハ宗憲第十二章第六十五條ニヨリテ之ヲ定ム

第二條 寺院住職タルヘキ者ハ左ノ標準ニ依ルモノトス

寺院等級	特二、三、四、五	等地一、二、三、四、五	同六、七、八	同九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八
寺格	別格 本別格 准別格 常談 法談 林談 林准談 林格 院平格 院末 寺末 寺門 徒	本別格 本別格 常談 法談 林談 林准談 林格 院平格 院末 寺末 寺門 徒	同六、七、八	同九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八
教師等級	權少僧 正以上 大僧都 以上 權大僧 都以上 中僧都 以上 權中僧 都以上 少僧都 以上 權少僧 都以上 律師 以上 師權律師 以上 師試 以上 補	權少僧 正以上 大僧都 以上 權大僧 都以上 中僧都 以上 權中僧 都以上 少僧都 以上 權少僧 都以上 律師 以上 師權律師 以上 師試 以上 補	同六、七、八	同九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八

第二章 住職任免

第三條 總本山住職ハ管長之ニ充ルヲ以テ別ニ任免ノ手續ヲ要セス

第四條 寺院ノ住職ハ左項ノ規定ニ從ヒ任命ヲ申請シ又ハ管長之ヲ特任ス

第一項 現住職アルトキハ現住職ニ於テ現住職ナキトキハ其寺法類總代人ニ於テ法類多數ノ意見ニ依リ組寺總代人(未寺アルトキハ未寺總代人ヲ加フ)ノ同意ヲ得テ該寺相當資格アルモノヲ選出シ住職任命ヲ申請スヘシ

第二項 後任候補者認可ヲ得タル寺院ニシテ其住職死亡退隱轉任又ハ懲誠罷免ノトキハ該候補者ヲ該寺相當ノ教師ニ昇進シ得ルモノニ限り現住職又ハ法類總代人ノ申請ニ依リ住職ヲ任命ス

第三項 前項候補者ニシテ該寺相當ノ教師ニ昇進スル能ハサルトキハ第一項ニ依リ住職ノ任命ヲ申請スヘシ

第四項 前各項ノ場合ニ於テ住職缺員期間滿三ヶ月ヲ經過スルトキハ管長ハ直チニ住職ヲ特任スルコトヲ得

第五項 第一項第三項ノ場合ニ於テ申請ニ關シ異議ヲ生シタルトキハ管長ニ具狀シ裁定ヲ請フヘシ

第六項 前項裁定後滿一ヶ月ヲ經過スルトキハ管長ハ直ニ住職ヲ特任ス

第五條 第四條ノ第一項第二項第三項ノ請願ハ總本山直末寺院ニ係ルモノハ其本山ノ副書ヲ要シ別格本山以下ノ末寺ニ關スルモノハ各其本寺ノ連署ヲ得管理與書ノ上差出スヘキモノトス

第六條 總テ住職ハ十八等地以上ノ寺院住職ヲ兼務スルコトヲ得ス(大正八年二月二十六日修正)

但シ特種ノ事情ニ依リ管長ニ於テ兼務住職ヲ任スルハ此限リニアラス

第七條 兼務住職ハ前條規定ノ場合ヲ除キ第二條標準ノ教師等級相當以下ノ寺院ヲ兼務スルコトヲ得

但シ末寺正住職ニシテ該本寺ノ兼務住職タルコトヲ得ス

第八條 兼務住職ハ本住職寺ヲ罷免セラレタルトキハ同時ニ兼務住職ノ資格ナキモノトス

第九條 兼務住職ハ其正住職寺ヨリ他ニ轉任スルニ際シ兼務ヲ辭シカタキ場合アルトキハ其旨ヲ具伸シ管長ノ許可ヲ得ヘキモノトス

第十條 左項ノ一ニ該當スル者ハ住職及兼務住職ニ任命セラル、コトヲ得ス

一 丁年未滿ノ者

二 癡疾ニ罹リ其住職ニ堪ヘサルモノ

三 宗規ニ定ムル資格ナキモノ

四 性行不良ニシテ其任ニ堪ヘサルモノ

五 降級以上ノ懲戒處分ヲ受ケ爾後一ケ年ヲ經過セサルモノ

六 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノ

第十一條 懲戒ニ依リ住職停職ノ處分ヲ受ケ又ハ住職缺員ヲ生シ專務住職ノ任命ニ至ル間必要ト認メタルトキハ管長ニ於テ臨時兼務住職ヲ命スルコト得

但シ臨時兼務住職ハ三ケ月ヲ期限トス(大正八年二月二十六日教令第一號ヲ以テ本但書ヲ加フ)

第十二條 甲寺住職乙寺ヘ轉住ノ場合ハ必ス甲寺ノ後住職ヲ選定シ轉住願ト同時ニ出願セシム

第十三條 兼務ハ任命ノ日ヨリ滿三ケ年ヲ期限トシ滿期二ケ月前ニ關係人ヨリ住職任命ノ申請ヲナスヘシ

第十四條 住職ニシテ左項ノ一ニ該當スルモノハ法類總代人ノ申請ニヨリ住職ヲ罷免ス

一 醫師ヨリ精神病者トシテ癡疾ト診斷セララルモノ

二 失踪届出ノ後六ケ月ヲ經過スルモ所在不明ノモノ

第十五條 前諸條ノ外住職選定ニ關シ必要ノ規定ハ管長別ニ之ヲ定ム

附 則

第十六條 從來兼務住職ニシテ二ケ年以上經過セル者ハ本條例改正施行後三ケ月以内ニ更ニ任命ノ申請ヲ爲スベシ其期間内ニ申請ヲ爲サルモノハ失格スルモノトス(大正八年二月廿六日教令第一號發布)

●住職任免條例施行細則(大正四月八月教令第六號發布大正六年十一月三日教令第四號修正大正八年二月二十六日教令第一號修正)

第一條 本細則ハ宗規第十四號住職任免條例第十五條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 管長欠員ノ場合ハ管長事務取扱ヲ以テ總本山化主事務取扱ニ充ツ(大正六年十一月三日教令第四號修正)

第三條 住職後任選定及ヒ任命申請ノ主任ハ現住職アルトキハ現住職トシ現住職ナキトキハ法類總代人トス

第四條 前條選出及申請ハ主任者ニ於テ其寺相當ノ教師ヲ法類多數ノ意見ニヨリ選出シ

(末寺アル寺院ハ末寺總代人)組寺總代人ノ同意ヲ得本寺ノ連署ヲ請ヒ(總本山直末ハ其副仲)

第五條 住職任命申請書ニ檀信徒總代人ノ連署ヲ要セスト雖モ前條選出ニ際シテハ主任者

ヨリ其選出シタル教師ノ氏名等ハ之ヲ檀信徒總代人ニ告クルコトヲ要ス

第六條 後任候補者認可登録申請ノ手續ハ住職任命申請ニ準スヘシ

第七條 後任候補者ハ其寺等級相當以上ノ教師及ヒ壹級又ハ貳級卑キ教師ニ限ル

第八條 後任候補者登録アル寺院ニシテ現住職死亡、退、轉又ハ罷免ノ時ハ後任候補者タルモノ猥ニ其登録ヲ取消シ若クハ辭任ヲ申請スルコトヲ得ス

第九條 本條例第四條第四項第六項ノ場合ニハ宗務所ニ於テ其寺關係人ニ豫告セスシテ直ニ住職特任ノ手續ヲ執行ス

第十條 十八等地以上ノ寺院ニシテ特殊ノ事情アリテ專務住職任命ヲ申請スル能ハサル旨具伸スルトキハ調査ノ上兼務住職ヲ任命スヘシ

但シ實況調査ノ爲派出スルコトアルヘシ其實費ハ該寺ノ負擔トス

第十一條 本條例第八條ノ場合ニハ別ニ辭令ヲ用ヒスシテ兼務住職ノ資格ヲ失フモノトス

第十二條 本條例第十三條兼務住職任期滿了後任住職任命申請ヲ爲サスシテ三ヶ月ヲ經過スルトキハ本條例第四條第四項ヲ適用ス

第十三條 住職死亡ノ際ハ後任候補者アルトキハ後任候補者ナキトキハ法類總代ヲシテ其寺役法儀ヲ取扱ハシメ寺有財産ヲ監守セシムルモノトス

第十四條 臨時兼務住職ハ本條例第十一條ニ依リ必要ノ場合ニ任命スルモノナレハ期限内ニ後任住職ヲ選定スヘシ任期滿了スルモ尙兼務總續ノ必要アルモノハ其事由ヲ具シ延期

ノ申請ヲナスコトヲ得(大正八年二月二十六日教令第一號修正)

第十五條 本細則中法類總代人トアルハ寺附法類アル寺院ハ寺附法類總代人トシ寺附法類ナキトキハ身附法類總代人トス若シ身附法類モナキトキハ法類資格條例施行細則第十五條ニヨルモノトス

第十六條 住職任命申請其他ノ書式左ノ通り定ム

○住職任免申請書(現住職ナキトキハ任免ヲ任命トスルコト)

何府縣何宗務支所管内

何府縣何市郡何町村大字何々

何々寺末

寺格等級

何々寺

一 現住職辭任 級氏名今回病氣、老衰職務ニ堪ヘス辭任又ハ轉任者ハ轉任先ヲ死亡セルトキハ其年月日ヲ明記スルコト

一 後住職選定 僧籍級氏名何年何月何日後任候補者登録聽許又ハ今回何府縣何市郡何町村本派何寺住職級氏名若クハ法資級氏名ヲ宗規及細則ニ依リ後任ニ選定ス

一 保障 該後任者ハ宗規第十四號住職任免條例第十條ノ各項ニ該當スル行爲無之右後任者履歷及誓約證相添ヘ御任免被成下度奉願候此段關係人及本寺連署(總本山副伸)ヲ以テ申請仕候也

大正年月日

右寺住職

級

氏

名印

右寺法類總代人、寺住職

級 氏

名印

右寺新任者身附法類總代人、寺住職

級 氏

名印

右末寺總代人、寺住職

級 氏

名印

右組寺總代人、寺住職

級 氏

名印

右本寺、寺住職

級 氏

名印

新義真言宗智山派管長

大僧正 殿

前書相違無之候ニ付與書進達候也

年月日

○履歷書

何宗務支所管理 級 氏

名印

(備考後任者他支所下ノモノナルトキハ其支所管理ノ回答書ヲ添附スルコトヲ要ス)

何府縣何宗務支所下

何府縣何市郡何町村何々寺住職又ハ法資

級 氏

名印

出生

本籍

現住所

行位

教師現級拜命

色衣

現任職任命 備考轉任、兼務ハ其兼務住職寺ヲ列記スルコトヲ要ス

役務

法資教育

寺門興隆

賞罰

右之通相違無之候也

年月日

右本人 級 氏 名印

(法資ハ師僧連名ノコト)

宗規及規則

○誓約證

參錢

私僧儀何々寺住職御任命ヲ蒙リ候上ハ宗憲宗規教令宗達ヲ遵守スルハ勿論本分ノ職責ヲ盡スヘク候特ニ宗費課金ハ徵集期日ニ無遲息必ス納金可仕候萬一違背候節ハ御教命ニ隨順シ且ツ御處分ニ對シ決シテ異議申間敷候仍テ保證人連署誓約證差上候也

右本人

級 氏

名印

右保證人

師僧 級 氏

名印

(師僧ナキトキハ法類、法類ナキトキハ相當ノモノタルコト)

新義眞言宗智山派管長

大僧正 殿

前書相違無之候ニ付奥書進達候也

年月日

何宗務支所管理

級 氏

名印

○後任候補者認可申請書

前顯住職任免申請書中現住職及後任者ノ項ヲ左ノ通り改メ其餘ハ同申請書ノ如シ

一 現住職 級氏名何年何月何日拜任

一 後任候補者 何府縣何市郡何町村何々寺住職又ハ法資

級 氏 名印

(右目下何々學院在學中又ハ何々ト現狀ヲ記スコト)

一 保障

右今回宗規細則ニ依リ後任候補者ニ選定仕候間御認可被成下度此段關係人及本寺連署(總本山副仲)ヲ以テ申請仕候也

以上

○兼務住職繼續許可申請書

何府縣縣宗務支所管内

何府縣何市郡何町村何々寺兼務住職

級 氏 名

一 現專務住職 何府縣何市郡何町村何々寺ヲ今回辭退

一 轉任專務住職 何府縣何市郡何町村何々寺へ今回轉任

一 兼務住職任命 何年何月何日任命

一 繼續事由 何々事由有之ニ付今回專務住職寺轉任御任命ヲ蒙リ候得共兼務住職任期來何年何月何日滿了マテ辭任致兼候

宗規及規則

右具伸仕候間兼務住職繼續御許可被成下度此段本寺連署(總本山副伸)ヲ以テ申請仕候也

年月日

右本人

級 氏

名印

右本寺、寺住職

級 氏

名印

新義真言宗智山派管長

大僧正 殿

(宗務支所奥印如例)

備考 細則第十二條同一人カ任滿後直ニ後任專兼務住職任命申請ノ場合ニハ詳細履

歷ヲ要セスト雖モ現兼務住職拜命後ニ於ケル該寺門ニ關スル維持興隆又ハ法資教

育等ノ略歷ヲ添附スルコトヲ要ス

●寺檀ノ間ニ紛議起ラザル様注意スヘキ件(明治三十九年甲第七號達)

住職進退ノ申請ニ付テハ檀信徒總代ノ連署ヲ要セスト雖モ關係者不行届ノ爲メ他日寺檀ノ間ニ紛議ヲ生スル如キコトアリテハ自然寺門ノ不利ナルノミナラス僧侶ノ威信ニ關シ大ニ不都合ニ候條深ク留意致スヘシ

●同上諭達 (大正八年八月一日)

諭達

派内一般

近來寺院住職相互間又ハ住職對檀徒間ニ紛議ヲ起シ是非ヲ法廷ニ争フモノ尠カラサルヤニ聞ク、甚タ憂フヘキ傾向ナリトス、如斯ハ僧侶ノ本分ニ悖ルハ勿論國民教化上多大ノ支梧ヲ生スヘキ儀ニ付自今住職カ本派寺院ヲ代表シテ訴訟ヲ提起セントスル場合ニハ豫シメ情ヲ具シテ管長ノ認可ヲ受クヘク若シ又タ他ヨリ起訴セラレタル場合ニハ其旨直ニ宗務所ニ届出ツヘシ

右諭達ス

大正八年八月一日

新義真言宗智山派管長

大僧正 大江 存 良

◎書 式

●寺務引繼届

何府縣何宗務支所部内
何府縣何市郡何町村何等地何
々寺住職

級 氏 名

何年何月何日住職拜命

宗規及規則

右ハ本派宗規第十七號寺有財産保管條例第十二條及同條例施行細則第七條ニ依リ別紙引繼目錄書ノ通り當寺寺有財産帳ト現在ノ寺有財産各種目物件ヲ照合シ(又ハ別紙之通り増減有之候間)該寺有財産帳ニ授受ノ連署證印及ヒ管理奥印ヲ受ケ申候且ツ當寺ノ寺務一切無事引繼ヲ了シ候ニ付別紙引繼目錄書相添へ此段連署御届申上候也

何年何月何日

右寺住職 級 氏 名印
關係人等連署調印ノコト
管 長 宛

支所奥印ノコト
引繼目錄書添付ノコト

●他支所へ照會ノ書式

貴支所管内何市郡何町村何寺住職級氏名
(又ハ法資級氏名)今回當支所管内何市郡何
町村何寺住職任命申請書提出相成候處貴支
所ニ支牒ノ有無及御照會候也
年 月 日

何府縣何宗務支所管理級氏名印
何府縣何宗務支所管理級氏名殿

●同回答

何月何日御照會相成候當支所管内何寺住職
級氏名(又ハ法資級氏名)今回貴支所管内何
寺住職任命申請書提出ノ赴キ當支所ニ於テ

支牒無之候條及回答候也
年 月 日

何府縣何宗務支所管理級氏名印
何府縣何宗務支所管理級氏名殿

●兼務住職任免書式

兼務住職任免申請書

宗務支所下

何々縣府縣府宗務支所下
何々縣府縣府宗務支所下
何々縣府縣府宗務支所下
何々縣府縣府宗務支所下

一現住職辭任 年月日任命級氏名兼務住職
中ノ處任期滿了又ハ何々ノ
理由ニ依リ辭任

一後任兼務住職選定 今回何府縣何郡市町
村何等地何々寺住職級氏名
ヲ宗規及細則ニ據リ兼務住
職ニ選定ス

一兼務ノ理由 別紙收支調書(三ヶ年平均

備考

別啓上申書ニハ各關係人ニ於テ正
當ト認メタル理由ヲ詳細記述スヘ
シ

別啓上申書收入調書共各關係人ノ
連署ヲ要ス
履歷書ハ住職任免申請書ニ添附ノ
モノト同様略歷ニテ可ナレトモ他
ニ數ヶ寺ヲ兼務セル者ハ一々列記
スヘシ

連署者住職任免申請書ニ同シ

●宗規第十五號

法類資格條例(明治三十八年十月二十八日認
可同年十一月二十三日發布)

- 第一條 本條例ハ宗憲第十三章第六十七條ニ依リ之ヲ定ム
- 第二條 本派ニ於テ法類ト稱スルハ寺附法類身附法類ノ二種トス
- 第三條 寺附法類トハ古來ノ緣故ニ依リ法類ト定メタル寺院トス
- 第四條 身附法類トハ左ノ各種ヲ以テス

第四師—第三師—第二師—第一師—己身—法資—法孫—法曾孫—法玄孫

「法兄弟—法資—法孫」
「法兄弟—法資」

「法兄弟」

第五條 寺附法類身附法類ハ其種別ニ依リ互選ヲ以テ總代一名ヲ定ムヘシ

但シ二種ノ法類ヲ合シテ總代一名ヲ定ムルモ妨ケナシ

第六條 法類總代ノ年限ハ滿三ケ年トス

第七條 法類名簿及ヒ總代届ハ宗務支所ヲ經テ宗務所ニ差出スヘシ

第八條 法類總代ハ法類寺院ノ願届等ニ連署スルモノトス

第九條 法類總代左ノ場合ニ於テ連署セントスルトキハ豫メ法類一同協議ヲ遂ケ其多衆意

見ニ依リ連署スヘシ

一 住職進退

二 寺院創立、再興、移轉、廢合

三 地所建物、什物、抵當、賣買其他實物古文書等財産ニ關スル件

第十條 寺附法類身附法類ノ其法類タル寺院ノ件ニ參與スル場合ニ於テハ差別ナシト雖モ

住職一身上及其遺產處分等ニツキテハ寺附法類ハ關係ナキモノトス

第十一條 身附法類ハ其法類タルモノ住職ヲ辭シ又ハ罷免セラレタルトキハ其寺ニ對シ法

類タル資格ナキモノトス

第十二條 本條例ニ關スル細則ハ管長別ニ之ヲ定ム

●法類資格條例施行細則(大正二年三月 教令第四號)

第一條 本細則ハ宗規第十五號法類資格條例第十二條ニヨリ之ヲ定ム

第二條 宗務所ニ寺附法類寺臺帳ヲ備置キ派内寺院ノ寺附法類寺ヲ登録ス

前項寺附法類寺臺帳ニ登録ナキモノハ宗規上寺附法類寺ト認メス

第三條 寺附法類寺アル寺院ハ寺附法願寺臺帳ニ別記第一號様式ニ依リ大正二年四月二十

日迄ニ登録ヲ申請スヘシ

前項登録申請ニ關シ異議アルモノハ速ニ其事由ヲ詳細ニ具申スヘシ

第四條 寺附法類寺ニ關シ異議アルトキハ本條例第三條ノ精神ニ照シ管長之ヲ裁定ス

第五條 寺附法類寺ナキ寺院ハ寺附法類寺ヲ要セス

第六條 寺附法類ニシテ其寺附法類寺院ノ事件ニ參與スルハ現住職一人ナリ

第七條 身附法類ハ本派僧籍(宗務所備附ノ僧名簿)ニ依リ師資法縁四等以內ヲ稱ス

第八條 身附法類ハ別記第二號様式ニ依リ大正二年四月二十日迄ニ宗務所ニ届出スヘシ

身附法類ハ住職交代ノ爲メ異動シ若クハ其他ノ事故ニ依リ人員ニ増減ヲ生シタルトキハ

其旨届出ツヘシ

第九條 寺附法類總代届及ヒ身附法類總代届ハ別記第三號様式ニ依リ大正二年四月二十日迄ニ届出ツヘシ

第十條 寺附法類、身附法類ヲ合シテ總代ヲ定ムルトキハ別記第四號様式ニ依リ法類總代届ヲ大正二年四月二十日迄ニ差出スヘシ

第十一條 寺附法類總代届、身附法類總代届ニ際シ寺附法類タル寺院ニケテ寺若クハ身附法類二人ナル場合ニハ相互ニ總代トシテ届出ルコトヲ得

第十二條 身附法類ハ教師試補以上ニアラサレハ其總代ノ選舉人タルヲ得ス一寺住職以上ニアラサレハ其總代被選舉人タルコトヲ得ス

第十三條 寺院住職死亡ニ際シテハ寺附法類身附法類共ニ其寺院ノ事件ニ參與スヘシト雖モ寺有財産ニ關シテハ寺附法類アル寺院ハ寺附法類總代ヲ主任トシ寺附法類ナキ寺院ハ身附法類總代人ヲ主任トス

第十四條 寺院住職死亡シタルトキ其身附法類カ其法類寺ニ對シ法類タルノ資格ヲ失スルハ後任住職任命ノ結果異法類トナリタル以後トス

第十五條 寺附法類身附法類共無之寺院ハ宗規上法類ニ關スル事項ハ左ノ各項ニ依リ之ヲ取扱フモノトス

- 一 末寺アル寺院ハ末寺トス
- 一 末寺アラサル寺院ハ本山本寺トス

但シ本山本寺遠隔等ノ爲メ從來慣例アルトキハ本山本寺ノ承認ヲ得テ届出ツル者ニ限リ其慣例ニ依ルコトヲ得

第十六條 總本山及東京芝真福寺ハ寺附法類及身附法類ヲ要セス

第十七條 法類ノ關係アルトモ他派ノ寺院及僧侶ニ屬スルモノハ宗規上法類ト認メサル者トス

第十八條 寺附法類身附法類共ニ必要ノ規約ヲ定メ本寺ノ連署ヲ要シ管長ノ認可ヲ得テ實施スヘシ

第十九條 寺附法類身附法類等ノ届出様式ハ左ノ如シ
第一號様式

寺附法類寺登録申請書

何府何宗務支所下

何府何市何町字

何々寺末

何山派何等地寺格

右寺古來ノ縁故ニ依リ左記寺院ト寺附法類寺ノ關係有之候

何府何市何町何等地寺格

何ヶ寺ニテモ列記ノコト

右寺附法類寺臺帳ニ御登録被成下度此段關係人連署申請仕候也

大正二年 月 日

右何々寺住職

級 氏

名印

右寺檀徒總代人

氏

名印

氏

名印

右寺附法類寺

何々寺住職

級 氏

名印

以下何ヶ寺ニテモ寺附法類寺住職人連署ノコト

右寺身附法類總代人(身附法類ナキトキハ連署ヲ要セス)

何々寺住職

級 氏

名印

右寺末寺總代人(末寺ナキトキハ連署ヲ要セス)

何々寺住職

級 氏

名印

右寺本寺(本山ハ連署ヲ要セス本山副申ヲ添附ノコト)

何々寺住職

級 氏

名印

新義真言宗智山派宗務所

宗務長 級 氏 名殿

前書取調候處相違無之候ニ付奥印進達候也

何縣何宗務支所管理

級 氏

名印

大正 年 月 日

第二號様式

身附法類届

何縣何々宗務支所下

何縣何市何町字

智山派何等級寺格 何々寺住職

級 氏

名

右身附法類四等以内左ニ記載ノ通りニ有之候尤モ師資法縁系圖ヲ別紙ニ添附仕候
(備考 師資法縁系圖本條例第四條本細則第八條ニ依リ調製スヘシ)

何縣何市何町字何々寺住職

一等法類 級 氏 名

右御届申上候也

以下四等法類マテ準記ノコト

同上 何寺住職級氏名法資
二等法類 級 氏 名

右何々寺住職

級 氏

名印

大正 年 月 日

新義真言宗智山派宗務所

宗務長 級 氏 名殿

第三號様式

寺附身附法類總代人届

何府何宗務支所下

何縣何市何町何字何

何々寺附身附法類總代人

何市何町何字何々寺住職

級 氏

名

右選定仕候間此段連署御届申上候也

右何々寺住職

大正二年 月 日

選舉主任 級 氏

名印

右寺附身附法類何寺住職

選舉人總代 級 氏

名印

但シ別記第二號様式ニ依リ二名以上連署スルモ可ナリ

新義真言宗智山派宗務所

宗務長 級 氏 名殿

宗務支所奥印進達様式同前

第四號様式

法類總代届

何府何々宗務支所下

何縣何市何町何字

智山派何等地寺格

何々々 寺

右寺附法類及住職身附法類聯合シテ右寺法類總代ヲ左ノ通り選定仕候間此段連署御届申上候也

何府何市何町何々寺住職 級 氏 名

右連署御届申上候也

右何々寺住職

大正 年 月 日

選舉主任 級 氏 名印

右寺附法類
何々寺住職

選舉人總代 級 氏 名印

右身附法類
何々寺住職

選舉人總代 級 氏 名印

新義真言宗智山派宗務所

宗務長 級 氏 名殿

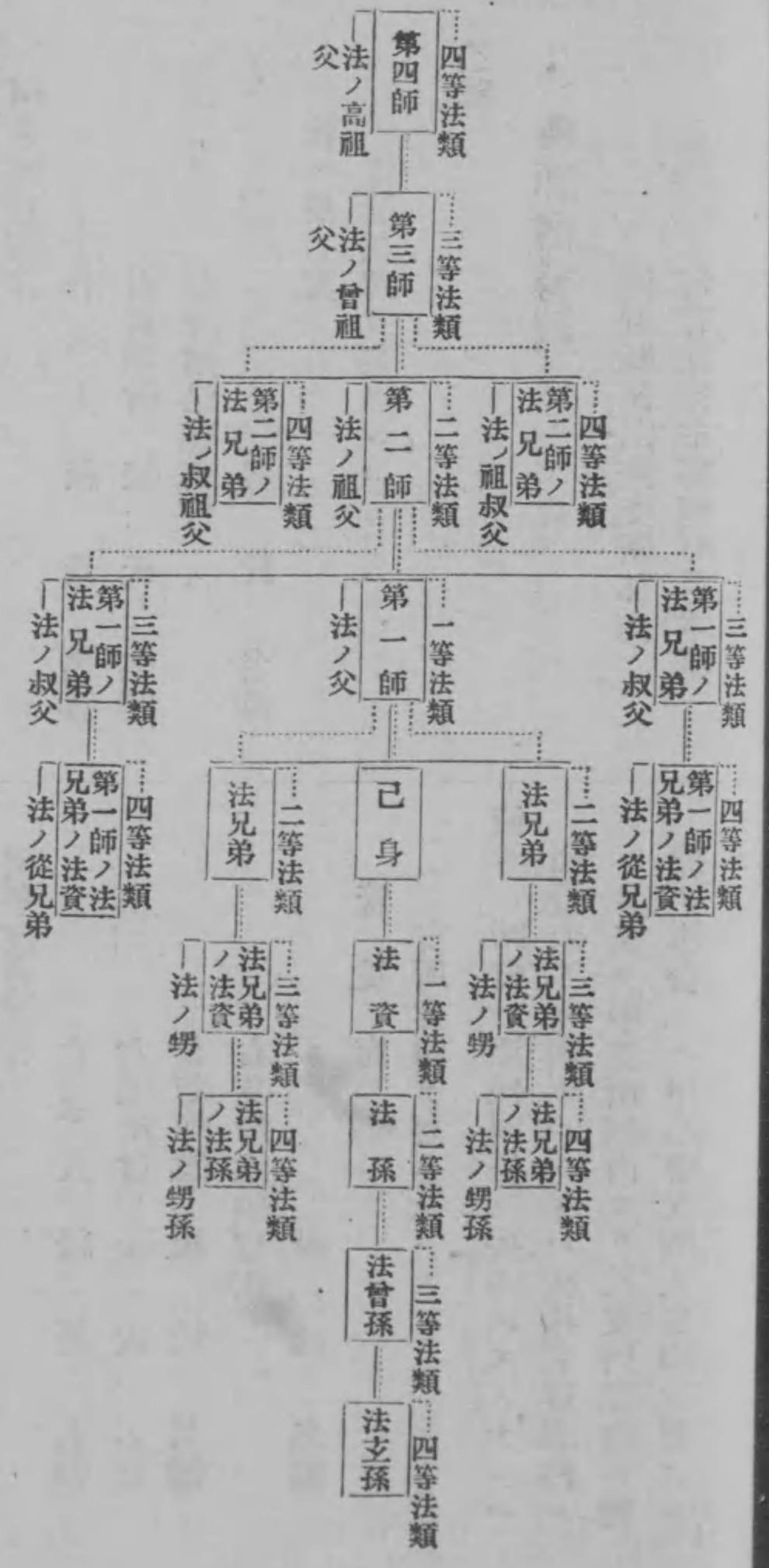
宗務支所與印進達樣式同前

第二十一條 本細則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ實施ス

●身附法類四等内系圖(大正二年四月 告示第六號)

宗規第十五號法類資格條例第四條身附法類及ヒ本年教令第四號法類資格條例施行細則第八條師資法緣四等以内ノ系圖ハ左表ニ依リ調製セラルヘシ

但シ死亡者ハ列記ニ及ハスト雖トモ法類等數上系圖ニ記入スル場合ニハ亡字ヲ冠記ノコト



●書式

甲號

●師僧替屆

宗規及規則

何府縣何宗務支所部内

何府縣何市郡何町村本派

何寺前住職亡級氏名法資

度牒拜受 級 氏 名

年 月 日

右拙僧儀師僧級氏名何年何月何日死亡ニ付法類ノ縁故ニ依リ(又ハ協議ノ上)何府縣何市郡何町村本派何寺住職級氏名ノ法資ト相成候條此段連署御届申上候也
何年何月何日

右本人 級 氏 名印
右新師僧 級 氏 名印
右身附法類總代 級 氏 名印

管長 宛
支所奥印ヲ要スルコト

乙號

●師僧替届

何府縣何宗務支所部内
何府縣何市郡何町村本派
何寺住職級氏名法資

年月日 度牒拜受 級 氏 名
右拙僧儀今回協議ノ上(又ハ何々ニ依リ)何府縣何市郡何町村本派何寺住職級氏名ノ法資ト相成リ候ニ付此段連署御届申上候也
何年何月何日

右本人 級 氏 名印
右元師僧 級 氏 名印
右新師僧 級 氏 名印
右身附法類惣代 級 氏 名印

管長 宛
支所奥印ヲ要スルコト

備考 師資ハ深縁關係ヲ要スルモノナレハ法資未丁年者ナルトキハ親權者連署然ルヘシ又タ甲支所部内ヨリ乙支所部内ニ轉籍ノ場合ニハ甲乙兩支所ノ奥印ヲ要スルコト

●轉派承認願

何府縣何宗務支所部内
何府縣何町村大字何々本派何寺前住職(又ハ住職級氏名法資)

級 氏 名

右私儀何府縣何市郡何町村新義眞言宗豐山派(又ハ眞言宗何派)何々寺住職級氏名ノ法資ト相成候ニ付同宗派ニ轉籍御承認被下度禮祿相添へ此段連署願上候也
年月日

右本人 級 氏 名印
右師僧(師僧ナキトキハ法類總代) 級 氏 名印
右新師僧 級 氏 名印

新義眞言宗智山派管長大僧正氏名殿
前書之通相違無之候ニ付奥書進達候也
年月日

宗規及規則

●略履歷證明願(貳通ヲ要ス)

何府縣何宗務支所管理級氏名印

私儀今回何宗何派へ轉籍御承認ヲ蒙リ候ニ付テハ左記履歷項目御證明被成下度候
一教師等級 何級 何年何月何日新義眞言宗智山派管長ヨリ拜受
一色衣 何色何年何月何日同上ヨリ被着允可
一住職 何府縣何市郡何町村智山派何々寺住職任免何年何月何日辭任
一役務 何々何年何月何日何拜命何年何月何日辭任
一賞罰 共ニ無シ
備考 此ノ他必要ノ項目及行位等如例列記スヘシ
右御願申上候也

年月日

右本人 級 氏 名印
新義真言宗智山派宗務長級氏名殿
支所奥印ヲ要スル如前

●轉派入籍願

何府縣何派宗務支所部内
何府縣何市郡何町村大字何々
何宗派何寺前住職(又ハ住職
級氏名法資)

右私儀今回府縣何市郡何町村貴宗派何寺住職級氏名ノ法資ニ相成候ニ付貴宗派ニ轉派入籍御承認被成下度別紙履歷書戶籍謄本何宗派轉派證認書及禮祿金相添へ此段連署願上候也
年月日

右本人 級 氏 名印
右師僧(師僧ナキトキハ法類總代) 級 氏 名印
新義真言宗智山派管長大僧正氏名殿
支所奥印ヲ要スル如前

備考 轉派及轉派入籍ハ特ニ必要ヲ認ムルトキハ其事實ヲ調査シ充分詮議ノ上之ヲ許否セラルヘシ

●死亡届 (甲號)

何府縣何宗務支所部内
何府縣何市郡何町村本派何寺住職

右者何年何月何日何時何々病ニテ死亡候條別紙埋葬認許證寫相添へ此段御届候也
追テ本人兼務住職寺名ハ別紙之通りニ付添申仕候(尤モ兼住職寺ナキモノハ此ノ

追書ヲ要セス又ハ無之ト記スルモ可ナリ)

何年何月何日

右寺法類總代人何寺住職 級 氏 名印
右寺檀信徒總代人 級 氏 名印

管長宛

支所奥印ヲ要スルコト
備考 法類ナキトキハ末寺アル寺院ハ末寺總代末寺ナキ寺院ハ本寺住職人トス總本山直末寺院ハ組寺總代人ニテ然ルヘシ

●死亡届 (乙號)

肩書同上何寺住職級氏名法資

〔參考〕

○智山派僧侶死亡者届出ノ件

(明治三十四年三月十日番外達)

本派僧侶ニシテ死亡ノ者往々届出ヲ怠リ不都合不都合候條死亡ノ節ハ法類(法類無之者ハ組寺又ハ本寺)並ニ檀信徒總代又ハ信徒總代ノ連署ヲ要シ埋葬認許證ノ寫相添へ三日以内ニ訖度可届出

○師僧死亡後更ニ師僧相定メ届出ノ件

(明治三十四年三月一日番外達)

本派僧侶徒弟ニシテ師僧死亡後更ニ師僧ヲ定メス其儘ニ
差措者有之取扱上不都合不諳候條一寺住職任命以前ニ係
ルモノハ更ニ師僧相定メ可届出

○寺院ノ諸願實際法類ナキモノハ其連署ヲ

要セサル件 (明治三十年七月十九日) 府縣宛
十七年本省乙第三十七號達中寺院ニ關スル諸願ハ法類ノ
連署ヲ要スヘキ答ニ候處本願寺派別院ノ如ク本山住職ニ
於テ兼務シ實際法類無之向ハ其連署ヲ缺クモ無餘儀次第
ニ有之候條左様御了知相成度爲念此段及通牒候也

宗規第十六號 檀徒信徒取扱條例

(明治三十八年十月二十八日內務大
臣認可同年十一月二十三日發布)

第一章 總 則

第一條 本條例ハ宗憲第十四章第七十二條ニ依リ之ヲ定ム

第二章 檀 信 徒

第二條 寺院ニ檀徒名簿信徒名簿ヲ備ヘ置クモノトス

第三條 新ニ檀徒ニ加入センコトヲ望ム者アルトキハ住職ニ於テ本人ノ志望ヲ認諾シタル
上前條名簿ニ記入スヘシ

第四條 自ラ檀徒タルコトヲ罷メントスル者アルトキハ住職ニ於テ懇篤說諭ヲ加ヘ尙之レ
ニ應セサルトキハ名簿ヲ削除スヘシ

第五條 檀徒ニシテ左ノ一ニ該當スルモノハ住職ニ於テ管長ノ認可ヲ得テ檀徒タルコトヲ
拒絕シ其名簿ヲ削除スルモノトス

一 宗旨ニ反シテ異議ヲ唱フル者

二 故ナクシテ本山又ハ所屬寺院ノ維持及教學ノ發達ヲ妨害スル者

三 故ナクシテ他人ヲ教唆シ宗務本支所職員及所屬寺院住職ノ職務ヲ妨害スルモノ

四 猥リニ寺院所有ノ財産ニ干渉シ又ハ費消シ寺院外護ノ實ナキモノ

五 寺院住職ノ進退ニ關シ私意ヲ挾ンテ故障ヲ爲セシ者

六 懲誠ニ付シタル僧侶ヲ曲庇シ管長ニ反抗シ又ハ名簿ヲ解除セラレタル檀徒ニ加擔
シ住職ニ反抗スルモノ

第六條 寺院ニ於テ檀徒總代若クハ信徒總代ヲ定メタルトキハ其都度住職ヨリ宗務支所ヲ
經テ宗務所ニ届出ツヘシ

第七條 住職ハ毎年六月末日並ニ十二月末日ノ現在ニ依リ檀信徒ノ員數ヲ調査シ宗務支所
ヲ經テ宗務所ニ届出ツヘシ

第八條 本條例第二條乃至第六條ノ規定ハ信徒ニ準用ス

第九條 本條例施行ニ關スル必要ナル細則ハ管長別ニ之ヲ定ム

書 式

檀信徒惣代人改選届

甲號書式 ○檀徒(信徒)惣代人改選届

何府縣	何宗務支所管内
何府縣	何市町大字何々
何府縣	何郡何村何々
何府縣	何寺末 等 級
何府縣	檀徒(信徒)惣代人
何年何月何日就任	何 々 寺
何年何月何日任滿	氏 名

何年何月何日就任
何年何月何日死亡
何年何月何日就任
何年何月何日就任

氏 名
氏 名

右ニ付改選候處左之通り當寺檀徒(信徒)惣代人ニ當選就任仕候(又ハ右ニ付左ノ通當寺檀徒(信徒)惣代人ニ選出就任致候)

何市何町大字何々何番地戸主
何郡何村大字何々何番地戸主
何市何町大字何々何番地戸主
何郡何村大字何々何番地戸主
族職業
族職業
族職業
族職業

右御届申上候也

大正何年何月何日

右寺住職

級 氏 名
級 氏 名
級 氏 名
級 氏 名
名 名
名 名
名 名
名 名
右寺檀徒(信徒)惣代人 名 名

(新任惣代人氏名連記調印スベシ)

右選舉人惣代

(舊惣代人記名調印スベシ)

新義真言宗智山派宗務所

宗務長 級 氏 名殿

前書取調候處相違無之候ニ付奥印進達候也

大正何年何月何日

何々宗務支所管理 級 氏 名 名印

乙號書式 ○檀徒(信徒)惣代人改選届

何府何宗務支所管内

何府何宗務支所管内

何縣何郡何大字何々

何々々 寺

右寺檀徒(信徒)惣代人別紙之通改選就任候ニ付本日本町村長ニ届出候條此段御届申上候也

大正何年何月何日

右寺住職

新義真言宗智山派宗務所

宗務長 級 氏 名殿

前書取調候處相違無之候間奥印進達候也

大正何年何月何日

何宗務支所管理 級 氏 名 名印

別紙町村長宛届書式ハ前記甲號書式中何

何宗務支所管内及宛名ト奥書トヲ削除シテ

町村長宛トスヘシ

備考 檀信徒惣代人死亡其他缺員ヲ生シタルトキハ速ニ補缺選出スヘシ○任期中辭任ニヨリ改選シタルトキハ其辭表寫ヲ添附スヘシ○任期三ヶ年滿了ノトキハ改選スヘシ○任期滿了スト雖モ後任者選出就職スルマテハ檀信徒惣代人タル資格ヲ失ナハザルコト○正當ノ必要理由アルニアラサレハ猥リニ増員スヘカラス若シ増員

ラサレハ猥リニ増員スヘカラス若シ増員

ノ必要アルトキハ知事ノ認可ヲ得テ増員選出スヘシ

○檀徒(信徒)拒絕認可願

肩書同上 何寺檀徒又ハ信徒

住所族職 氏 名

年 齡

一事實及理由 何々ト明記スルコト

一證據 別紙調査又ハ何々

右ハ本派檀信徒取扱條例第何條何項ニ該當スルモノニ有之候ニ付キ檀徒(又ハ信徒)タルコトヲ拒絕致度候條御許可被成下度此段奉願上候也

何年何月何日

右寺住職 級 氏 名 名印

管 長 宛

支所奥印ヲ要スルコト

備考 賞罰ハ嚴正ナルヲ期セサルヘカラズ
 其具狀ニ際シテハ其事實及理由ト證據書
 類ヲ添附シ明確ナルコトヲ要ス又々檀信
 徒拒絕認可願ハ住職人タルモノ自己ノ職
 責ヲ願リミ最善ノ說諭ヲ盡スモ應セズ寺
 門教化ノ爲メ不得止場合ニ限り提出スル
 コトヲ要ス

●諸法令抜抄

○檀信徒總代人規程

(明治十四年七月廿一日) 府縣宛
 (內務省達乙第三三號)

各管内社寺總代人ノ儀氏子檀家中 氏子檀家ナキ
 產ヲ有シ衆望ノ歸スルモノ三名以上相選ミ戶長役場へ届
 出サセ今後該社寺ノ願届等ハ渾テ連署ヲ以可爲差出且社
 寺收入財產ハ 田畑山林ノ所得ハ勿論賽物祈禱
 屬スヘキモノト其神官住職ニ付スルモノトノ豫約每社寺
 適宜相定平素混亂セサル様取調方可爲致此旨相達候事
 但神宮官國幣社ハ非此限

總代人ハ滿三年毎ニ改撰市町村役場若クハ戶長役場へ届
 出ツヘシ尤モ期限中ト雖モ犯罪其他不長ノ所爲アルトキ
 ハ臨時改撰セシムヘシ

但臨時改撰ノ外ハ前總代人再三當撰スルモ妨ケナシ

○寺院檀徒取扱概則

(明治二十四年六月)
 (各宗協會定期大會議決錄寫)

- 第一條 左ノ各項ニ該當スル者ハ檀那ト稱スルコトヲ得
- 第一項 其宗旨ニ歸依シ教師ニ隨順スル者
- 第二項 其本山及檀那寺ノ維持ヲ補助スル者
- 第三項 其宗派ノ法式ヲ遵奉シ葬儀追善ヲ依託スル者
- 第二條 此概則ニ定メタル入檀トハ新ニ其宗派ノ檀那ト
 ナル者轉檀トハ同宗派内甲寺ノ檀那ニシテ乙寺ニ轉ス
 ル者離檀トハ其宗派寺院ヲ離レタル者ヲ云フ
- 第三條 入檀手續ハ左項ニ依ル
- 第一項 檀那タラントスル者アラハ其寺住職ハ本人ノ
 志念ヲ調査シ寺檀ノ契約ヲ假定シ其本山へ具狀シテ
 入檀證ノ下附ヲ請フヘシ
- 第二項 前項ノ場合ニ於テハ本山ハ其檀那寺ヲ經テ入
 檀證ヲ交附シ檀徒名籍ニ姓名ヲ記入セシム
- 第四條 左ノ各項ニ該當シ不得止ト認ムル者ハ轉檀ヲ許

容スヘシ

第一項 惣檀那ト意見ヲ異ニシ又ハ住職ト意見ノ折合
 ハサル場合

第二項 檀那寺ト其檀那ト居住地ヲ遠隔スル場合

第五條 離檀ヲ二類トシ其一ハ檀那ノ自ラ檀那寺ヲ離ル
 トナ謂ヒ其一ハ檀那寺住職ヨリ離檀狀ヲ附與スル者ヲ
 謂フ

第六條 自ラ離檀セントスル者ハ左ノ事情アル場合ニ限
 リ許容スヘシ
 其宗旨ニ歸依ヲ失シ教師ニ隨順シ能ハサル者

○總代改選届ニハ住職連署ノ件

(明治二十四年十二月十日) 府縣宛
 (內務書記官通牒管甲第三二號)

明治十四年當省乙第三十三號達中各管内社寺總代人ノ儀
 氏子檀家中 氏子檀家ナキ 相應ノ財產ヲ有シ衆望ノ歸スル
 者三名以上相選ミ戶長役場へ届出サセ云々トアルニ付總
 代人撰舉ノ届ニハ別段届出ノ式ヲ定メサルカ如クナレト
 モ該撰舉届モ社寺ノ届ニ屬スルヲ以テ無論神官若クハ住
 職ト現在ノ總代人ト連署シ届出シムヘキ筋ニ候條爲御心
 得此段及通報候也

○總代人一般改選ノ件

(明治二十四年六月九日) 逕應府縣
 (內務省訓令第五三五號)

社寺總代人ノ年限並改選方等ノ儀本年訓令第八號ヲ以テ
 明治十四年當省乙第三十三號達改正ニ付テハ右社寺總代
 人ノ儀ハ此際一般改選セシムル儀ト心得ラルヘシ

○總代員數制限及其權限ニ關スル件

(明治二十四年十二月十一日) 府縣宛
 (內務省訓令第一〇六三號)

社寺總代人ノ儀ニ付テハ明治十四年七月當省乙第三十三
 號及同二十四年五月訓令第八號等訓達ノ次第モ有之處該
 總代人ニ關シ尙左ノ如ク心得ヘシ

- 社寺總代人ノ員數ハ三名以上ノ成規ナリト雖モ徒ラニ
 多數ノ總代人ヲ設置シ之ガ爲メ事務ヲ滯滞セシムル等
 ノ弊害アリト認ムルトキハ其社寺ノ狀況ニ從ヒ氏子檀
 信徒ノ多寡ヲ計リ三名以上ニ於テ適宜總代人ノ員數ヲ
 指定スルコトヲ得
- 社寺總代人ハ其社寺ノ願届等ニ連署シ神官住職ト常ニ
 心ヲ協セ該社寺ノ永續保護ニ盡力スヘキハ勿論ナレト
 モ社寺ノ實務ハ神官住職ノ職任ナルニヨリ總代人ハ神
 官住職ニ干渉シ社寺ノ實務ヲ妨ケ社寺收入財產ヲ妄リ

ニ他ニ使用スル等ノ所爲アラシムヘカラス

○栃木縣令第三十七號

縣社以下神社ノ氏子崇敬者及神職ニ關スル件左ノ通り定

大正二年五月三十一日

栃木縣知事 岡 田 文 次

第一章 氏子崇敬者

第一條 神社ニ三名乃至七名ノ氏子若ハ崇敬者總代人ヲ置ク

總代人ノ員數ハ其氏子若ハ崇敬者ト協議ノ上神職之ヲ決定ス

特ニ八名以上ノ總代人ヲ置カムトスルトキハ事由ヲ具シ縣社ニアリテハ直ニ其他ノ神社ニアリテハ所轄市町村役場ヲ經テ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 前條ノ總代人ハ氏子若ハ崇敬者ニ於テ選舉ス

總代人ノ任期ハ三ヶ年トス

第三條 氏子若ハ崇敬者ニシテ一戸ヲ構フルモノハ總代人ノ選舉權ヲ有ス

第四條 氏子若ハ崇敬者總代人ノ選舉權ヲ有スル年齢ニ十五歳以上ノ男子ニシテ左ノ各號ニ該當セサル者ハ總

代人ノ被選舉權ヲ有ス

一 直接國稅納稅額五圓ニ滿タサル者

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

一 家資分産又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタル時ヨリ復權ノ決定スルニ至ル迄ノ者

一 禁治産又ハ準禁治産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

一 第十條ニ依リ失職ヲ命セラレタル者

第五條 總代人ノ選舉ハ其神社ノ神職之ヲ管理ス選舉ヲ行フトキハ其ノ日時、場所及選舉スヘキ員數ヲ五日以前ニ告知スヘシ

第六條 選舉ヲ終リタルトキハ神職ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

當選者ハ前項ノ告知ヲ受ケタルトキヨリ二日以内ニ承諾書ヲ神職ニ差出スヘシ

第七條 前條ニ依リ總代人決定シタルトキハ神職及前任總代人連書ノ上其住所、氏名及當選年月日ヲ具シ三日以内ニ縣社ニアリテハ知事ニ其他ノ神社ニアリテハ市町村長ニ届出ヘシ

第八條 省略

第九條 總代人ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其職ヲ失フ其被選舉權ノ有無ハ他ノ總代人ト協議ノ上神職之ヲ決定ス

第十條 總代人ニシテ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケ又ハ不良ノ行爲アリト認ムルトキハ知事ハ其失職ヲ命スルコトヲ得

第十一條 總代人ニ欠員ヲ生シタルトキハ二十日以内ニ補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕總代人ハ其ノ前任者ノ殘任期間在職ス

第十二條 總代人ノ任期滿了スルモ後任者決定スルニ至ル迄ハ前任者在職ス

第十三條 神社ニハ其總代人名簿郡役所ニハ郷社ノ總代人名簿市町村役場ニハ郷社以下神社ノ總代人名簿ヲ第一號様式ニ據リ備付クヘシ總代人異動アリタルトキハ其ノ都度名簿ヲ加除訂正スヘシ

第十四條 總代人ハ神社ノ財産管理其他重要ナル事項ニ關シ神職ノ協議ニ應スヘシ

第十五條 神職職員若ハ不在ノ際ハ總代人ニ於テ神社境

第十六條 總代人ハ神社ニ關スル願届ニ連署スヘシ

宗規及規則

宗規及規則

宗規及規則

宗規及規則

宗規及規則

宗規及規則

宗規及規則

宗規及規則

宗規及規則

宗規及規則

宗規及規則

宗規及規則

宗規及規則

宗規及規則

宗規及規則

宗規及規則

宗規及規則

中略

第三十三條 本令中第一條乃至第七條第九條乃至第十六條ノ規定ハ寺院佛堂ノ檀信徒總代人ニ關シ之ヲ準用ス

附 則

明治四十二年栃木縣令第一號同年栃木縣令第七號明治四十四年栃木縣令第七十三號ハ之ヲ廢止ス

○任職對檀信徒總代ノ權限ニ關スル件

編者云、寺院財産ノ管理ニ關シ任職對檀信徒總代間ニ往々紛争ヲ生ズルコトアリ、依テ左ニ堀口栃木縣内務部長ノ發セル論達ヲ錄シテ參考ニ資ス

明治四十四年二月十四日

堀口栃木縣内務部長

縣社以下神社々司社掌、寺院任職佛堂受

持僧侶、郡市長、町村長宛

左記ノ通り御心得相成度依命此段及通

牒候也

記

社寺ノ實務ハ管理者自ラ之ヲ處理スヘキモノナルニモ拘ハラズ近頃惣代人若ハ其他ノ者ニ托シテ社寺財産ノ處分ヲナシムルモノ甚タ多キヲ認ム斯ノ如キ處分ハ無効ニ屬スヘキモノナルノミナラス管理者ハ職務怠慢ノ責任ヲ負フヘキ儀ニ付自今心得違ヒナキヤウ特ニ留意相成リタシ

一、社寺惣代人ハ明治四十二年本縣令第七號第九條〔本縣令ハ改正セラレタルモ趣旨ハ變更セス即チ縣令第卅七號(別項載録)ノ第十四條カ前縣令第七號第九條ニ該當スルモノナリ編者註〕ニ依リ社寺ノ經營上重要ナル事件ニ參與シ保存ヲ圖ルノ義務アリト雖其實務ヲ掌ルノ權利ナキモノナリ然ルニ金圓ノ出納資金ノ保管等總代人ヲシテ爲サシムルノミナラス總代人名義ノ正當證憑書類ヲ徵シ置キシ等總ヘテ社寺ノ實務ヲ放

任シ總代人ノ爲スカマ、ニ任セ置クノ管理者決シテ尠ナカラサルヲ認ム是等ハ法規ニ違反シ宗規ニ背戾スルノ行爲ナレハ何レモ職務怠慢ノ廉ニ依リ夫レ々々相當ノ責任ヲ負フヘキ儀ニ付自今心得違ナキヤウ特ニ留意相成リタシ

一、社寺財産ヲ賣却シタル場合ハ明治四十三年七月本縣令第八十二號第十六條ノ一ニ依リ管理者ハ直ニ知事ニ報告スヘキ筈ナルニ之ヲ怠ルモノ甚タ多キノミナラス社寺ノ資金ヲ社寺ノ目的外ニ費消スルモノアルヤニ聞ク右ハ以テノ外ノ次第ニ付是レ亦タ特ニ留意相成リタシ

一、郡市役所町村役場ニ於テ前項ノ如ク管理者自ラノ處理ニ依ラサル財産ノ處分及總代人其他ノ者カ管理者ニ干涉シテ社寺ノ實務ヲ妨ケ又ハ社寺ノ財産ヲ社寺ノ目的外

ニ使用スルカ如キ者アルヲ認知シタル場合ハ事實ヲ詳具シ直ニ知事ニ報告相成リタシ

以上

○民法施行法 (現行宗教法令二十四頁以下)

第二十八條 民法中法人ニ關スル規定ハ當分ノ内神社寺院祠宇及ヒ佛堂ニハ之ヲ適用セス

【判例】 寺院ハ法人ナリ(三五、九、四六)

寺ノ代表ハ住職之ヲ爲スモノナリ故ニ寺ノ代表者トシテ住職ト共ニ檀家總代ヲ相手取りタル訴訟ハ不當ナリ(三一、九、一)

【同主旨】 寺院ノ權利伸暢ニ關スル行爲ノ代表ニ付テハ法律上反對ノ規定ナキヲ以テ住職ヲ以テ寺院ノ代表者ト爲ス(同一判例二八、三、一三七)(二八、五、四九)

●寺院ハ訴訟上住職ニ依リ代表セラルヘキモノニシテ檀家總代ニハ代表ノ資格ナシ(二九、一〇、八〇)
●寺院ノ訴訟ハ其住職ヲ以テ代表者ト爲スヘキモノニシテ檀中ハ寺院ヲ代表スルノ能力ナシ(三〇、三、一三五)

●寺院ノ權利ヲ伸暢スルヲ以テ目的トセル訴訟ハ住職ニ於テ之ヲ代表スヘキモノニシテ檀家又ハ信徒ハ其訴訟ニ附從スルヲ要セス(三〇、七、一九)

●檀徒カ自己ノ名義ヲ以テ寺院ノ利益ノ爲メニ訴訟ヲ提起スルコトヲ許サレタル法律ノ規定ナク亦其慣習モ存在セス(三一、九、五二)

●寺院カ訴訟ヲ爲スニ當リ檀家總代ハ寺院ヲ代表スルノ權ナシ明治十四年内務省乙第三十三號達ハ寺院カ行政官廳ニ對シ願届等ヲ爲ス場合ノ規定ニ過キス(三三、九、三四)

●信徒總代ハ神社ヲ代表スルノ權能ナシ(三三、九、三四)
●寺院ノ代表者ニ付テハ法律ノ明文上何等ノ規定ナキヲ以テ住職ノ欠缺シタル場合ニ於テ住職ノ職務ヲ攝理スル權限ヲ有スル者アルトキハ訴訟上ニ於テモ住職ト同シク寺院ヲ代表スル資格アル者ト認ムルヲ當然トス(三五、四、二二)

●寺院ノ住職ヲ兼務セル者ハ單ニ住職兼務ノ事實ヲ縣廳ニ届出テサルノ故ヲ以テ其寺ノ住職ニ非スト云フヲ得ス從テ右住職ハ寺院ヲ代表シテ訴訟ヲ爲ス資格アルモノトス(四五、二、九四)

●宗規第十七號 寺有財産保管條例(明治三十八年十月二十八日認
可同年十一月二十三日發布)

第一章 總 則

第一條 本條例ハ宗憲第十五章第七十七條ニ依リ之ヲ定ム

第二章 財産保管

第二條 寺有財産ヲ分ツテ左ノ四種トス

第一種 佛體佛具經卷古文書並ニ由緒アル物品及寶物

第二種 境内地並ニ境内地ニアル建物

第三種 境外所有地及所有地建物並ニ有價證券蓄積資金ノ類

第四種 第一種乃至第三種ニ屬セサル物件

第三條 寺有財産ハ總テ三寶所屬ノ物件ナルヲ以テ其住職ニ於テ嚴重ニ保管スヘキモノトス

第四條 寺院ハ寺有財産帳四通ヲ製シ宗務本支所及本寺ニ各一通ヲ差出シ一通ハ其寺院ニ備ヘ置クモノトス

第五條 寺有財産ハ其住職及法類總代組寺總代檀徒總代若クハ檀徒總代連署ノ上其本寺住職並ニ管理ノ與印ヲ受ケ置クヘシ

第六條 第一種第二種ニ屬スル財産ハ如何ナル事由アルモ賣却讓與質入書入ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 第三種ニ屬スル財産ハ管長ノ認可ヲ得ルニアラサレハ賣却讓與質入書入等ヲナスコトヲ得ス此財産ヨリ生スル收益ハ其用途ニ就キ一定ノ方法アルモノハ其方法ニ從ヒ別ニ方法ノ定メナキモノハ管長ノ認可ヲ得テ處置スヘシ

第八條 第四種ノ財産ト雖モ關係人ノ協議ヲ以テ第一種乃至第三種ニ編入スルコトヲ得又管長ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ編入ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 管長ハ寺有財産ノ保存ニ對シ必要ト認ムルトキハ其寺院住職ニ之レカ保管法ヲ指命スルコトアルヘシ

第十條 住職ノ怠慢ニヨリ寺有財産ヲ失ヒ又ハ破損シタルトキハ管長ハ之ヲ懲戒ニ處スル外尙ホ其賠償ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條 第三種ニ屬スル資金ニシテ別ニ保管ノ定メナキモノハ確實ナル銀行若クハ遞信省貯金管理所ヘ預クヘシ

第十二條 住職交替ノ際ハ第五條ノ關係人立會ノ上第一種乃至第四種ノ物件ヲ照合シ該財産帳ニ授受ノ證印ヲナシ管理ノ與印ヲ受ケ置クヘシ

但シ住職死亡又ハ失踪セル場合ニハ法類總代人之レカ主任タルヘシ

第十三條 寺有財産調査ノ必要アルトキハ宗務本支所職員ハ該寺院ニ就キ之レカ調査ヲナスコトアルヘシ

宗規及規則

第十四條 財産帳ノ異動訂正ハ其都度第五條ノ關係人連署ヲ以テ宗務本支所及本寺ニ届出ツヘシ

第十五條 本條例施行細則ハ管長別ニ之ヲ定ム

●寺有財産保管條例施行細則(大正二年二月敎令第三號發布)

第一條 本細則ハ宗規第十七號第二章第十五條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 本條例第二條第一種乃至第四種ノ寺有財産ヲ左ノ各目ニ細別ス

第一種

第一目 貴重ナル佛體畫像

第二目 貴重ナル佛具經卷

第三目 古文書並ニ由緒アル物品

第四目 寶物及法流過去帳

第二種

第五目 境内地

第六目 境内地ニアル建物

第三種

第七目 境外所有地

第八目 境外ニアル建物

第九目 有價證券蓄積資金

第四種

第十目 第一種第一目第二目以外ノ佛體及佛具經卷

第十一目 建物ニ附屬物件

第十二目 法具及僧具

第十三目 書籍及書畫骨董品

第十四目 法衣及衣類

第十五目 食具

第十六目 雜什具

第十七目 境内地上立木竹及物件

第十八目 境外山林地上立木竹

第十九目 諸種目以外ノ諸財産

第二十目 種目未定ノ物件

第三條 寺有財産帳ニハ各寺々産保護ヲ主眼トシテ別表様式ニ準シ現在ノ物件ヲ遺漏セス關係人立會一々實際ニ調査シテ登記スヘシ其認方心得左ノ通り解示ス

一 寺有財産帳ニハ種目物件員數等ヲ記シ明細別表ヲ各種目毎ニ添附スヘシ其用紙ハ

美濃紙又ハ内山紙トシテ書體ハ楷書トシ明白ニ記入スルヲ要ス

二 第一種第一目ニハ本尊佛ヲ始メ貴重ナル佛體畫像ノ名稱、種類、物質、形容、量數及作者年代寄附者傳來等ノ由緒

三 第一種第二目第三目第四目ハ前項ニ準知ノコト

四 第二種第五目ニハ境内地ノ地種、地目、坪數等及見取圖土地臺帳添附ノコト飛地境内境外佛掌ノ境内地モ本項ニ攝記ノコト

五 第二種第六目ニハ本堂庫裡其他境内地上現在建物一々名稱ヲ列記シ各其構造、屋根等ノ種類間口奥行ノ尺數及建築年代由緒並ニ現狀ヲ記シ各建物正、側、平面圖ヲ添附ノコト境外佛堂ハ之ヲ準知ノコト

六 第三種第七目ニハ境外所有地タル田畑宅地山林原野ノ順位ニ各筆毎ニ土地臺帳原本ニ依リ所在地番地目反別地價等

七 第三種第八目ニハ第二種第六目ニ準記ノコト

八 第三種第九目ニハ有價證券、蓄積資金、各其目的名稱種類數量等

九 第四種第十目ニハ第一種第一目第二目ニ準記ノコト

十 第四種第十一目ニハ建物ニ附屬セル建具疊等ノ名稱種類物質形容數量數等

十一 第四種第十二目ニハ法要ニ用ユル法具及僧具ノ名稱種類物質形容數量數年代傳來等

十二 第四種第十三目ニハ事教兩相和漢洋ノ順位ニ各其書目部、秩、卷、冊、數等及書畫骨董等ノ名稱、種類、物質、形容數量年代傳來等

十三 第四種第十四目ニハ袈裟其他法衣及衣類夜具蒲團附屬物等ノ名稱種類物質數量年代傳來等

十四 第四種第十五目ニハ飲食ニ屬スル用具類名稱以下同前

十五 第四種第十六目ニハ第一種第一目乃至第四種第十五目以外ノ雜種什器ヲ各其名稱以下同前

十六 第四種第十七目ニハ境内地上ノ立木竹物件ノ名稱種類數量等

十七 第四種第十八目ニハ境外山林地上立木竹等前項ニ準記ノコト

但シ森林又ハ薪林草生秃山ノ區別ヲ記スルコトヲ要ス

十八 第四種第十九目ニハ第一種第一目乃至第四種第十八目以外ノ諸財產即チ債券類

十九 第四種第二十目ニハ寺有財產ニシテ第一種第一目乃至第四種第十九目ノ何レノ種ニ屬セシムヘキヤ未定ノ者アルトキハ記入ノコト

寺有墓地又ハ境外墓地等ハ本種目ニ所在地番、地目坪數等並ニ寺用檀用ノ別及寺歷

代墓石形容基數等ヲ記入ノコト

二十 寺有財產物件ニシテ寄附者年代若クハ寄附製作當時ノ住職人名等明白ナル者ハ附記ノコト

第四條 寺有財産保管ノ主任ハ其任職人タルヘキハ勿論ナレ共檀信徒總代人ハ之ヲ外護シ法類末寺組寺各總代人ハ其連署ノ責ヲ負ヒ相當ノ注意ヲ怠ラス任職人ヲシテ保管ノ責任ヲ全フセシムヘシ

第五條 本寺任職人ハ末寺ヲ監督シテ其寺有財産ヲ嚴重ニ保護セシムヘシ

第六條 寺有財産帳ハ本條例本細則各條及別表様式ニ依リ大正二年四月三十日迄ニ遲怠ナク四通ヲ調製シテ該寺、本寺、支所ニ各一通ツ、保管シ一通ハ同年五月十日迄ニ宗務所ニ着スル様進達スヘシ

第七條 本條例第十二條ノ事故發生ノトキハ三十日以内ニ寺有財産各種目ヲ調査授受ノ連署證印及與印ヲ受ケ以後十日以内ニ宗務所ニ着スル様届出ヘシ

第八條 任職人死亡又ハ失踪セル場合ニハ法類總代人主任トナリ速ニ寺有財産各種目物件ヲ照合シ後任候補者アルトキハ後任候補者ニ監守セシメ後任候補者ナキトキハ法類總代人之ヲ監守シ後任任職人任命セラレタルトキハ前條ノ手續ヲ盡スヘシ

第九條 本條例第十四條ノ事故發生ノトキハ三十日以内ニ宗務所ニ着スル様届出ツヘシ

第十條 本條例及本細則ニ規定セル以外ニ寺有財産保管規約等必要アルトキハ其寺任職人主任トナリ本條例第五條ノ關係人連署本寺承認メ證印管理與印ヲ以テ管長ノ認可ヲ得テ施行スヘシ

第十一條 本條例本細則中ニ本寺連署與印承認證印等ハ總本山直末寺院ニ對シテハ總本山

副仲ヲ以テ之ニ充ツヘシ尤モ總本山直末寺院ニアリテハ關係人連署管理與印ノ後チ總本山副仲下附願添附シテ便宜上直ニ宗務所ニ差出スヘシ

第十二條 本細則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ實施ス以上

寺有財産帳

府新義眞言宗智山派宗務支所管内
縣新義眞言宗智山派
市大字
郡村
字

院寺

種 一 第	種 目	物 件	員 數	明 細 表	備 考
	第一目	貴量ナル佛體畫像			
	第二目	重要ナル佛具經卷			
	第三目	古文書並由緒アル物品			
	第四目	寶物及法流過去帳			

種二第		種三第			第 四						
第五目	第六目	第七目	第八目	第九目	第十目	第十一目	第十二目	第十三目	第十四目	第十五目	第十六目
境内ニアル地	境内ニアル建物	境外所有地	境外ニアル建物	有價證券及蓄積資 金	第一種第一目第二目以 外ノ佛體畫像佛具經卷	建物ニ附屬物件	法具及僧具	書籍及書畫骨董	法衣及衣類	食具	雜什具

種			
第十七目	第十八目	第十九目	第二十目
境内地上立木竹及 物件	境外山林地上立木 竹	第一種第一目乃至第十 八目以外ノ諸財産	種目未定ノ物件

前顯各種目、物件員數、明細別表ノ如ク當寺現在ノ寺有財産一々實際ニ照合シ
關係人立會調査ヲ致シ登記仕候處相違無之候依テハ法令宗規等ヲ守リ嚴重ニ保
管可仕候此段關係人連署證印上申仕候也

大正 年 月 日
右 院寺 住職

- 右寺 檀徒總代人
- 右寺 法類總代人
- 右寺 末寺總代人
- 右寺 組寺總代人
- 右寺 本寺

右寺有財産帳各種目員明細如別表相違無之候ニ付連署證印仕候也

大正 年 月 日

新義眞言宗智山派管長級氏名殿

右寺有財産帳各種目物件員數明細如別表監査候處相違無之候依テ奥印候也

縣府 智山派宗務支所管理

大正二年 月 日

員數爛ニハ明細別表ノ物件合計員數ヲ記入スルコト該種目ナキトキハ○點ヲ附スルコト

明細表欄ニハ別表何枚添附ト記入ノコト、備考欄ニハ參考必要ノ事由アラハ記入ノコト無末寺院ハ末寺總代人ヲ削除スルコト

明細別表ハ本細則第三條各項ニ依リ用紙ハ美濃紙又ハ内山紙ヲ用ヒテ字體楷書ニ明記スルコト其様式ハ各種目毎ニ別表トシ本細則第三條ノ各種目認方注意事項ヲ明細確實ニ記入シ一見シテ見易キコトヲ要ス

●寺院收入調査規則(大正五年一月八日教令第三號)

本派寺院臺帳記載ノ收入額ハ遠ク本派獨立以前ノ調査ニ屬シ爾來多年ヲ經過シタルハ時勢ノ變遷ト土地ノ盛衰ト寺有財産并ニ信徒ノ増減ト其他ノ事由トニ依リ寺院收入ニ異動ヲ生

シタルモノ多々ナルヘシ依之派内寺院ノ現在實際ノ收入ヲ調査スルハ本派宗務調整上極メテ緊要ナリト認メ今回別記ノ通り寺院收入調査規則ヲ制定シ發布ノ日ヨリ之ヲ實施ス

寺院收入調査規則

第一條 本派寺院收入調査ハ宗務所内宗務調整部ニ於テ擔任シ之ヲ處理スルモノトス

第二條 本派寺院ノ收入額ハ一ヶ年度ニ於ケル該寺ノ諸信施入及ヒ寺有財産ヨリ生スル果實其他ノ雜收入等ヲ稱シ左項ニ依リ住職人ヲシテ其實際ヲ取調ヘ別記様式ニ準シ之ヲ申告セシム

第一項 本條寺院收入ヲ左ノ通り分類ス

第一類 檀信徒等ノ諸信施收入

第二類 寺有土地收入

第三類 寺有金收入

第四類 寺有建物收入

第五類 前各類以外ノ雜收入

第二項 本條收入ノ表示ハ事實收入ノ物件品目數量ヲ記シ更ニ物件ハ時價ニ換算シ該收入ヲ得ルニ要スル諸經費ヲ引去リ年度純益收入ヲ定ムヘシ

第三項 第一項收入ハ大正二年一月一日ヨリ大正四年十二月三十一日ニ至ル三ヶ年間ヲ三分シテ一ヶ年度平均收入額ヲ定ムヘシ但シ該期間檀信徒等ニ増減アルトキハ大正四

年度現在數ニ依ルヘシ

第四項 第二類收入ハ明治四十四年一月一日ヨリ大正四年十二月三十一日ニ至ル五ケ年間ヲ五分シテ豊凶一ケ年平均收入及ヒ其價額ヲ定ムヘシ

山林ノ收入ハ地上ノ副産物果實ヲ稱ス

山林ノ立木ハ不動産ナレハ收入ト評價スヘカラス其伐採認可ヲ得タルトキハ其年度ノ増收入トスヘシ

山林ノ立木ニシテ薪炭用トスシ年々伐採スルモノハ年度收入ニ加記スヘシ

第五項 第三類第四類第五類ハ大正四年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル一ケ年間收入ヲ記スヘシ但シ年々收入ニ異動アルモノハ第一類收入ニ準スヘシ

第六項 寺院收入ニシテ一定ノ期間收入ヲ得ルモノ又ハ數年度毎ニ一回ツ、收入ヲ得ルモノ若クハ他ノ權利ニ屬スルモノヲ使用シ之ニ依リ收益ヲ得ラルヘキモノアルトキハ別記様式末尾備考欄ニ記入スヘシ

第三條 本派寺院住職人ハ前條收入取調申告書ヲ本明二月十五日迄ニ作成調印シテ該組寺總代人ニ提出スヘシ

第四條 組寺總代人ハ前條收入取調申告書ヲ該組會ノ議ニ附シ組會多數ノ評決收入ヲ別記様式ニ依リ記入調印シテ本年二月二十八日迄ニ該宗務支所ニ提出スヘシ

第五條 宗務支所管理ハ前條申告書評決書ヲ副管理ト共ニ調査ヲ遂ケ別記様式ニ依リ副申

調印シテ本年三月十五日迄ニ宗務所ニ進達スヘシ

第六條 組寺總代人ハ收入取調申告書ニ不正當ノ點アリト思量スルトキハ該寺住職人ニ修正セシムヘク若シ應セサルトキハ其旨評決書ニ明記スヘシ

第七條 宗務支所管理ハ收入取調申告書又ハ評決書ニ不正當ノ點アリト認ムルトキハ之ヲ修正又ハ再議セシメ若シ應セサルトキハ其旨副申書ニ明記スヘシ

第八條 宗務所内宗務調整部ニ於テハ寺院收入取調申告書組會評決書支所副申書ヲ調査シテ不審アルトキハ書面ヲ以テ期間ヲ定メ再調ヲ命シ必要アルトキハ召喚若シクハ派出シテ調査ヲ遂ケ結了シタルトキハ調了收入額ヲ記入シ部員及部長檢印シ置クヘシ

第九條 前條調了收入額ヲ管長ニ具申シテ當該寺收入額ヲ査定ス此ノ査定額ニ對シテハ當該寺ハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十條 本派寺院住職人ハ他ノ寺院ニ關スル收入取調申告書若クハ組會評決書支所調査副申書ヲ不正當ナリト思量スルトキハ當該人ニ注告シ又ハ直接宗務所内宗務調整部ニ申告スルコトヲ得

第十一條 本規則第三條第四條第五條第八條ノ期限ヲ經過シテ第二條收入取調申告書ヲ提出セサルトキハ宗務所内宗務調整部ニ於テ當該寺有財産其他ノ收入ヲ酌量シテ調了收入額ヲ認出スルコトアルヘシ此ノ場合ニハ當該寺ハ異議ヲ申立ルコトヲ得ス

第十二條 本派寺院住職、組寺總代人、支所員ニシテ故意ニ收入取調申告書、組會評決書、

新義真言宗智山派寺院收入調取申告書																		
考備	年度以上 合計純益收入金	種目	第五類 雜收入	第一類乃至第四類以外ノ寺收入ヲ記入スベシ	種目	棟數	坪數	現在家屋 評價	賃貸年收額	諸經費	純益收入	備考	祠堂金	積立金	其他寺有金	半計	第四類 建物收入	
																		家屋ハ保存期間アリ現在家屋ノ評價ヲ記入スルコトヲ要ス○賃貸料物品ナルトキハ其品目ヲ記入スベシ○修繕費、火災保險料、其他ノ經費若シ借地ナルトキ地代ヲ諸經費欄ニ記スベシ

寺院

書

右當寺年度收入取調申告候也

大正五年 月 日

新義真言宗智山派宗務調整部長級氏名殿

右

寺

住職

印

新義真言宗智山派宗務所内宗務調整部用紙

寺收入取調申告書之儀當組會ニ於テ左之通評決仕候也

別紙

組會評決收入額

事由備考

大正五年 月 日

右

組寺惣代人

寺

住職

印

寺收入取調申告書及組會評決書當支所ニ於テ左之通リ調査仕候也

別紙

支所調査收入額

事由備考

院 寺		大正五年 月 日		縣府		宗務支所管理	
書 申 副 查		新義眞言宗智山派宗務長級氏名殿		副管理		副管理	
檢部	印長	調了額	事由	備考	部員	印	印

宗牒第二號(大正五年三月二十日) 寺院收入調査ニ關スル注意

- 一、本年統合第三號寺院收入調査ハ一派寺院ノ實力ヲ知悉センガ爲メニシテ宗務當局者タルモノ、當然實施スヘキ職責ニ屬スルモノナリト信ズ
- 二、本派寺院ハ收入ヲ標準トシテ等級ヲ定メ第級ニ依リ寺格ヲ公許シ宗費ヲ賦課徴收スル處ナレハ該收入調査ノ結果トシテ等級ヲ査定昇降セラレ隨ツテ寺格及ヒ宗費賦課徴收ニ影響スルハ勿論ナリト信スト雖トモ左項ヲ留意セラレンコトヲ
 - (イ) 宗費ハ宗會ノ協賛ニ依リ豫算ヲ定メ之ヲ一派寺院等級收入ニ賦課徴收スルモノナリ例セハ現行豫算歲入寺院賦課金二萬一千二百餘圓ナリ之ヲ一派寺院等級收入總額金二十三萬餘圓ニ課賦シテ大約寺院等級收入額百分ノ九ヲ徴收スル處ナリ若シ寺院收入調査ノ結果一派寺院等級收入總額が増加シテ金六十九萬圓ニ達スルト假定スルトキハ寺院等級收入額百分ノ三ヲ徴收スレハ足ル則チ左ノ如シ
 - 現行十等地收入額金二百圓ニ對スル百分ノ九宗費年度金十八圓一期金九圓ナリ

假定四等地收入額金六百圓ニ對スル百分ノ三宗費年度金十八圓一期金九圓ナリ

如斯ニテ宗費豫算寺院賦課金二萬一千二百餘圓ヲ得ルハ同一ナリトス

- (ロ) 寺院收入増加ノ爲メニ等級寺格其ニ昇等スル結果トシテ現ニ住職人教師等級カ卑クナルモト失格スルコトナカルヘシ
- (ハ) 現行寺院等級收入ハ土地ハ單ニ地價金十分ノ一ヲ收入ト認定シタルモノ本年教令第三號寺院收入調査ハ該規定ノ如ク實際ノ收入ヲ調査スル處ナリ
- (ニ) 隨ツテ宗會ノ協賛ヲ得テ寺院條例第二章第二條ノ寺院等級收入標準及ヒ等級ヲ標準トスル宗規中ノ諸規定ヲ改正セラレ、コトアルヘシ
- 三、寺院收入調査規則第二條ハ實際ノ收入ヲ取調申告スルコトヲ要スル左ノ如シ
 - (イ) 第二項收入ノ表示ハ事實收入ノ物件品目數量ヲ記スルヲ要ス則チ第一類ニアリテハ施物ニ米穀其他ノ物品アルトキハ其品目數量ヲ記シ第二類ニアリテハ小作米、粳、麥、其他ノ物件アルトキハ其品目數量ヲ記シ又タ現金收入ハ其旨記入スヘシ今回ハ實際收入調査故ニ本項ヲ主眼トスル處ナリ
 - (ハ)(ロ) 時價換算ハ該物件品目數量ノ欄ニ物品數ト時價トヲ細記スヘシ
 - 該收入ヲ得ル諸經費トハ第一類ニアリテハ檀徒施入ヲ得ルニ對シ必要ナル寺ノ出費ヲ云フ例セハ檀徒年賀施入金五十圓アルトキハ施入金額欄ニ五十圓ト記シ寺ヨリ檀徒二年賀配札物件出費金十圓ナルトキハ諸經費欄ニ十圓ト記シ純益欄ニ金四十圓ト記ス

ヘシ

第二類ニアリテハ諸經費トハ公租稅ノ外カ該土地ヨリ收入ヲ得ルニ要スル實費ヲ云フ例セハ組用水費等ノ如シ尤モ水利費又ハ耕地整理費等ニシテ臨時一定期間ノ支出ニ屬スルモノハ備考欄ニ記入スベシ

公租稅ハ地租及ヒ府縣市町村稅ニシテ寺名ニ宛テ課賦徵收セラル、モノニ限ル住職人名ニ宛テラル、戸數割等ヲ加算スベカラズ

宗費、諸種ノ寄附義納金、及ヒ營繕法會等ノ寺經費ニ屬スルモノハ公租稅及ヒ諸經費中ニ加算スベカラズ

(ニ) 第二類評定小作入付品量地代金トハ實際ニ於テ該寺ニ於テ小作人ト評定契約セル品目數量ヲ云フ

四、各寺院ノ收入ハ其地方ニ於テ定評シ居ル處ナリ例セハ甲寺ハ檀徒何戸所有土地收入米何十石雜收入若干ト云フカ如シ時ニ該寺ノ盛衰收入増減アルヘシト雖トモ組合寺院及ビ支所員ハ平生之ヲ知悉スル筈ナレハ寺院收入規則第六條第七條ノ評決副申ニ際シテハ嚴正ニ處理スヘシ

五、宗務調整部ニ於テ調査上必要ト認ムルトキハ左項ヲ實施勵行ス

- (イ) 當該寺年度歲入歲出帳簿、當該寺小作取集帳等ヲ點檢調査スルコト
- (ロ) 當該寺所在地ノ市町村役場其他ニ照會シテ當該寺ノ公租稅納金額並ニ田畑山林宅地

雜地反別地價ニ對シル該部落小作種類標準等ヲ調査スルコト

(ハ) 前兩項ハ部長又ハ部長ヨリ部員若クハ支所員組寺總代人ニ命シテ點檢調査セシムヘシ

六、前顯以外ニ尙ホ疑義アルトキハ其旨ヲ明記シテ宗務調整部長宛ニ伺出ヘシ
以 上

右寺院境內調査ニ關スル解説書該部內ニ周知セシメラレ度此段及通牒候也
宗牒第二號 派 內 一 般

從來本堂庫裏其他堂宇ノ改築修繕又ハ境內及境外地上立竹木ノ伐採處分等ニ付地方廳ニ出願スルニ際シ管長ノ副申ヲ要スル地方ト要セサル地方トアリ管長ノ副申ヲ要スル場合ニハ宗務所ニ於テ十分事實ヲ調査(又ハ詮議)スルヲ以テ何等支替ナキモ副申ヲ要セサル場合ニハ宗務所ハ全ク之ニ關與セサルヲ以テ寺院財產ノ移動ヲ知ル能ハス寺有財產管理上不都合不尠候ニ付自今本堂庫裏其他堂宇ノ改築修繕并本派寺有財產保管條例施行細則第二條中第四種第十七目境內地上立竹木及物件令第十八目境外山林地上立木竹ノ伐採賣却等ヲ行ハントスル場合ニハ必ラス管長ノ副申又ハ認可ヲ得テ地方廳へ出願ノ手續ヲナスヤウ留意相成度此段稟命及通牒候也

大正八年八月一日

宗 務 長

〔參考〕

○寺院合併ノ件(明治三十九年八月十六日甲第十號)
別記ノ通内務省宗甲第二二號ヲ以テ御達相成候ニ付テハ本派所屬ニシテ微祿少檀到底維持ノ見込ナク又苟モ正住職ヲ置ク能ハサル如キ寺院佛堂ハ此際區々ナル情實ニ拘泥セズ須ラク古來ノ弊習ヲ打破シ便宜合併ノ上永遠維持ノ法ヲ確立シ布教興學法要等毫モ支格ヲ生セサラシムルハ蓋シ目下ノ急務ニシテ亦最上ノ宗是ナリ本派ノ末侶及檀信徒タル者能ク其意ヲ體シ慎重審議其方法ヲ講究シ至急出願ノ手續ヲナスヘシ

(別記)

内務省宗甲第二二號 明治三十九年八月十一日
今般勅令第二百二十號ヲ以テ社寺合併跡地讓與ノ件發布相成候處右ハ寺院中境内荒廢シ堂宇頽廢シ勤行法要亦行ハレスシテ僅カニ其名ヲ存スルニ過キサレモノ洵ニ少シトセス如此ハ畢竟少檀微祿ニシテ維持困難ヲ極ムルノ致ス所ト被認候就テハ此等寺院ハ可成合併セシメ寺院ノ資力ヲ鞏固ナラシムト共ニ其質ヲ擧ゲシムルノ趣旨ヲ以テ右勅令發布相成タル儀ニ候條此趣旨ヲ體シ貴宗派内寺院

中簡擇淘汰スヘキモノ有之ニ於テハ夫々整理ノ途ヲ講シ關係者ヲシテ合併ノ儀出願セシムル様御處理相成ヘク豫ニ讓與ヲ受ケタル跡地ニ付テハ右下附ノ趣旨ニ戻ラサル様保存管理ノ途ヲ立テシムル様嚴重御取締可相成依命此段申進候

書式

副伸願

何府何々宗務支所下
何縣何々町村大字何々
何府何々市何々村大字何々
何等地 何々々 寺

右寺今般何々願ヲ別紙ノ如ク所轄管廳(何縣知事等ト記スヘシ)へ出願仕度候間御副申被成下度此段連署願上候也
年月日

右寺住職並關係人本寺連署
新義真言宗智山派管長大僧正氏名殿

備考 總本山直末ハ本寺連署トアル處へ總

本山副申ヲ要スルコト

特ニ事實具申ヲ要スルモノハ右寺今般何々(此處ニ詳細具申スヘシ)事由ニ依リ何々願ヲトスルコト

○寺院移轉願

何府縣何市郡何町村大字何々

新義真言宗智山派

何々々 寺

當寺ハ目下本堂頽破スルモ檀家僅少ニシテ到底維持ノ見込相立タス然ルニ本縣何郡何町村何番地何某所有地何坪ヲ移轉境内トシ該地ニ存在セル建物ヲ以テ本堂兼庫裡ニ充テ移轉境内地ハ勿論該建物ヲモ併テ所有者ヨリ當寺へ寄附ノ上移轉致度候間御許可被成下度別紙相添へ此段奉願候也

年月日 右寺住職 級 氏 名
右寺法類總代 何寺住職級氏名
右寺檀徒總代 氏名三名以上連印
右寺末寺總代 何寺住職級氏名
右組寺總代 何寺住職級氏名

何縣知事何誰殿
右寺本寺 何寺住職級氏名

此書面ニ左ノ書面ヲ添附スベシ

- 一、移轉後豫定明細帳(移轉濟トナリタル曉ニ寺院ニ附屬スル建物、所有物件、檀信徒數、管轄廳マテノ距離、由緒等ヲ記入スヘシ)
一、移轉境内地並ニ本堂庫裡ニ充ツヘキ建物ノ所有者ヨリ移轉許可ノ上ハ其寺ニ寄附スベシトノ書面
一、建物ノ位置ヲ示シタル移轉境内並ニ周圍ノ狀況ヲ見ルニ足ルヘキ見取圖面
一、移轉後寺院ノ維持方法ヲ記載シタル書面
一、管長ノ副仲書

○寺院移轉濟届ノ書式

寺院移轉濟届

府縣郡市町村大字何々

新義真言宗智山派

何々々 寺

當寺ハ何年何月何日指令第何號ヲ以テ何郡何村ヨリ何郡何村へ移轉ノ儀御許可相成候處今般移轉濟ニ相成候ニ付別紙明細帳相添此段及御届候也
年月日 何郡町村大字何

宗規及規則

何宗派何寺住職 級 氏 名
 右寺檀家總代 三 名
 府縣知事宛
 一移轉後ノ明細帳ヲ添付

○寺院移轉跡地荒蕪地無料使用願ノ書式

●官有荒蕪地無料使用願

何郡何町何村何番
 一荒蕪地 何百坪

此素地相當代價金何圓

但一坪何十錢 近隣畑地代價一坪ニ村何錢ノ割

御許可ノ日ヨリ滿一ヶ年ニ開墾成効

右地所ハ當寺祖先ヨリ堂宇ヲ建立シ當代ニ至ル迄永住罷在候處寺院建物ハ何年何月何日指令第何號御許可ノ上何郡何村へ移轉致シタル跡地ニ有之候ニ付今般畑地開墾シ成効ノ上ハ素地代價ヲ以テ拂下ヲ得收益ヲ以テ當寺維持ノ一助ト致シ候間前記年間無料使用ノ儀御許可被成下度事業方法及收支豫算並實測圖面相添此段奉願候也
 年月日 何縣何郡何町何村大字何

何宗派何寺住職 級 氏 名
 右寺檀家總代 三 名
 府縣知事宛

(別紙) 事業方法

一開墾反別 何百坪

一開墾ノ目的 畑地ト爲シ永ク當寺ノ所有ニ屬セシメ

收益ヲ以テ維持ノ一助ト爲スニアリ

一年 度 御許可ノ日ヨリ一週間以内ニ開墾ニ着

手シ滿一ヶ年ヲ以テ成効ノ見込且ツ東

方ヨリ着手漸次完了シ處ヲ散點セシメ

一通 路 別紙繪圖面ノ通り道路ヲ存シ耕耘用ト

爲スコト

(別紙) 收支豫算書

支出之部

種別	數量	代價	單價	價
人夫	何人	何圓	一人ニ付	何錢
肥料	何貫目	何圓	一貫目ニ付	何錢
種子	何升	何圓	一升ニ付	何錢

●寺院境內地區域變更願

當寺現境內地區域何千坪ノ内何百坪縣道何々街道(若クハ何々私設鐵道會社ノ鐵道敷地)ニ該當致シ候ニ付別紙圖面ノ通り區域變更相成度此段奉願候也
 年月日 何府縣何郡何町何村大字何

宗派何寺住職 級 氏 名
 右寺檀家總代 三 名
 府縣知事宛

附屬書類

一境內區域及建物位置鐵道敷地ニ充用セシ箇所等ノ明細圖

(管長添書)

○佛堂境內地區域變更願ノ書式

●佛堂境內地區域變更願

當佛堂現境內地區域何百坪ノ内何百坪何々私設鐵道會社ノ鐵道敷地ニ該當致シ候ニ付別紙圖面ノ通り區域變更相成度此段奉願候也
 年月日 何縣何郡何町何村大字何

何々堂受持

收入ノ部

種類	石數	代價	單價	價
大豆	何石	何圓	一石ニ付	何錢

一實測圖面添付ヲ要ス

○寺院移轉跡無料使用地拂下願ノ書式

●官有荒蕪地拂下願

何縣郡村何番地

一荒蕪地 何百坪

右地所ハ何年何月何日指令第何號ヲ以テ無料使用願ノ儀御許可ノ上直ニ開墾ニ着手致候處今般畑地ニ開墾濟ト相成候ニ付無料使用出願當時ノ素地代價金何圓ヲ以テ御拂下相成度此段奉願候也
 年月日 何縣郡村大字何

何宗派何寺住職 級 氏 名
 右寺檀家總代 三 名
 府縣知事宛

○寺院境內地區域變更願ノ書式

宗規及規則

宗規及規則

二百八十二

何寺住職	級	氏名
右信徒總代	三	名

府縣知事宛

(注意) 寺院境內地域變更願参照

○百五十坪未滿ノ寺院跡地拂下願ノ書式

●官有荒蕪地拂下願

何縣郡町村大字何番字何

一荒蕪地 百三十坪 代價金何圓

但壹坪ニ付何十錢 隣地一坪ニ付何十錢

右地所ハ元當寺境內地ニ有之候處何年月何日指令第何號御許可ノ上何郡何村へ移轉致シタル跡地ニ有之當寺ト關係淺カラサル土地ニ付キ永ク當寺所有地トシテ御拂下被成下度別紙實測圖面相添此段奉願候也

年月日 何縣郡町村大字何

何宗派何寺住職	級	氏名
右寺檀家總代	三	名

府縣知事宛

(注意) 隨意契約ニ依リ荒蕪地ノ拂下ヲ出願スル土地ハ

必ス本例ノ如ク百五十坪未滿ナルヲ要ス

●寺院境內地區域増加願

一官有荒蕪地 幾坪

當寺ハ本縣中有名ノ寺院ニシテ毎年何月何日ノ法要執行ノ際ニハ近郷ヨリ數千人ノ參詣有之候處現境內僅ニ二百坪ニシテ是等ノ參詣人群集雜沓シテ自然官有地ニ侵入スルコト、相成リ候ノミナラス尙法要執行上ニ於テモ境內狹隘ノ爲メ支障少カラス然ルニ前記官有荒蕪地ハ當寺境內地ニ接續シ當寺ノ法要執行上ニ於テモ必要ノ箇所ニ有之候間境內へ編入増加ノ儀御許可相成度別紙圖面相添此段奉願候也

年月日 何府縣市郡町村大字何

宗派何寺住職	級	氏名
右寺檀家總代	三	名

府縣知事宛

附屬書類

一境內及官有荒蕪地其他建物ノ位置、法要上必要ナル箇所、參詣道路トシテ必要ナル箇所等ノ明細圖及管長ノ添書

○寺院境內地區域變更并ニ境內佛堂明

細帳へ編入願ノ書式

●寺院境內地區域變更并ニ境內佛堂

明細帳ニ編入願

何府縣市郡町村大字何

新義真言宗智山派

何 寺

一境內佛堂壹字(編入出願ノ佛堂)

何々堂貳間半四面境外官有地三反三畝歩(實測反別六反歩)官有地ノ儘何々寺境內へ編入出願ノ分

本尊聖觀世音菩薩 金佛 御丈一寸八分(本派某寺願書)

由緒 養老年中建立ノ旨古老ノ口碑ニ傳ヘアルモ寛政年中何々 火災ニ罹リ記録由緒等灰燼ニ歸シ事跡不詳元祿二年建築ノ棟札アリ

牛頭天王堂 一間四面境外民有地山林二畝歩民有ノ儘 編入出願ノ分

本尊 牛頭天王 木像

由緒 不詳

右何々堂ハ官有地何町歩ノ箇所ニ存在有之候該佛堂ハ往古當寺境內佛堂ニ有之候處當寺明細帳ノ脫漏ト共ニ脫漏致シ居リ候處當寺ハ明治三十二年二月二日指令甲第九七號ヲ以テ明細帳ニ編入御許可相成候ヘトモ該佛堂ハ編入

宗規及規則

宗規及規則

當佛堂ハ到底維持ノ見込無之候ニ付廢止致度候間御許可

當佛堂ハ到底維持ノ見込無之候ニ付廢止致度候間御許可

當佛堂ハ到底維持ノ見込無之候ニ付廢止致度候間御許可

當佛堂ハ到底維持ノ見込無之候ニ付廢止致度候間御許可

當佛堂ハ到底維持ノ見込無之候ニ付廢止致度候間御許可

佛堂廢止願ノ書式

●佛堂廢止願

何府縣市郡町村大字何何々

何 堂

右何々寺住職

右寺檀家總代

級 氏名

三 名

府縣知事宛

二百八十三

宗規及規則

被成下度財産ハ別紙ノ通處理致度候間併テ御許可相成度奉願候也

年月日

何堂受持

何寺住職 級 氏 名

右信徒總代 三 名

府縣知事宛

一境内及建物ハ賣却シ最寄佛堂又ハ寺院へ寄附スル等其處理方法等ヲ添付スルヲ要ス

○佛堂合併願ノ書式

●佛堂合併願

何縣郡町村大字何

何 堂

當佛堂ハ到底維持ノ見込無之ニ付何郡何村大字何何々堂へ合併致度候間御許可被成下度財産ハ別紙之通處理致度候併テ御許可相成度此段奉願候也

年月日

右何々堂受持

何寺住職 級 氏 名

右信徒總代 三 名

府縣知事宛

○佛堂移轉願ノ書式

●佛堂移轉願

何縣郡町村大字何

何 堂

當佛堂境内地全部何々鐵道ノ線路敷地ニ該當致シ候ニ付今般信徒協議ノ上本縣何郡何町村大字何番地何某所有地何坪ヲ移轉地境内トシ該地ニ存在セル建物ヲ以テ堂宇ニ充テ移轉境内地ハ勿論該建物ヲモ併セテ所有者ヨリ當佛堂ニ寄附ノ上移轉致度候間御許可被成下度別紙相添此段奉願候也

年月日

右何々堂受持

何寺住職 級 氏 名

右檀徒總代 三 名

府縣知事宛

(注意) 寺院移轉願参照

○寺院上地官林境内編入願ノ書式

●境内編入願

何府縣何郡市町村大字何何番

森林(原野)何町何反歩ノ内

一當院ニ於テ明治二十八年七月二十八日印刷シタル寺院

境内外ノ繪圖面ハ樹木存在ノ現狀ヲ畫キタルモノニ付

キ本件上地林ノ樹木カ果シテ境内ノ風致上必要ナルヤ

否ヤハ該繪圖面ニ依テ明瞭ナリトス依テ特ニ本件願書

ニ添付シ且ツ上地林ニ屬スル部分ニ朱點ヲ施シ之レヲ

示ス(朱點内ハ上地官林ナリ)

右之如キ事實ナルヲ以テ該上地林何歩ハ是非現境内ニ編

入アラントテ懇願ノ至リニ堪ヘズ依テ爰ニ實測圖面相

添へ此段相願候也

年月日

何縣何郡何村

何々院住職 級 氏 名

右檀徒總代 三 名

農商務大臣宛

別紙トシテ左ノ書類ヲ添付スルヲ要ス

一 三斜法ニ依ル實測圖面

二 寺院佛堂ノ本堂庫裡其ノ他建物ノ位置并ニ其上地林

トノ離隔間數ヲ記入シタル現境内地并ニ上地林周圍ノ

地種地目ヲ記載シタル見取圖面

○寺院境内地記念碑建設願ノ書式

一實測面積壹町四反三畝二步(埼玉縣川越寺)

右境外上地林壹町四反三畝二步ハ當院境内ノ風致上必要

ニ付官有地ノ儘現境内へ編入相成度左ニ編内編入ノ事由

ヲ申述候

抑モ當院ノ由緒ハ世人ノ知ル處ナルヲ以テ(中畧)上地林

ノ所屬如何ヲ知ラサルモノハ皆本院境内ナリト確信シ老

年蓋爵ノ間ニ千古ノ歴史ヲ追想シテ轉々感情ヲ惹起スル

モノ日一日ヨリ多キヲ加フルハ自然ノ現象ニ之アリ蓋シ

當院ノ風致ハ專ラ上地林ニ於テ保維セラルヽヲ以テナリ

然ルニ一朝他人ノ有ニ歸シ樹木伐採ノ非運ニ遇ハヽ千古

ノ歴史ヲ抹殺シ寺院ノ風致ハ殆ント滅却スルニ至ラン尙

其ノ風致上必要ナル密接ノ關係ヲ圖面ニ徵シ事實ニ就キ

項ヲ別チ之ヲ述ベ候

一坊舎(本堂庫)ノ内大書院ハ三代將軍家光誕生ノ間チ

將軍家ヨリ當院へ下附相成リタルモノナリ故ニ家光公

世ニ在ル時ハ時々來駕セラレタルヲ以テ溝池庭園ヲ築

キ甚タ美觀タリ殊ニ書院ト上地林トハ距離僅ニ二三尺

ニシテ風致上必要ナルコトハ一目瞭然タリ

一慈惠堂(ニ大師)ト坊舎トノ間ニアル廊下ハ上地林ニ

密接シ境内風致ノ美觀ヲ添ヘ

宗規及規則

宗規及規則

寺院境内地紀念碑建設願

何郡何村大字何宗何々寺前住職故何某氏ハ明治何年當寺ニ在住以來同何年何月ニ至ルマテ至誠其職ニ盡サレタルノミナラス當寺法要費ヲ補ヒテ毎年法要ヲ爲シ又修繕費改築費及ヒ土地ヲ寄附シテ永遠維持ノ基礎ヲ定メ候等ノ事歴有之候則雖新後寺領沒收及ヒ檀家減少ノ爲メ自然法要執行ノ費用十分ナラサリシモ自ラ是等ノ費用ヲ支出シ法要上少シモ失墜ノ義無之今日ニ至リシハ全ク同氏ノ功績ニ有之又明治何年本堂ノ改築同何年庫裡ノ改築等ノ費用モ凡テ同氏ノ寄附ニテ支辨シ殊ニ同何年永遠當寺ノ基礎ヲ鞏固ナラシメシカ爲メ自己所有ノ境外地二千坪ノ私有境ヲ當寺有地ニ寄附シ併セテ其周圍ニ林立セル樹木ヲモ寄附シテ風致ヲ添ヘタル等ノ事情有之當寺ニ對シ其効勞鈔カラス候間特ニ當寺ノ境内地ヲ撰テ同氏ノ碑表ヲ建設セントスル儀ニ有之候間御許可相成度別紙碑文寫并ニ圖面添付此段奉願候也

年月日 何縣何村大字何

何寺住職 織 氏 名

右檀徒總代 三 名

府縣知事宛

一碑文ノ寫及建碑ノ位置ヲ示シタル現境内ノ圖面ヲ添フ

○寺有土地買入許可願

何府縣市郡區町村字

新義真言宗智山派

何 寺 院

府縣郡町村大字地番 持 主 何 某

一 地目 反別

地價金何圓也

買入代金何圓也

右ハ今般當寺永續資料トシテ前記ノ地所買入度相互異議無之尤モ買入代金ハ檀信徒ノ寄附金ヲ以テ支辨シ毫モ寺院ニ負債等生起セサル義ニ候間願意速ニ御許可相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副仲相添ヘ此段相願候也

年月日

右寺住職及關係人連署

右地所々有者 氏 名

(備考)

一 出願ノ理由ハ假設ナレハ實際出願ノ時ハ其ノ件ニ關スル理由ヲ記載スヘシ以下之ニ同シ

府縣知事宛

●地所買入許可届

何府縣宗務支所管内

何府縣何郡何町村大字何

何 寺 院

右寺地買入ニ付何年何月何日副仲下附相成其筋ヘ書面差出候處何月何日許可セラレ何月何日所有權移轉登記ヲ了シ候間此段及御届候也

年月日

住職檀徒總代連署

管 長 宛

備考 地所其他財産ノ處分ニ關シ管長ノ副申ヲ請ヒ地方廳ノ許可ヲ得タルモノハ速ニ届出ヲナサ、レハ寺院財産トシテ財産目錄ニ記入スルコト能ハサルヲ以テ此ノ

宗規及規則

○寺院買入ノ土地ヲ明細帳ニ記入願ノ書式

●寺院買入ノ土地ヲ明細帳ニ記入願

何郡町村大字何番地字何

一田 何反歩

右土地ヲ當寺ヘ買入明治何年月日登記致シ候間明細帳ニ境外所有地トシテ御記入被成下度此段相願候也

年月日 何府縣市郡町村大字何

宗派何寺住職 級 氏 名

右檀家總代 三 名

届出ハ忘ルヘカラス

甲號

○寺院所有地賣却願

●寺院所有地賣却願

何郡何町村大字何番何字何々

一田 何反何畝歩

右土地ハ何寺境外所有地ニ有之候處本堂改築ノ儀何年月何日御許可ヲ得テ目下工事中ノ處折柄圖ラズ本年ノ凶作ニ遭遇セシ爲メ金融逼迫從テ寄附金等モ無之此儘工事ヲ中止スルモ遺憾ノ至リニ有之候間前記地所賣却ノ上改築費ニ補充仕度候間御許可被成下度此段奉願候也

年月日 何府縣市郡町村大字何

宗派何寺住職 級 氏 名

右寺檀家總代 三 名

府縣知事宛

乙號

○地所賣却許可願

何府縣市郡町村字

地番

一地目 反別

地價金何圓也

持主 何 寺

一地目 反別

持主 何 某

地價金何圓也

(備考) 交換地所ハ就レカ一方朱書ニシ見易カラシムヘシ

右ハ今般相互土地ノ情況上交換致度利害ニ付雙方異議無之候間願意速ニ御許可相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副仲相添ヘ此段相願候也

年月日

連署人ハ前願書式ニ準シ住職、檀徒總代及交搭

地所有人並ニ法類本寺署名捺印スヘシ

(備考) 地所交換ノ場合ハ寺有地所ヲ以テ他ノ所有地ト

交換スルトキハ兩地ノ坪數價格同等若シクハ其以上ノ

場合ニアラザレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

又交換地ニ付テハ所屬稅務署ノ謄本カ或ハ町村長ノ證

明アル土地證明書及甲乙兩地ノ利害比較表ノ添附ヲ要ス

宗規及規則

新義眞言宗智山派 何 寺院

地番 一地目 反別 地價金何圓也 賣却代金何圓也

右ノ土地拙寺所有ニ有之候處今設當村小學校設立敷地ニ相當スル由ニテ賣却方申込有之仍テ前記代金ヲ以テ賣却致度雙方異議無之候間願意速ニ御許可相成度尤モ賣却代金ハ確實ナル銀行ニ預入レ保管可致關係者一同連署シ本派管長ノ副仲相添ヘ此段相願候也

年月日

連署人ハ前願書式ニ準シ住職、檀徒總代、地所

買受人及法類、本寺署名捺印スヘシ

(備考) 地所賣却代金ハ換地ヲ購入スル平什金或ハ祠堂金等ニ編入スルノ外處理シ能ハサルモノナレハ確實ナル保管方法ヲ設ケ管長ノ承認ヲ受クルヲ要ス

○地所交換許可願

府縣市郡區町村大字

新義眞言宗智山派 何 寺院

○所有地寄附願

何郡何村大字何々番地

一何百坪 何々寺境内

右何百坪ハ何々寺ノ境内ニ使用セシメ候ヘ共私所有地ニ有之候ニ付今同何々寺境内地トシテ寄附致度候間御許可被下度該寺院住職連署ノ上此段相願候也

年月日

何郡何村大字何々番地所有者何之誰

何郡何村何寺住職及檀徒總代連署

○地所寄附願

(本願ハ公共事業ノ爲メ表面賣却行爲ヲナシ能

ハス仍テ多少ノ要償金ヲ以テ寄附スルトキ)

何府縣市郡區町村字

新義眞言宗智山派 何 寺院

地番

一地目 反別

地價金何圓也

右之地所今般當縣何處ヨリ彼處ニ通スル縣道改修敷地ニ當リ候故公共事業ノ爲メ寄附致度仍テ御許可相成度關係

者一同連署シ本派管長ノ副仲相添へ此段相願候也

年月日

連署人ハ住職、檀徒總代、法類、本寺

(備考) 要償金ハ寄附行爲ナレハ不要ナル義ナレトモ寺院財産ハ單ニ減却スヘキモノニアラサレハ多少ノ補充資金ヲ要スルモノトス、尙圖面必要ノ場合ハ一葉添付スヘシ

佛像寄附承認願

何府縣宗務支所管内

何府縣何市郡何町村大字何

何寺院

寄附佛像何々 何丈何尺何寸

立坐像 何 軀

右佛像ハ當寺財産目錄第何種第何種第何目ニ記載有之候處今何郡何村何寺院ヨリ懇請シ永久奉安可致トノコトニ付當寺ニ於テモ別段必要ノ佛像ニモ無之候條寄附致度候

間御承認相成度此段連署ヲ以テ出願候也

年月日

連署人ハ兩寺住職、檀徒總代

管長 宛

備考、寄附佛像ハ第四種第十目タルヘシ若シ第一種第一目タル時ハ知事ノ認可ヲ要ス

○地所受寄附許可願

何府縣市郡區町村字

新義眞言宗智山派 何寺院

地番

一地目 反別 持主 何 某

地價金何圓也

右ノ何所今般持主某ヨリ祖先追福ノ爲當寺ノ基本財産トシテ寄附致度申出候處雙方ニ於テ異議無之仍テ寄附受ケ致度候間願意速ニ御許可相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副仲相添へ此段相願候也

年月日

新義眞言宗智山派 何寺院

地番

一地目 反別 持主 何 寺

地價金何圓也

右當寺所有ノ山林ニ有之候處今何地ニ開墾致度檀徒總代ニ於テモ異議無之候間願意速ニ許可相成度關係者一同連署本派管長ノ副仲及施業方法書圖面相添へ此段相願候也

年月日

連署人ハ住職、檀徒總代、法類、本寺

開墾施業方法

所有地 何府縣市郡區：地番地目記載

全反別 何反何畝歩

開墾反別 何反何畝歩(分筆開墾ノ場合)

開墾願人 所在地及寺院名記載

開墾地目 田、畑、宅地等

施業法 開墾方法記載ス

土性 地質、肥瘠

地表 混地雜草塵芥木竹雜生スルコトヲ記載ス

地勢 高低、傾斜、平坦、凹凸等ノ類

○地目變換許可願

何府縣市郡區町村字

新義眞言宗智山派 何寺院

地番

一地目 反別 持主 何 寺

地價金何圓也

右ノ地所從來畑地ニ有之候處今般宅地ニ變換致度候間願意速ニ御許可相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副仲相添へ此段相願候也

年月日

連署人ハ前書式ニ準シ住職、檀徒總代及法類、

本寺署名捺印スヘシ

(備考)地 目變換ハ地方廳ノ許可ヲ得タル後稅務省へ届出土地臺帳ノ訂正ト地價ノ修正ヲ要ス或ハ稅務署ノ許可ヲ得タル後地方廳へ明細帳ノ訂正ヲ願モ差支チシ

○地所開墾許可願

何府縣市郡區町村字

宗規及規則

宗規及規則

林木種 松、杉、雜木等ノ類
林木齡 何年
疎密 ……
實行伐採 ……
己上

右之通り相違無之候也

年月日

往職、檀徒總代、連署

(備考) 開墾願書ニハ圖面一葉添附スルコト猶開墾成効ノ上ハ稅務署及宗務所ニ届出ツヘシ

○地所々有名義訂正願

何府縣市郡區町村字
新義眞言宗智山派 何 寺院

地番

一 地目 反別

持主名義

某

地價金何圓也

右之地所從來當寺所有ニ有之候處明治何年地價修正ノ際誤テ當寺檀徒總代某(或ハ住職其他)ノ名義ヲ附シタルコト寺院財產整理上不都合ニ付前記ノ土地所有名義ヲ當寺名ニ御訂正相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副仲相添

此段相願候也

年月日

連署人ハ前書式ノ署名人ニ土地所有名義者ノ捺印ヲ要ス
地方長官又ハ稅務署長宛

○地内地貨渡許可願

府縣市郡區町村大字
新義眞言宗智山派 何 寺院

地番、、、、

境内地反別何畝歩

官(民)有地

地價金(民有地ノトキ)

內 何畝歩

貨渡地

貨渡料一ヶ月金何圓也

右當寺境内ニ有之候處何月何日ヨリ向フ三ヶ月間何郡區何町村大字何々番地何某ハ參詣人休息所建設ノ爲メ前記ノ畝歩貨渡シ度尤モ該地域ハ圖面朱引ノ通り寺院ノ風致其他法要等ニ毫モ支障無之又貨渡料ハ當時修繕費ノ内ハ差加候間願意速ニ御許可相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副仲並ニ圖面相添ヘ此段相願候也

年月日

連署人ハ前記ノ通り

地方長官宛

(備考) 境内ノ地貨與期限ハ三ヶ月ヲ越ユル能ハス又目的ハ永住家屋等建設ヲ許サ、レハ若シ期限延長スルトキハ繼續貸與ノ手續ヲナスヘシ 又一時限リノモノハ(例ヘハ大法要ノ期間中)ハ許可ヲ要セス(明治三十六年十一月內務省令第十三號參照スベシ)

●堂宇貸與承認願

何府縣何宗務支所管内
何府縣何市郡何町村大字何々

何 寺院

本堂又ハ庫裡ノ一部 坪數何坪

貸與料一ヶ年(又ハ一ヶ月)何圓也

右ハ當寺本堂(又ハ庫裡)ノ一部當村小學校新築迄貸與ノ義當該町村長ヨリ請求有之右ハ公共事業ナルヲ以テ前記ノ料金ニテ貸與仕度尤モ教會法要其他寺務上ニ支障無之又

宗規及規則

貸與中ハ寺院ノ體面ヲ汚瀆セス火災等ニモ留意可致候間特ニ御承認相成度此段連署ヲ以テ出願候也

年月日

連署人前記ノ通り

管長 宛

○墓地拂下地目變換願

(備考) 本願ハ東京市内寺院ニシテ市所有ノ墓地ヲ拂下宅地ニ變換スル場合ニ必要ナルモノナリ(若シ寺院所有墓地ナルトキハ改葬ノ上宅地ニ變換スヘシ)

東京市區町番地

新義眞言宗智山派

何 寺院

地番、、、、

一 墓地全坪數記載

內

(分割拂下ノ場合)

何坪、、、、

但シ改葬濟

宗規及規則

右ノ墓地從來何寺ニ於テ管理罷在候處今般市役所ノ諭旨ニ基キ宅地ニ變換シ何寺ノ固定財產ノ一部ニ致度尤モ何年何月何日所轄警察署ノ許可ヲ得テ改葬濟ニ有之且墓石所有者ニ於テモ異議無之候間相當代價ヲ以テ御拂下相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副伸及圖面相添へ此段相願候也

追テ改葬費及拂下代金ハ關係者ニ於テ支辨可致候也
年月日

連署人ハ住職、檀徒總代、及法類本寺
東京市參事會東京市長某殿

(備考) 墓地拂下チナスニハ其旨趣チ市内發行ノ新聞紙三四ニ一週間已上ノ廣告ヲ爲シ墓石ノ有緣無緣ヲ明ニシ其廣告切拔ト有緣墓石ノ所有人承諾書ヲ添へ所轄警察署長ノ許可ヲ得テ改葬ヲ遂行スヘシ
又改葬費及拂下代金ハ凡テ其豫算ヲ立テ該金ノ收支並ニ金員出途方法書ヲ宗務所宛ニ認メ添書願ニ添附シ出願スヘシ

○寺有基本金一時使用許可願

府縣市郡區町村大字

新義真言宗智山派 何 寺院

一金何百圓也 什 金 一時使用額

右ハ當寺明細帳ニ書上置候什金ニ有之候處今般地所買入ノ爲メ一時至急ヲ要シ檀信徒ニ於テモ出金ノ途無之一同協議ノ上前記什金ノ内何圓也使用仕度尤モ該金ハ別紙書面ノ方法ニ依リ填補仕候間御許可相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副伸及填補方法書相添へ此段出願候也
年月日

連署人住職、檀徒總代、法類、本寺
地方長官宛

●地所賣却代金保管及利

子用途法承認願

何府縣何宗務支所管内

何府縣何市郡何町村大字何々

何 寺院

一金何百圓也 利子一ヶ年 金圓也

書式寺院境内樹木伐採願

一杉立木 目通 地本 (明治三十六年三月二十六日內務省令第三號第三條ノ範圍即チ總樹木ニ對シ其ノ一割一松立木 目通 何本 (同上ノ範圍即チ總樹木ニ對シ其ノ二割) 右ハ當寺境内地ニ存在スル樹木ニシテ別ニ風致木ニモ無之ニ付今般當寺本堂及庫裏修繕用トモテ伐採致度候間御許可被成下度別紙圖面相添へ此段奉願候也
年月日 何府縣市郡町村大字何

宗派何寺住職 級 氏 名

右檀家總代 三 名

府縣知事宛

附屬圖面ハ現境内ノ地圖伐採セントスル樹木ノ位置ヲ朱書シ且ツ總樹木ノ數ヲ類別記載ヲ要ス

(注意) 境内官有地ノ木竹ハ明治三十六年三月二十六日內務省令第二號第三條第一項ニ限定セラレタル建造物修用ノ外伐採スルコトヲ得ス而シテ其ノ伐採モ同省令第三條第一項第一號第二號ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ス然レトモ枯損木其ノ他障礙木等ハ事實果シテ然ルニ於テハ伐採許可セラレヘシ

○境内枯損木伐採願

右ハ明治何年何月何日御承認ヲ經テ何月何日地方廳ノ許可ヲ得テ賣却セル所有田何筆ノ賣却代金ニ有之候處相當ノ換地ヲ購入スル迄住職及檀徒總代連名ニテ何々銀行ニ預入シ確實ニ保管仕リ又利子ノ義ハ寺院收得ノ財產トシテ住職ニ附與致度候間御承認相成度此段連署ヲ以テ出願候也
年月日

連署人ハ住職、檀徒總代

管長 宛

備考一 右承認願ハ支所管理ノ奥印ヲ要スルコト

備考二 什金、祠堂金、保存金、共ニ本書式ニ準シ保管承認ヲ受クヘシ 但シ利子ハ堂宇修繕費又ハ法要費ニ充ツル外使用ヲ許サレス

○寺院境内樹木伐採願ノ書式

宗規及規則

宗規及規則

府縣市郡區町村大字

新義真言宗智山派 何寺院

枯損木何 目通何尺何寸 何本

右ハ當寺境内樹木ニ有之候處數年來枯損ノ爲メ腐蝕ヲ生シ候間伐採御許可相成度關係者一同連署シ本宗管長ノ副仲相添ヘ此段相願候也

年月日

連署人ハ住職、檀徒總代

地方長官又ハ郡長宛

(備考) 病木、風損木、障礙木、伐採ハ凡テ此ノ書式ニ準シ認ムベシ

○境外所有地上立竹木伐採處分願

府縣 市郡 町村大字何々

新義真言智山派 何々寺院

何郡市何町村大字何々字何々地番

一山林 反 畝 步 上立木

樹種 枝目 下通 何本 賣却價格

.....

計 計 計

(伐採木數全部記入ノコト)

右ハ當寺院所有境外所有地上立(竹)木ニ有之候處今般當寺本堂庫裡修繕用トシテ伐採(又ハ本堂庫裡修繕ニ付伐採賣却シ右修繕費ニ充當)致度候間御許可被成下度土地證明書修繕見積書並ニ本派管長副仲相添ヘ關係人連署上願候也

大正 年 月 日

右寺院住職

級 氏 名印

右寺檀(信)徒總代人

氏 名印

氏 名印

氏 名印

右寺法類

府縣 市郡 町村 寺院住職

追テ工事ハ御許可ノ日ヨリ滿何月間ニ成效可致候也
年月日

右寺住職(又ハ兼務住職)

氏 名印

住所番地職業

右寺檀徒(又ハ信徒)總代氏名印

同上

同上 氏 名印

同上

同上 氏 名印

同上.....何寺住職

法類 氏 名印

同上.....何寺住職

本寺 氏 名印

地方長官宛

△設計收支豫算書

(本願書ニ添附スヘキモノ)

新築經費收入豫算額

一金何圓也

內 譯

住職某出金額

二百九十七

級 氏 名印

府縣 市郡 町村 寺院住職

府縣知事宛

備考 修繕見積書ニハ該工費(明細ナルヲ要ス)及竣成期間等修繕願出ノ時ト

同様ナルモノヲ提出ノコト、但シ修繕願出ト同時ノ時ハ省略スルモ可ナリ

○堂宇新築許可願

(堂宇ハ假設ナレハ實際建物ニ書換ユヘシ)

何府縣市郡區町村字

新義真言宗智山派 何寺院

新築堂宇ノ何道何葺 間口何間 建坪何坪

右ハ何寺堂宇無之法要教會等ニ不都合ヲ感候故今回檀信徒一同協議ヲ遂ケ別紙圖面朱引ノ個處ニ前記ノ堂宇新築致度候間願御許可相成度關係者連署本派管長副申及設計豫算書圖面相添ヘ此段相願候也

宗規及規則

宗規及規則

一金何圓也 檀徒寄附金額
 一金何圓也 信徒寄附金額
 一金何圓也 積立金額
 一金何圓也 支出豫算額

内譯
 一金何圓也 材木一式見積額
 一金何圓也 大工手間見積額
 一金何圓也 其他種目記載
 一金何圓也 豫備金額

已上

右之通り相違無之支辨仕り萬一支出超過ノ場合ハ住職及檀信徒ニ於テ補充方法ヲ講シ寺院トシテ負債ヲ生スル如キコト致間敷候也

年月日

住職及檀徒總代連署

(外ニ建物圖面及境内見取圖面添附ノ事)

(備考) 新築ノ理由ハ假設ナレハ實際ニ當リ理由ヲ記載スヘシ已下準知

○堂宇改築許可願

何府縣市郡區町村大字

相成度關係者連署シ本派管長副申及設計豫算書圖面相添へ此段相願候也

追書同上

年月日

△連署人、設計書、圖面(一葉)前記ノ通り

○堂宇取毀許可願

府縣市郡區町村大字

新義真言宗智山派 何 寺院

取毀堂宇 何造何葺 間口何間 建坪數
 右ハ當寺堂宇建設後數十年ノ星霜ヲ經過シ傾斜甚シク危險ニ有之候條改築ヲ企圖候迄一時取毀度候間願意速ニ御許可相成度關係者一同連署シ本派管長副申及圖面相添へ此段相願候也

年月日

△連署人前記ノ通り圖面一葉添附ノ事

○堂宇移轉許可願

府縣市郡區町村大字

新義真言宗智山派 何 寺院

宗規及規則

新義真言宗智山派 何 寺院
 從來堂宇 何造何葺 間口何間 建坪何坪
 改築堂宇 同上 同上 同上

右ハ當寺從來ノ堂宇材質腐蝕シ修繕ノ見込無之ノミナラズ法要教會等ニ狹隘ヲ感シ候條從來ノ堂宇ヲ取崩シ前記ノ通り改築仕度檀信徒一同協議決定致候間願意速ニ御許可相成度關係者連署シ本派管長副申及設計豫算書並ニ圖面相添へ此段相願候也

年月日

△連署人及豫算書ハ前記ノ通り

△圖面ハ從來ノ本堂及改築堂宇トノ二葉ヲ添附スヘシ

○堂宇再建許可願

何府縣市郡區町村大字

新義真言宗智山派 何 寺院

再建堂宇 何造何葺 間口何間 建坪何坪
 右ハ當寺堂宇何年何月何日燒失(又ハ倒潰)致候間今般檀信徒一同協議致前記ノ通り再建仕度候條願意速ニ御許可

移轉堂宇 何造何葺 間口何間 建坪數

右ハ當寺堂宇從來ノ個處ニ有之候テハ火災等ノ憂モ有之仍テ別紙添附ノ圖面朱印ノ處へ移轉仕度尤モ寺院ノ風致ヲ損害致サス候間願意速ニ御許可相成度關係者一同連署シ本派管長副申及設計豫算書並ニ圖面相添へ此段相願候也

年月日

△連署人、設計書、圖面等前記ニ準スヘシ

○堂宇増築許可願

府縣市郡區町村大字

新義真言宗智山派 何 寺院

現在堂宇 何造何葺 間口何間 建坪數
 増築 何坪

右ハ當寺堂宇現在ノ建坪ニテハ法要教會等ニ頗ル狹隘ヲ感シ候間今般檀信徒一同協議ノ結果前記ノ通り増築致度候間願意速ニ御許可相成度關係者一同連署シ本派管長副申及設計豫算書並ニ圖面相添へ此段相願候也

年月日

宗規及規則

△連署人、設計書、圖面等前記ニ準スヘシ
但シ圖面中増築ノ個處ハ朱引ヲ要ス
(備考) 増築修繕ノ場合ハ本願ニ修繕ノ理由及設計等前
記ノ願書式ヲ參酌シテ製作スヘシ

○堂宇名義變更許可願

府縣市郡區町村大字
新義眞言宗智山派 何 寺院
假堂宇 何造何茸 間口何間 建坪數
右ノ建物從來假堂宇トシテ使用候處今同新ニ堂宇新築致
シ候間前記建物ヲ庫裡ニ使用仕度仍テ名義變更ノ義御許
可相成度關係者一同連署シ本派管長副申及圖面相添へ此
段相願候也
年月日

○堂宇改築模様替許可願

△連署人前記ノ通り圖面一葉添附ノ事
府縣市郡區町村大字
新義眞言宗智山派 何 寺院
(模様替トハ一旦許可ヲ得タル建
物ノ模様ヲ變更スルモノヲ云フ)

堂宇 何造何茸 間口何間 建坪數
右ノ堂宇何年何月何日御許可ヲ得テ段ニ工事ニ着手致
候處設計上不都合ノ處有之仍テ乙圖面朱引ノ通り模様替
仕度候間願書特ニ御許可相成度關係者一同連署シ本派管
長副申及設計書並ニ圖面二葉相添へ此段相願候也
追テ書同上
年月日

○堂宇修繕許可願

△連署人、設計書、圖面(甲乙二葉)等前記
ノ通り但シ設計豫算ニ變更ナキ範圍ニ於
テ模様替スルモノナレハ設計書ヲ要セス
願面ニ記入スヘシ
府縣市郡區町村大字
新義眞言宗智山派 何 寺院
堂宇 何造何茸 間口何間 建坪數
右堂宇近頃大破致候ニ付有形ノ儘修繕致度候間願書御許
可相成度關係者一同連署シ本派管長副申並ニ設計豫算書
圖面相添へ此段相願候也
追テ書同上

年月日

○寺院合併願

△連署人、設計書、圖面等前二同シ
何府縣何市郡何町村
新義眞言宗智山派 何 寺院
當寺ハ別紙事由書ノ通到底維持ノ見込無之ニ付何府縣何
市郡何町村同派何寺へ合併致度候間御許可被成下度財產
ハ別紙ノ通處理致度候條併テ御許可相成度此段管長副申
チ以テ奉上願候
(住職、本寺法類、檀徒總代、組寺總代)

○寺院創立願ノ書式

府縣知事宛
理由書及合併後ノ財產處分方法並ニ同豫定明細帳等添
付ノコト
何郡何村ハ明治何年ノ開墾地ニシテ最初ハ人家僅ニ五六
戸ナリシモ漸次増加シテ現今三百餘戸ト相成リ遂ニ一村
ヲ成スニ至リタルモ新開墾地ニ付近傍ニ一ヶ寺モ無之其
ノ最近ノモノト雖トモ尙二十餘里ヲ隔リタル何々寺アル
ノヨリ然ルニ當村全體何宗派ノ信徒ニ有之候間別紙ノ通り
宗規及規則

一時創立致度候間御許可相成度此段奉願候也
年月日 何縣何郡村大字何

創立者何某外何百人總代

- 府縣知事宛
別紙ハ左ノ如シ
一 豫定明細帳 境內坪數
二 本堂庫裏ノ位置ヲ示シタル見取圖面
三 維持ノ方法ヲ記載シタル書類

○寺院本堂庫裡改築願ノ書式

本堂庫裏改築願
當寺本堂庫裏何年何月何日類燒致シ候ニ付今般檀家總代
協議ノ上建築費ヲ支出シ別紙設計仕様書ノ通り改築仕度
候間御許可相成度此段本派管長副申相添奉願候也
年月日 何府縣何市郡何町村何々
何宗派何寺住職 級 氏 名
右檀家總代 三 名
府縣知事宛
(注意) 府縣知事宛ナルモ郡長分任事項ナルニ付郡長ニ

宗規及規則

提出ス改築費用ヲ一般公衆ノ寄附金ニ依ル場合ハ本願ノ追書ニ「追テ本願書改築ニ關スル寄附金募集願ハ別願書トシテ差出候間同時ニ御許可相成度爲念此段申添候也」記載ヲ要ス
改築明細調書添付ノコト

○寺院本堂庫裏修繕願ノ書式

寺院本堂庫裏修繕願

寺院本堂庫裏ハ大破致シ到底小修繕ノ能クスル處ニアラサルヲ以テ今般檀家總代協議ノ上建築費ヲ支出シ別紙設計仕様書ノ通り修繕仕度候間御許可相成度此段本派管長副申相添奉願候也

年月日 何縣郡町村大字何

何宗派何寺住職 級 氏 如
右檀家總代 三 名

府縣知事宛

(注意) 寺院本堂庫裏改築願書式參照

但小修繕ノ如キハ許可ヲ要セサルモ寄附金ヲ募集スルカ如キ場合ハ凡テ許可ヲ經サル可カラス

○佛堂明細帳訂正願

何縣何町村大字何

○明細帳脫漏記入願

府縣市郡區町村大字

新義眞言宗智山派

何 寺 院

記入物件地所ト假定

右ノ地所當寺所有ニ有之候處盡ニ明細帳書上ノ際脫漏シタルコト今回發見致シ候間當寺明細帳へ御記入被下度關係者一同連署シ本派管長副申相添へ此段相願候也

年月日

連署人前願通り

○明細帳誤謬訂正願

府縣市郡區町村大字

新義眞言宗智山派

何 寺 院

訂正物件地所ト假定

(備考) 誤謬訂正ノトキハ對照ノ爲メ孰レカ一方朱書スヘシ

右ノ地所從來墨書ノ通り書上置キ候處今回誤謬ナルコト發見致候間前記朱書ノ通り御訂正被下度關係者一同連署シ本派管長副申相添へ此段相願候也

年月日

宗規及規則

一何々堂 堂宇 間口七尺 奥行八尺 假堂
右佛堂ハ明治十二年書上ノ明細帳ニハ堂宇無之旨記載セシモ右ハ當時假堂ニ付假堂ハ明細帳ニ記載スヘキモノニ無之ト誤解致シ記載セサリシ儀ニテ今更不都合ノ次第ニ候へ共前記ノ通り明細帳訂正被成下度此段本派管長副申相添奉願候也

年月日 右何々堂受持

何寺住職 級 氏 名
右信徒總代 三 名

府縣知事宛

○明細帳訂正願

何縣何郡町村大字何

新義眞言宗智山派 何 々 寺

一境内官有地第三種八百坪

當寺境内地ハ明細帳ニハ六百坪ト有之候得共右ハ誤謬ニテ全ク八百坪ナルコトハ官有土地臺帳並ニ今般實測致シ候處前記ノ通りニ相違無之ニ付明細帳訂正ノ儀御許可相成度此段管長副申相添奉願候也

月 日

右寺住職及關係人連署

府縣知事宛

△連署人前願通り

○脫漏寺院明細帳編入願

何郡何村大字何々

新義眞言宗智山派 何 々 寺

右何々寺ハ當村ニ從前ヨリ存在シ當村何百戸ハ凡テ該寺ノ信徒ニ有之候處今回初テ寺院明細帳へ脫漏ノコト發見致シ驚入候次第ニテ全ク明治十二年明細帳書上ヲ漏シタルモノト存セラレ候然ルニ當寺ノ從前ヨリ存在セシ事實ハ本堂庫裏ノ建物ノ古色ヲ帶ヒタルニ徴スルモ明ナルノミナラス縣廳ノ官有地臺帳(若クハ土地臺帳)ニモ記載セラレ其他別紙證據書類寫ノ通ニ有之候間寺院明細帳へ編入相成度此段本派管長副申相添奉願候也

右寺本寺若クハ法類寺

何郡何村何々寺住職 級 氏 名
右寺檀(信)徒總代 何 之 誰

(三名以上)

府縣知事宛

此書面ニ左ノ書面ヲ添フベシ

一、官有地臺帳ノ寫

宗規及規則

- 一、寺院ノ存在ヲ認ムヘキ證據書類(過去帳ノ如キモ)
- 一、本堂庫裡等ヲ示シタル現境内見取圖
- 一、明細帳

●建物新築許可及落成届

何府縣宗務支所管内
何府縣何市郡何町村大字何

何 寺 院

右寺建物新築ニ付何年何月何日副申下附相成其筋へ書面差出候處何月何日許可セラレ何月何日落成候間收支決算書相添へ此段及御届候也

年 月 日

連署人 同 上

管 長 宛

備考 建物落成届ニハ收支決算書ヲ添附ス

ヘシ

○寺院創立移轉合併ニ關スル書式

●寺號移轉許可願

府縣市郡區町村大字

新義眞言宗智山派

何 寺 院

右寺儀ハ從來少檀無祿ニシテ將來維持ノ方法困難ニ有之候處今同雙方合議ノ上何府縣市何郡區何町村大字何字何何番地へ右寺號ヲ移轉シ永遠存立仕度尤モ從來ノ明細帳ニ記載セル佛像過去帳等ハ別紙第一號書ノ通り處分シ又本願御許可相成候上ハ第二號書ニ明記セル宅地建物始メ悉ク寄附仕リ同寺永久ノ維持資ニ充テ度候條願速ニ御許可相成度依テ別紙兩寺ノ圖面及附屬書類ヲ附シ相互關係者一同連署シ本派管長副申相添へ此段相願候也

年 月 日

右寺住職(又ハ兼務住職)

氏 名印

住所番地職業

右寺檀徒總代 氏 名印

同 上 氏 名印

同 上 氏 名印

同 上 氏 名印

同 上 氏 名印

何冊

一過去帳
右何點ハ移轉地へ送附シ永遠本尊ヲ奉祀可致候 但シ移轉費ハ關係者ニ於テ支辨候也

官(民)有地

(備考) 民有地ノトキハ地番地價ヲ記入スヘシ

右境内地ハ移轉地遠隔ニシテ保護上困難ニ候間緣故寺院何府縣市何郡區何町村大字何某寺院へ寄附可致候也(若シ官有地ノトキハ拂下ノ手續ヲ了シタル上寄附スルコトヲ記載スヘシ)

其他境外地及建物什具器具等其處分方法ヲ前記ノ如ク記載スヘシ

前記ノ通り佛像其他ハ移轉地へ奉送シ永遠ニ供養シ又境内及境外地並ニ什具器具ハ前顯ノ通り處分可致候也

年 月 日

連署人ハ住職、檀徒總代、法類、本寺

(第二號書)

印紙 寄附約定證

地番、、、、

一郡村宅地何畝歩

持 主 某

(第一號書)

地方長官宛

府縣市郡區町村 字

新義眞言宗智山派

何 寺 院

一本尊阿彌陀如來 御丈何尺 立坐像 壹軀

一兩脇土 同 同 何軀

宗規及規則

宗規及規則

地價金何圓也

(備考) 右地所ハ將來寺院境内トナスヘキモノヲ記スルコト

一本堂 何造何葺 間口何間 建坪數 持主某

一庫裡 同 同 同 同

一門 同 同 同 同

一物置 同 同 同 同

(備考) 右ハ將來寺院ノ所有建物ニ屬スヘキモノヲ記スルコト、又境外地トシテ寄附スルトキハ此次ニ列記スヘシ

一佛具 (明細ニ列記スヘシ)

一什器及器具 (同)

一疊建具 (同)

一金何百圓也 維持資金

(備考) 移轉後其寺院ヲ維持スヘキ資料ナレハ不動産タル地所ナキトキハ將來維持ニ足ルヘキ金員ヲ寄附スルコト、若シ地所アルトキハ必スシモ要セス

一金何十何圓也 檀徒施入年額豫算

一米穀何斗何升也 檀徒施入年額豫算

一豫約檀徒數 何十戶 人員何人

同 同

一豫約檀徒數 右ハ某寺移轉御允可ノ上ハ同寺永續資トシテ前記ノ土地建物其他列記セル物件悉皆速ニ其持主ヨリ寄附可仕候尤モ土地臺帳ニ拘ハル者ハ所有權移轉ノ登記手續ヲ可致候也

年月日

住所番地職業 名印

地所寄附者 氏 名印

同 上 名印

建物 同上 氏 名印

(其他寄附者連署ノ事)

同 上 名印

同上 親戚 氏 名印

同 上 名印

保證人 氏 名印

同 上 名印

豫約檀徒總代 氏 名印

同 上 氏 名印

同 上 某寺住職 名印

組寺總代

氏

名印

(備考) 寺號移轉願ハ前記ノ書面ノ外ニ地方廳ヘ書上アル明細帳寫覽通ト現在寺ノ圖面ト將來寺院ノ境内トスヘキ地所建物ノ圖面トヲ要ス

移轉地ニシテ從來民家又ハ新ニ建設スル堂宇ニ移轉スルトキハ四隣居住者ノ承諾書ヲ要ス

○新寺創立寺號公稱許可願

(備考) 新寺創立寺號公稱ハ目下北海道廳内ニ於テ許可セラル内地ニ在テハ或ル特別ノ事情アルニアラサレハ許可ヲ得ル能ハス故ニ多クハ寺號移轉ノ手續ニ依テ其ノ目的ヲ達ス本願書ハ北海道廳内ニ於テ許可セラレタルモノニ付其例ヲ示ス

北海道廳國郡村大字

何宗派 何山何院何寺

本道廳内何國何郡何村附近ハ拓地殖民ノ土地ナルヲ以テ陸續移住民アリ當村ノ如キモ近年移住民増加シテ既ニ郡中風指ノ繁盛ヲ來シ隨テ宗教信仰ノ輩モ數多有之候然ルニ未タ當村及本郡内ニハ更ニ寺院無之爲メニ住民ハ禮佛

宗規及規則

年月日

住所番地

寺號公稱發起并 氏 名印

ニ豫約檀徒總代 同 上 氏 名印

同 上 氏 名印

追テ本願御許可ノ上ハ何某ヲ以テ住職ト相定メ度又地所建物ハ寺號名義ニ登記手續可致候也

開法スルコト能ハス且ツ弔祭葬儀ニ際シテ頗ル不便ヲ感シ常ニ愴歎致シ居候處幸ニ何宗派ノ僧何某當地ニ來リ布教スル機會ニ接シ明治何年何月當村何某等發起先本宗信徒一同協議ノ上本堂庫裡建設並ニ維持ノ方法ヲ講シテ蓄積セシ金圓既ニ何千百圓ヲ得テ明治何年何月何村何某ノ所有ニ係ル宅地何畝寄附契約ニ依リテ寺院敷地ニ充テ何年何月工事ニ着手シ何年何月別紙繪圖面ノ通り間口何間奥行何間ノ本堂竣工シ尙間口何間奥行何間ノ庫裡建設シ隨テ永續維持ノ方法モ確立シ又佛像佛具一切器具等ニ至ル迄悉ク完備セルヲ以テ何府縣市何郡區何町村大字何某寺末寺トシ寺號ヲ何山何院何寺ト公稱仕度候間願速ニ御許可被下度仍テ明細書維持方法書境内圖面及建設仕樣書檀徒信徒數人名表並ニ寄附契約書本派管長副申相添ヘ此段奉願候也

(備考三) 新寺創立寺號公稱ハ北海道廳令ニ於テ規定セラレタル條項ニ依準シ境内地坪數、建物坪數、基本財産等ニ抵觸セサル様注意スヘシ

○社寺佛堂合併跡地讓與ニ關スル件

(明治三十九年八月九日勅令第二百二十號)

神社寺院佛堂ノ合併ニ因リ不用ニ歸シタル境内官有地ハ官有財産管理上必要ノモノヲ除ク外内務大臣ニ於テ之ヲ合併シタル神社寺院佛堂ニ讓與スルコトヲ得

○社寺合併跡地無償讓與ニ關スル件

(明治四十一年五月十三日內務省理甲第四號通牒)

明治三十九年八月勅令第二百二十號ニ據リ社寺佛堂ノ合併跡地ヲ其合併シタル神社寺院佛堂ニ讓與シ得ヘキモノ該勅令發布後合併ニ因リ跡地ト爲リタルモノニ限ル

○社寺境内ハ猥ニ伐木不相成件

(明治六年七月二日太政官布告第二三五號)

社寺境内ノ樹木ハ假令其社寺修繕等ニ相用ヒ候共猥ニ伐木不相成候若シ難止事情有之節ハ其地方廳へ願出許可ヲ可受事

○同上有稅地ニ限リ伐木可聞届件

(明治七年十二月十日內務省甲第三一號達)

社寺境内樹木ノ義ハ昨六年第二百三十五號公布之通可相心得答ニ候得共社寺ノ私有タル確證有之有稅地ニ係候者及其町村ノ買得候確證有之候有稅地ニ係候モノニ限リ無餘儀入用有之伐木致度節ハ所有主ヨリ其事故管轄廳へ申立事實取亂相違ナキニ於テハ可聞届候此旨布達候事

○官有地境内ノ異動及伐木出願管長添書ヲ要スル件

(明治十八年十一月十四日內務省官房長通牒社丙第十八號)

明治十七年當省乙第三十七號達第二項ハ官有地ニ係ル境内ノ異動及伐木等ノ願モ該達ニ準シ管長添書ヲ要スル儀ト御承知相成度爲御心得此段申進候也

○社寺境内伐木取扱概則

(明治十五年八月二日內務省番外示達)

社寺境内樹木伐採ノ儀ハ明治六年第二百三十五號公布並八年第七號公達九年當省並教部省第十二號達十二年當省乙第三十三號達ノ趣有之官有地ニ係ルモノハ當省へ伺出處分之答ニ候處近來修繕ノ爲メ多分ノ伐木願出候向モ

有之然ルニ社寺境内ハ修繕用材培植ノ地ニ無之數百年來ノ古木一朝地ヲ拂ヒ遂ニ風致ヲ毀損スル向モ不少候條自今晴願ノ節ハ不得止分ニ限リ別紙條規ニ照シ取扱候條右廉々調査之上可伺出此旨爲心得示達候事 但縣限リ處分ニ係ル民有地第二種ハ勿論民有地第一種ニアル社寺境内樹木ト雖モ本文ノ振合ヲ以テ取扱フヘシ

(別紙)

社寺境内伐木取扱概則

第一條 社寺境内木ヲ五類ニ分チ風致木(目通寸間ニ)ヲ拘ハラス

第一類 トシ目通り一丈以上ヲ第二類 トシ同五尺以上ヲ

第三類 トシ同一尺以上ヲ第四類 トシ同一尺未滿ヲ第五類 トス

第二條 第一類第二類之木ハ伐採ヲ許サス

第三條 第三類ハ總木數十分ノ一(十本ニ)第四類ハ同十分ノ二(十本ニ)以內伐採ヲ許スコトアルヘシ

第四條 第五類ハ別ニ分通テ定メス生立ノ爲拔伐ノ外伐採ヲ許サルモノトス

第五條 社ハ本殿拜殿寺ハ本堂庫裏之造修用材ニ限リ第三條ニ據ルモノトス 但必ス仕様書具申セシム

(參照)

八年第七號公達九年第十二號達ハ神社ニ關スル件

十二年內務省乙第三十三號達ハ社寺境内木竹伐採員數表差出ノ件(二十年一月內務省訓令第)

(註) 官有地寺院境内立木ハ寺院ニ於テ栽植シタルモノ、外ハ總テ官有ナリ

○寺院境内又ハ所有地處分ノ件

(明治二十一年三月二日社寺局長通牒)

寺院境内又ハ所有地等處分方ノ義ニ付埼玉縣ヨリ伺出別紙寫ノ通指令相成候此段申進候也

(別紙)

寺院附屬地處分ノ儀稟申(二十一年二月二日)

寺院附屬ノ地所建物等賣買其他財産ニ關スル諸願ハ管長ノ添書ヲ要ス云々去ル明治十七年十月御省乙第三十七號達ノ趣モ有之候處道路堤塘河川濤梁等ノ變更改修ニ依リ地方稅又ハ町村ニテ敷地買上ノ節者沿村各所有若ハ承諾シ或ハ擧テ寄附上地地種組換出願スル等ノ場合ニ當リ寺院境内ハ官有民地ヲ問ハス全部ヲ要シ隨テ移轉出願又ハ代地若クハ移轉料ヲ下附シ及境内外ノ幾部分ヲ寄附スル等ノ場合ニ於テハ正式ノ通管長ノ添書ヲナサシメ候得共其境内ノ幾部分又ハ境外所有地ヲ上地又ハ買上候場合ニ

於テ時々管長ノ添書ヲ要シ候テハ夥多ノ日子ヲ要シ工事計畫事業施行上差支ヲ生シ取扱上困難ニ付右ノ場合ニ於テハ住職ハ勿論本寺法類並ニ檀徒總代三名以上連署買上又ハ上地地租組換等願出候節ハ管長ノ添書ヲ要セス處分致可然哉何分ノ御指揮相成度此段裏申候也

伺之通 但處分ノ都度其宗派管長へ通知スヘシ

○境内地及本堂庫裡ハ低當不相成件

(明治二十三年八月十五日) 道廳府縣(京都府) 社寺局通牒京甲第四號

寺院境内及庫裏等入質ノ儀ニ付京都府伺ニ對シ境内地及本堂庫裏ノ儀ハ法要ニ必要ナル箇所ニ付低當不相成旨本月二十三日ヲ以テ指令相成候條爲御心得此段申進候也

○社寺境内使用竹木伐採處分

(明治二十四年五月二十二日) 日內務省訓令第四六二號

官有地社寺境内ヲ他人ニ使用セシムルトキハ其社寺ヨリ管轄廳ノ認可ヲ受ケシムヘシ

但祭典等ニ際シ一時使用スルハ其社寺限り承諾スルコトヲ得

官有地社寺境内ノ竹木ヲ伐採シ及ヒ枯損木障礙木處分ニ

ル爲永久貸附スル向モ有之右ハ甚々不都合ノ次第ニ付爾後該地ハ境内官有地ニ準シ嚴重御取締有之度依命此段申進候也

○境内立木管理規則

(明治三十六年) 內務省令第二號

第一條 官國幣社以下神社并寺院佛堂境内官有地ノ竹木ヲ採取セントスルトキハ本規則ニ依ルヘキモノトス

第二條 枯損木竹又ハ障礙木竹ヲ採取セントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ

第三條 官國幣社本堂并其周圍ノ垣拜殿幣殿神饌所社務所及府縣社以下諸社本殿拜殿并寺院佛堂ノ本堂庫裏ノ造修用材ニ必用ナル竹木ハ地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ採取スルコトヲ得但神社寺院佛堂ノ合併又ハ移轉ノ場合ヲ除ク外樹木ニツキテハ左ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 目通五尺以上一丈未満ノ樹木ハ其一割以内
 - 一 目通一尺以上五尺未満ノ樹木ハ其二割以内
- 前項ニ該當セサル建造物ト雖モ古社寺保存法ニ依リ特別保護建造ニ指定セラレ又ハ同法ニ依リ修理費ノ補助ヲ受ケタル建造物及神社寺院佛堂ニ特別ノ由緒ヲ有ス

關スルモノモ前項ニ依ルヘシ前項ニ依リ社寺ヨリ認可ヲ請ク時ハ府縣知事ハ從前ノ例ニ準シ其社寺並風致ヲ保存スルコトニ注意監督スヘシ

社寺境内ノ使用料並竹木其他ノ收益ハ其社寺ノ收入ニ屬スヘシ

但收入財産ハ明治十四年當省乙第三十三號達ニ依リ整理スヘシ

○民有境内官有境内ニ準スル件

(明治二十八年四月六日) 道廳府縣宛 內務省訓令第二四〇號

社寺境内民有地使用及管理ノ方法ハ總テ境内官有地ニ準シテ取扱フヘシ

○同上訓令ニ付取締方

(明治二十八年四月八日) 道廳府縣宛 社寺局通牒社甲第一〇號

社寺境内民有地取扱方之儀ニ付四月六日當省訓第二四〇號ヲ以テ御達達ニ相成候ニ付テハ從前社寺境内民有地ハ社寺又ハ人民等ノ私有地ト同一ノモノト誤謬シ官ノ許可ヲ經スシテ樹木ヲ伐採シ又ハ休息所其他建物等ヲ設置ス

ル建造物ノ造修用材ニ對シテハ前項ヲ適用ス

第四條 前條ノ建造物ニシテ災害復舊等ノ爲メ已チ得サル事由アルトキハ前條ノ制限ニ拘ラス地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ伐採スルコトヲ得

第五條 林藪ノ經營上必要ナル拔伐ヲ爲サントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケヘシ

第六條 前二條ニ該當スルモノト雖モ神社寺院佛堂ニ由緒アル木竹及風致ニ必要ナル竹木ハ之ヲ伐採スルコトヲ得ス

第七條 境内地ノ林藪五町歩以上ニ涉ルモノハ特別保護ノ方法ヲ設ケ地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ但五町歩以下ノモノト雖モ地方長官ニ於テ必要ト認ムル場合ハ本條ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

第八條 境内地ノ林藪ニ於テハ土石切差ノ採取又ハ樹根ノ採掘ヲ爲スコトヲ得ス但神社寺院佛堂ニ於テ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此限リニアラス

第九條 地方長官ニ於テ境内地ノ林藪荒廢ノ虞アリト認ムルトキハ其他境内地ノ狀況林藪經營ノ必要アリト認ムルトキハ其經營ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第十條 境内地ノ林藪ニ接續スル原野ニ火入ヲ爲サント

スル者ハ三日以前ニ警察官署ニ届出テ境内ノ林藪ニ對シ防火ノ設備ヲナスヘシ、警察署ニ於テ必要ト認ムルトキハ前項ノ火入ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十一條 社寺佛堂ノ管理者本規則ニ依リ許可ヲ受ケヘキ場合ニ於テ其手續ヲ怠リタルトキハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第十條第一項ニ違背シ又ハ同條第二項ノ禁止又ハ制限ニ違背シタルモノハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 本規則ハ建物アル遙拜所ノ境内官有地木竹ノ管理ニ之ヲ準用ス、但第三條ニヨル遙拜殿ノ修造用材ニ限ル

第十四條 明治十五年八月二日內務省番外示達社寺境内伐木取扱概則ハ之ヲ廢止ス

第十五條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ執行ス

○神社佛堂境内地使用取扱規則

（明治三十六年內務省令第十二號）

第一條 神社寺院佛堂境内地ハ左記各號ノ一ニ該當スルモノヲ除クノ外其神社寺院佛堂以外ノ者ニ於テ之ヲ使用スルヲ得ス

用スルヲ得ス

- 一 一時限リノ使用
 - 二 參詣人休息所等其使用三ヶ月以内ニ止ルモノ
 - 三 公益ノ爲メニスル使用
- 第二條 前條ノ使用ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ神社寺院佛堂ノ承認ヲ得且地方長官ノ許可ヲ得クヘシ但シ前條第一號ノ場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受ケルヲ要セス

- 一 事由
- 一 名稱
- 一 構造形狀寸法等ノ概要但シ必要ニ應シ圖面ヲ添附スヘシ
- 一 文字圖畫ヲ記スルモノハ其文字圖畫
- 一 期限
- 一 使用料

一 坪數位置、但シ必要ニ應シ見取圖ヲ添附スヘシ
前項各號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ亦前項ニ同シ

第三條 地方長官前條ノ許可ヲ與ヘントスル場合ニ於テ其事項第一條第三條ノ使用ニシテ三ヶ月ヲ經過スルトキハ內務大臣ノ許可ヲ稟請スヘシ

○佛器什物等ノ登録備置キノ件

（明治五年八月三日）
（教部省達第十二號）
府縣

各管内寺院ノ向建物ヲ除ク外一寺附屬之佛器什物等一切帳簿ヘ記載シ檀家惣代法類等奥印ノ上兼テ其寺院ヘ備置可申旨可相達候事

○寺院寄附帳什物帳ヲ綴ルヘキ件

（明治六年三月五日）
太政官布告第八九號

今般僧侶身代限規則被相定候ニ就テハ寺院所有ノ田園建造物諸器什檀家ヨリ寄附ノ分又ハ法用ニ必要ナル分并ニ古來傳承ノ寺寶等ノ部分判然相立不申候テハ差支候條左ノ規則ニ從ヒ寄附帳什物帳相綴リ置可申候

- 一 寄附帳ニハ何年何月何誰寄附ノ田園反別建造物坪數諸器物ノ實分ニ至ルマテ詳細ニ記載スヘシ
- 一 什物帳ニハ法用ニ必要ノ分并ニ寺寶ヲ區別シ記載スヘシ
- 一 右二帳二部ツ、相綴リ檀家法類共兩人以上并ニ其地ノ戶長檢査ノ上各姓名ヲ署シ之レニ調印シ一部ハ戶長役場ニ藏シ一部ハ其寺院ニ藏シ置クヘシ

右之通相定候事

第四條 地方長官ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ其使用ヲ禁止シ又ハ其建設物ノ改造撤却其他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

措置ヲ命スルコトヲ得

- 一 制限ノ手續ヲ經サルトキ
 - 一 期限ヲ經過シタル時又ハ許可ヲ取消シタルトキ
 - 一 神社寺院佛堂ノ爲必要ナリト認メタルトキ
- 第五條 本令ニヨル許可ハ之ヲ取消スコトヲ得
- 第六條 本令ハ建物アル遙拜所ノ境内使用ニ付テモ之ヲ準用ス

第七條 本令ハ明治三十六年十二月一日ヨリ施行ス

○國稅徵收法（禮拜ニ必要ナルモノ及石碑墓地ハ差押ユヘカラサル規定）

（明治三十年三月二十）
（六日法律第二一號）

第十六條 左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押ユルコトヲ得ス

四 祭祀禮拜ニ必要ナリト認ムル物及石碑墓地

○民事訴訟法（禮拜ノ用ニ供スルモノハ差押ユヘカラサル規定）

（明治二十三年四月二十）
（一日法律第二十九號）

第五百七十條 左ニ掲クル物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第十 神體佛像其他禮拜ノ用ニ供スル物

○古來所傳ノ什物祠堂金等自儘ニ處分不相成件

(明治六年七月十七日) 太政官布告第二四九號

神社佛寺共古來所傳ノ什物衆庶寄附ノ諸器並ニ祠堂金等ノ類ハ神官僧侶ハ勿論氏子檀家ノモノタリトモ自儘ニ處分可致筋無之候條若不得止儀有之候ハ、委詳具狀ヲ以テ教部省へ可申立候此旨布告候事

○持添ノ田畑山林寄附金並古文書類共同上ノ件

(明治九年二月二日) 府縣 教部省第三號達

神社佛寺共古來所傳之什物等處分之儀明治六年七月第二百四十九號公布之趣有之ニ付テハ持添之田畑山林並寄附金又ハ古文書類共總テ右公布ニ照準シ處分可致ハ勿論ニ候條此旨爲心得相達候事

○寄附ノ物件別段契約ナキ分ハ讓渡ト看做ス件

(明治九年四月十八日) 太政官布告第五四號

社寺學校病院等へ寄附候土地建物其他物品等別段ノ契約無之分ハ寄附主ニ於テ其所有ヲ離シタルモノトシ一般ノ讓渡ヲ以テ處分候條此旨布告候事

本年當省第二十二號ヲ以テ社寺寶物古文書保護ノ儀相達候ニ就テハ今般調製スヘキ目錄帳中へ記載ノ物品ハ明治十年第四十三號公布ノ通抵當トナスヘカラサル筋ニ有之依テ自今社寺ニ於テスル抵當ハ氏子檀家協議ノ書面ヲ以テ一應管廳へ申出サセ調査ノ上全ク寶物古文書ニアラサル分ニ限リ認可スヘシ此旨相達候事

但目錄帳へ記載セスト雖モ該社寺ニ別段ノ由緒アル地所建物等ハ寶物古文書ニ准スヘク且社寺ノ物件不得止義有之處分候節ハ明治六年第二百四十九號公布同九年教部省第三號達書ノ通心得ヘシ

○山林處分ハ認可ヲ受クヘキ件

(明治三十六年八月二十日) 各管長宛 宗教局通牒宗甲二十三號

寺ニ於テ其所有山林ヲ處分スル場合ハ其土地タルト立木ノミナルトヲ問ハス共ニ明治六年太政官布告第二百四十九號同九年教部省第三號達及十二年七月本省達乙第三十九號但書等ニヨリ豫メ地方廳ノ認可ヲ受クヘキハ勿論ノ儀ニ有之然ルニ明治三十二年法律第九十九號國有土地森林原野下戻法ニヨリ山林ノ下戻ヲ受ケタル寺ニシテ右地方廳認可ノ手續ヲ經ス擅ニ處分スルモノ有之哉ノ聞有之

○寺用借財ノ節連署ノ件

(明治九年十二月二十三) 日教部省第四〇號達

各管内寺院修繕其他寺用ノ爲一時不得止借財候者有之節地所除稅地ヲ建物及ヒ寄附物什器等抵當ニ書入レ候向ハ法類檀家協議ノ上檀家二名以上連署各本寺法類等ノ承認ヲ受ケ本寺ニ於テ右様ノ儀有之節ハ渾テ此手續ニ隨ヒ同宗内ニテ重立候モノ二名以上ノ承認ヲ受クヘシ決シテ僧徒一己ノ私借ト混淆無之様可致此旨寺院へ布達スヘキ事

○社寺ノ負債抵當總代ノ連署ヲ要スル件

(明治十年五月十六日) 太政官第四三號布告

神社并寺院ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ル、トキ若クハ金穀ヲ借入ル、爲メ社寺附地所除稅地ヲ建物、什器寶物、古文書類等ヲ抵當ト爲ストキハ必ス氏子檀家ト協議シ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ、若シ此連署ナキトキハ總テ該社寺神官僧侶ノ私債ト看做シ縱令右ノ抵當アルモ其効ナキモノト爲スヘシ此旨布告候事

○寶物古文書並由緒アル地所建物等ハ抵當不相成件

(明治十二年七月十四日) 府縣宛 內務省達乙第三九號

如此ハ獨リ該下戻法制定ノ精神ニ戻リ寺永遠ノ利益ヲ損スルノ虞アルノミナラス法規ノ規定ニ違反スルモノニシテ住職ノ職責上不問ニ付シ雖キ筋ニ有之候條其宗派内寺院住職ニ對シ心得違無之様嚴重注意ヲ加ヘ且ツ如上ノ行爲アルモノニ對シテハ相當處分可相成命ニ依リ此段申進候也

○栃木縣令第三十八號

神社財務規程左ノ通定

大正二年五月三十一日

栃木縣知事 岡田文次

神社財務規程

第一章 財產管理

- 第一條 神社ノ建設物ハ神事以外ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス
- 第二條 縣社以下神社ニ於テハ社殿ノ新築、増築、改築、模樣替ヲナシ又ハ特別ノ由緒アル建設物若ハ寶永以前ノ造營ニ係ル建設物ノ修理ヲナサムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ
 - 一 事由
 - 一 設計仕樣書及圖面

宗規及規則

一 工費及支辨方法

一 境内地圖面

一起工及竣工豫定期日

第三條 境外ノ土地建物ヲ貸貸セムトスルトキハ擔保又ハ相當ノ資産ヲ有スル保證人連署ノ證書ヲ貸借人ヨリ徴スヘシ但シ公共團體ニ貸貸スル場合ハ此ノ限ニアラス

第四條 明治四十一年內務省令第十二號第三條ニ依リ書畫什器類ノ貴重品ヲ登載スヘキ臺帳ハ寶物臺帳ノ様式ニ準シ調製スヘシ

第五條 明治四十一年內務省令第十二號第五條第一號ニ依ル出願ニハ其事由、買入金額及支辨方法ヲ具スヘシ

第六條 明治四十一年內務省令第十二號第五條第三號ニ關スル出願ニハ左ノ事項ヲ具スヘシ

一事由

一品目員數

一 持出ノ場所、運搬方法、持出期間

一 持出中ニ於ケル保管方法

第七條 國寶及特別保護建造物ニ對シテハ特ニ其ノ管理保護ノ方法ヲ設ケ知事ノ認可ヲ受クヘシ

チ受クヘシ但シ交換ノ場合ニアリテハ神社ニ於テ取得スヘキ土地ノ所有者ノ連署ヲ要ス

第十四條 建設物ヲ處分セムトスルトキハ其事由、所在地、名稱、建坪、及見積價額ヲ詳具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十五條 不動産及寶物以外ノ財産ト雖モ其處分ヲナス場合ニ於テ神社ノ管理者、氏子總代人又ハ崇敬者總代人ハ之ヲ取得スルコトヲ得ス

第十六條 本令中第二條第五條第六條第七條第八條第二項第九條第二項第十一條第十二條第十三條第十四條又ハ第十五條ニ依ル願届ハ官國幣社縣社ハ直ニ其他ノ神社ニアリテハ所轄市町村役場ヲ經テ差出スヘシ
第十七條 寺院佛堂ノ財産管理ニ關シテハ本章ノ規定ヲ準用ス

○栃木縣令第四十二號

寺院佛堂ノ境内地管理ニ關スル件左ノ通定ム

大正二年五月三十一日

栃木縣知事 岡田文次

第一條 境内地區域ノ變更又ハ模様替ヲナサムトスルトキハ左記事項ヲ具シ知事ニ願出ヘシ

宗規及規則

第八條 寶物及貴重品中曝涼ノ必要アルモノハ毎年適宜ノ期間ニ於テ之ヲナシ他ノ寶物貴重品ト共ニ臺帳ト對照スヘシ

寶物及貴重品ノ修理ヲナサムトスルトキハ事由仕様書修理費及支辨方法ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 寶物及貴重品ハ鎖鑰アル金庫若ハ神庫ニ格護スヘシ

前項ニ據リ雖キ事情アルトキハ適宜ノ格護方法ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 寶物及貴重品格護所ノ鎖鑰ハ神社ノ管理者之ヲ保管スヘシ

第十一條 明治四十一年內務省令第十二號第五條第二號ニ關スル出願ニハ其事由、物件、寄附者ノ住所氏名及負擔條件ヲ詳具スヘシ

第十二條 境外地ノ木竹ヲ處分セムトスルトキハ大正二年五月栃木縣令第三十六號ノ第一號様式ニ準シ其跡地經營方法ヲ具シテ知事ノ許可ヲ受クヘシ但シ賣却ノ場合ハ其方法ヲ具スヘシ

第十三條 境外地ヲ處分セムトスルトキハ其事由、所在地、地番、反別、地價金及見積價額ヲ具シ知事ノ許可

一事由

一 設計書及圖面

一 工費及支辨方法

第二條 境内ニ碑表ヲ建設セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ願出ヘシ

一事由

一 設計仕様書及圖面

一 碑文

一 維持方法

一 寺院佛堂ノ承認書

一 建設ノ位置ヲ表示シタル境内地圖面

第三條 堂宇其他工作物ノ位置ヲ變更セムトスルトキハ

左記事項ヲ具シ知事ニ願出ヘシ

一事由

一 設計仕様書及圖面

一 工費及支辨方法

一起工並竣工ノ豫定期日

第四條 本令ニ依ル願届ハ所轄市町村役場ヲ經テ差出スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

●宗規第十八號 菩提院結衆集議選任條例(明治三十八年十月二十八日內務大臣認可同年十一月二十三日發布)

第一章 總 則

第一條 本條例ハ宗憲第二章第十七條ニヨリ之ヲ定ム

第二章 選 任

第二條 本派ニ菩提院結衆三十名ヲ置キ菩提院結衆ノ内ニ就キ集議十名ヲ置ク

第三條 菩提院結衆ハ兩大會已講ノ者ニシテ大僧都ノ教師中教學ノ軌範ニ堪ユヘキ者及五

ケ年以上宗事ニ盡力シ其功顯著ナルモノヲ候補者トス

第四條 管長ニ於テ菩提院結衆ヲ選任セントスルトキハ候補者人名ヲ列記シ菩提院結衆ニ

諮詢シ多數ニ於テ適任ト認メタルモノヲ補命ス

第五條 集議ハ菩提院結衆中補命最先ノモノヨリ順次之ヲ任ス若シ補命同日ナル者アルト

キハ教師ノ高キヲ先トシ教師亦同級ナルトキハ年長者ヲ先トス

但シ順位者ノ同意ヲ得ルトキハ本條ニ依ラス特任スルコトヲ得

第六條 集議其他ノ菩提院結衆ハ管長ニ於テ召命スルトキハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第七條 菩提院結衆補缺選任ハ毎年十二月トス

但シ被選資格ヲ有スルモノナキトキハ此限リニアラス

第八條 集議ハ缺員ヲ生シタルトキヨリ三ヶ月以内ニ補缺ノ特任ヲ爲スヘシ

第九條 集議菩提院結衆ハ管長ノ特志ニ依リ諭示解任ヲ命セラレサル限リハ終身其任ニア
ルモノトス

第十條 管長ハ教學及宗治上重要ノ事項ヲ諮詢スル爲メ集議中ヨリ二名其他ノ菩提院結衆
中ヨリ三名ノ顧問ヲ任命ス

第十一條 前條顧問ノ選出ハ各互選ニ依リ任期ハ三ケ年トス

第十二條 集議菩提院結衆及顧問ニ選任セラレタルモノハ相當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スル
コトヲ得ス

第十三條 集議菩提院結衆ハ一派ノ教學其他學務ニ關シ意見アルトキハ直ニ管長ニ建議ス
ルコトヲ得

第十四條 集議菩提院結衆及顧問ハ名譽職トス

●宗機顧問選任規則

第一條 宗規第十八號第十條ニ依ル顧問ヲ宗機顧問ト名稱ス

第二條 宗機顧問ノ選舉ハ宗務所ヨリ達示シ投票ハ菩提院結衆ノ内一名ヲ立會人トシ開緘
ス

第三條 宗機顧問選舉達示ハ集議ハ同席ノ人名菩提院結衆ハ同結衆ノ人名ヲ列記シ各別ニ
ス

- 第四條 已ムヲ得サル事由ニ依リ當選人就職ヲ辭シ又ハ任期中ニ辭職ヲナスモノアルトキハ次點者ヲ就職セシム次點者辭シタルトキハ更ニ選舉ス
 - 第五條 選舉上必要ノ條項ハ宗規第四號宗會議員選舉條例ノ規定ヲ準用ス
 - 第六條 管長ニ於テ宗治其他ノ事項ニシテ諮詢ヲ要スルトキハ事ノ輕重ニ依リ召集諮詢シ又ハ書面ヲ以テ諮詢ス
 - 第七條 宗機顧問ハ管長ノ宗治ニ關スル行爲ニ對シテ意見アルトキハ諫議スル責任ヲ有ス
 - 第八條 宗機顧問ハ在職中總本山宗務所勸學院ノ職員及常在布教師タルヲ得ス
 - 第九條 宗機顧問ノ旅費等ハ本派規定ノ第二等ヲ準用ス
- 以上

●宗規第十九號 教育會條例(大正三年六月八日文 部大臣認可同日發布)

- 第一條 本條例ハ宗憲第三十四條ニ依リ之ヲ定ム
- 第二條 教育會ハ本派教育ニ關スル重要ナル事項ヲ審議シ又ハ管長ノ諮詢ニ應答ス
- 第三條 教育會ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス
 - 一 管長特選 三名
 - 一 宗會議員ノ互選 四名
- 第四條 議員ノ任期ハ三ヶ年トス補缺ニ依リ就任セラレタルモノ、任期ハ前任者ノ殘任期トス

トス

但シ宗會議員ノ互選ニシテ宗會議員ノ資格ヲ失ヒタルモノハ同時ニ失格スルモノトス

第五條 教育會ニ於テハ左ノ各項ヲ審議決定スルモノトス

- 一 教育ノ方法
 - 二 本派私立大學智山勸學院ニ關スル事項
 - 三 教育費歲入出豫算施行ニ關スル事項
 - 四 教育ニ關スル事項
 - 五 教育財團ニ關スル事項
 - 六 法資教育ニ關スル事項
 - 七 學事監督ニ關スル事項
 - 八 事教兩相ノ研究ニ關スル事項
 - 九 學生補給ニ關スル事項
 - 十 留學生ニ關スル事項
 - 十一 其他教育ニ關シ管長ニ於テ必要ト認メタル事項
- 第六條 教育會議案ハ宗務所ヨリ提出ス
- 第七條 教育會ハ教育ニ關スル事項ニ付管長ニ建議シ又ハ本派僧侶ノ建議ヲ受クルコトヲ得

第八條 教育會ハ議事細則ヲ定メ管長ノ認可ヲ得テ施行スヘシ

第九條 教育會ノ議長ハ議員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 教育會ハ毎年一回之ヲ開キ其會期ヲ三日間トス

但シ管長ニ於テ必要ト認メタル場合ニハ會期ヲ延長シ又ハ臨時ニ開クコトヲ得

第十一條 本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ實施ス

●教育會議員選舉施行細則(大正四年二月 教令第一號)

第一條 宗規第十九號教育會條例第三條宗會議員互選ニ關スル教育會議員ノ選舉ヲ宗會大

會閉會中ニ執行スルトキハ左項ニ依ル

第一項 選舉會ハ投票ヲ以テ宗務所ニ於テ之ヲ開ク其期日ハ宗務所ヨリ告示シ其投票

用紙ハ宗務所ヨリ各宗會大會議員ノ住職寺ニ配附ス

第二項 各宗會大會議員ハ前項告示投票用紙ヲ受ケタルトキハ宗會大會議員中ニ就キ

被選人四名ヲ列記投票シテ自署實印ヲ捺シ封筒ニ入レ教育會議員互選投票ト表記シ

裏面ニ自署捺印ノ上選舉期日前日迄ニ宗務所ニ差出スヘシ

投票ヲ郵送スルトキハ更ニ封筒ヲ用ユヘシ

第三項 選舉長ハ宗會大會正副議長ノ内ヨリ壹名ヲ立會人ハ宗會大會議員ノ内ヨリ貳

名ヲ管長ノ指名ニ依リ之ヲ命ス

第四項 選舉長ハ選舉錄ト共ニ當撰者ヲ宗務所ニ上申ス

第二條 前條當選者ニハ管長ヨリ當選狀ヲ交附ス

第三條 管長特選ノ教育會議員ニハ管長ヨリ特選狀ヲ交附ス

以上

●教育會議事細則(大正四年三月 告示第五號)

第一條 議員選舉最初ノ召集期日定刻後ニ宗務所參集議員總數三分ノ二ニ充テタルトキハ

宗務長假議長トナリ無記名投票ヲ以テ議長ノ選舉ヲ行フ投票過半數ヲ得タルモノヲ當選

人トシ當選人ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得サルモノトス

第二條 前條議長當選人定マリタルトキハ宗務長ヨリ管長ニ任命ヲ申請スルモノトス

第三條 議長ハ議長席ニ着キ抽籤ヲ以テ議員ノ席次ヲ定ムルモノトス

第四條 議事ハ議員總數三分ノ二以上出席シ且ツ宗務所委員出席スルニアラサレハ之ヲ開

クコトヲ得サルモノトス

第五條 開議時間ハ通常午前九時ヨリ午後三時迄トス議長ハ議事日程ニ掲ケタル議事終了

シタルトキハ閉會ヲ宣告シ其未タ議了セサルトキハ開議時間延長ヲ宣告スルコトヲ得

第六條 議事日程ハ宗務所委員ノ同意ヲ求メ議長之ヲ定ム開議案緊急動議ヲ提出シテ之ヲ

變更セントスル議員アルトキ若クハ議長自ラ必要ヲ認ムルトキハ宗務所委員ニ同意ヲ得

タル上ニ討論ヲ用井シテ會議ニ諮ヒ之ヲ變更スルコトヲ得

第七條 議員發言セントスルトキハ議長ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 議長ハ議事整理上必要ト認ムルトキハ議員ノ發言ヲ止メ又ハ中止スルコトヲ得

第九條 議員ハ一名以上ノ賛成ヲ得テ建議案ヲ提出スルコトヲ得但シ其案ヲ具ヘ理由ヲ明記シテ賛成議員ト連署シテ議長ニ提出スルコトヲ要ス

第十條 議員ノ動議ハ總テ一名以上ノ賛成議員アルニアラサレハ議題トナスコトヲ得ス

第十一條 議案ハ第一讀會第二讀會第三讀會ノ議事ヲ經テ確定議了トス
但シ事宜ニヨリ議長ハ討論ヲ用井シテ會議ニ諮ヒ讀會ヲ省略シテ確定議了ヲ宣告スルコトヲ得

第十二條 議員ハ第二讀會第三讀會ニ於テ修正案ヲ提出スルコトヲ得

但シ第二讀會ニ於テハ一名以上ノ賛成議員、第三讀會ニ於テハ三名以上ノ賛成議員アルニアラサレハ議題トナスコトヲ得ス

第十三條 通常議事ハ出席議員ノ過半數ヲ以テ其可否ヲ決シ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

重大議事ハ出席議員ノ三分ノ二以上ヲ以テ其可否ヲ決ス

第十四條 表決ノ法ハ議員ヲ起立セシメ議長其數ヲ認メ可否ヲ宣告スルヲ通常トス議長ニ於テ必要ト認メ又ハ議員ヨリ請求シ一名以上ノ賛成議員アルトキハ討論ヲ用井シテ會

議ニ諮ヒ氏名點呼若クハ記名投票無記名投票ヲ以テ之ヲ決ス

第十五條 宗務所委員ハ開議中意見ヲ陳述シ又ハ何時ト雖モ宗務所提案ノ議案ハ之ヲ撤回シ若クハ修正スルコトヲ得

第十六條 本派教學財團理事長本派私立大學智山勸學院長ハ教育會ニ出席シテ意見ヲ陳述シ若クハ書面ヲ以テ建議スルコトヲ得

第十七條 本派僧侶ノ建議ハ其案ヲ具シ理由ヲ明記シテ議長ニ提出スルコトヲ要ス議長ハ之ヲ審查委員ニ附シ其報告ニ依リ議事日程ニ加列シ若クハ相當ノ處理ヲナスモノトス

第十八條 前條ノ場合若クハ議事ニ關シ審查ノ必要アルトキハ議員中ヨリ審查委員ヲ選定シテ之ヲ審查セシム議員ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

審查委員ノ員數及ヒ選定法ハ議長ノ認ムル處ニ依リ議長ノ指命若クハ議員ノ互選トス但シ議員ノ發議ニヨリ之ヲ定メントスルトキハ一名以上ノ賛成議員ヲ得テ討論ヲ用井スシテ會議ニ諮ヒ之ヲ決ス

第十九條 審查委員ハ互選ヲ以テ委員長ヲ定メ審查ノ結果ハ委員長ヨリ議長ニ報告ス議長ハ必要ト認ムルトキハ審查ノ經過及結果ヲ委員長ヲシテ會議ニ報告セシムルコトヲ得

第二十條 確定議了ノ議案ハ議長ヨリ管長ニ開申ス

第二十一條 議事録ハ議長及幹事書記之ニ署名捺印シ宗務所ニ提出ス

第二十二條 教育會ニ幹事一名書記若干名ヲ置ク

幹事ハ教學課屬員ヲ以テ之ニ充テ書記ハ宗務所員中ヨリ選任ス

第二十三條 議員召集ニ應シタル後開議當日病氣其他ノ事故ニ依リ出席スルコト能ハサル

トキハ其理由ヲ具シテ議長ニ缺席届書ヲ提出スヘシ

第二十四條 議員病氣其他ノ事故ニ依リ召集ニ應セラレサルトキハ其理由ヲ具シテ宗務所

ニ缺席届ヲ差出スヘシ

第二十五條 議員病氣其他ノ事故ニ依リ議員ヲ辭セントスルトキハ其理由ヲ具シ管長ニ辭

任聽許ヲ願出ヘシ

第二十六條 傍聽券交附ヲ受ケタルモノニアラサレハ議事ヲ傍聽スルコトヲ得ス

傍聽券ハ議員又ハ宗務所員ノ紹介ニ依リ幹事之ヲ交附ス

但シ幹事ハ議長ノ旨ヲ稟クルコトヲ要ス

第二十七條 傍聽人ハ總テ幹事ノ指揮ニ從ヒ何等ノ事由アルモ議場ニ入り議員ノ言論ニ可

否ヲ表シ議事ヲ妨害スルコトヲ得ス

第二十八條 秘密會議ヲ要スルトキ又ハ前條ニ違犯スルモノアルトキハ議長ハ傍聽人ニ退

場ヲ命シ幹事ヲシテ之ヲ執行セシム

第二十九條 議事ニ關スル本細則以外ノ事項ハ議長ノ定ムル所ニ依ル

但シ其事項重大ニ屬スルモノハ討論ヲ用井スシテ會議ニ諮ヒ管長ノ許可ヲ得ルコトヲ

◎補遺

書式并諸法令

○寄附金募集願

何府縣何市郡何町村大字何

新義眞言宗智山派 何々寺

右舊藩時代某候ヨリ該寺接續地高何百石ヲ寺領トシテ附
與相成該寺ヲ維持致シ來リ候處維新後御改革相成候以來
右様ノ事無之僅ニ七十餘戸ノ檀家ニテ目下大破セルモ修
繕及維持ノ方法相立タサルニ付今般廣ク信仰諸人ヨリ寄
附募集ノ上修繕費及永久維持資本ニ致度候間御許可被成
下度別紙設計書及募集調書本派管長添申相添此段奉願候
也

年月日 何縣郡村大字何

何宗派何寺住職 級 氏 名

右檀家總代 三 名

府縣知事宛

募集調書

一募集ノ目的

該寺ハ資本財産ヲ有セス僅ニ七十餘戸ノ檀家ニテハ維

補遺

持及ヒ難ク遺憾ニモ維新後完全ナル修繕ヲ爲ササル爲
メ大破ノ個所多ク現ニ修理セサルヘカラサルニ相迫リ
タルニ依リ弘ク信仰諸人ノ寄附ヲ得是非修繕及維持資
本ノ設備致度目的ニ有之候

修繕費金何百何拾圓

維持資金何百何拾圓

一募集方法

該寺ノ住職及ヒ檀家總代各地ニ出張シテ募集シ住職ヨ
リ右募集ニ關スル書類ヲ添付シテ寄附ヲ申入ル、方法
ニ候

受納手簿ハ募集臺帳及一定ノ受領證ヲ備ヘ置キ金員ヲ
領收シタル時ハ直ニ記帳ノ上受領證ヲ交付シ右ノ記帳
交付ハ住職掌理ス

一募集金額 何百何拾圓

一募集區域 何々縣管内

一募集金管理方法

住職ニ於テ管理シ募集シタル金額何圓ニ達シタル時ハ
直ニ郵便貯金又ハ確實ナル銀行ニ預ケ入レ利殖シ置キ
修繕費ノ外該方法ニヨリ永遠維持スルモノトス

(別紙) 修繕設計書

一金何百何拾圓

内譯
 金何拾圓 杉何百本 但一本何拾錢ノ見込
 金何拾圓 栗何百本 但一本何拾錢ノ見込
 金何拾圓 松何百本 但一本何拾錢ノ見込
 金何百圓 何々 但何々
 金何百圓 工作料費 但大工木挽其他凡何百人
 右ノ通り設計仕候也

年月日 設計者 級 氏 名

(別紙) 三ヶ年間ノ間該寺院收支計算調(書式略ス)

(注意) 募集ノ區域二以上ノ府縣ニ跨ルトキハ内務大臣ノ許可ヲ要ス

○寺院寄附金募集延期願ノ書式

寄附金募集延期願

何郡何村大字何々寺本堂庫裏修繕寄附募集ノ儀明治何年何月何日指命第何號ヲ以テ御許可相成爾來募集ニ從事罷在候處本年凶作ノ結果一般困難ノ場合寄附金蒐集ノ見込相立タス候ニ付明治何年何月何日迄募集期限延期ノ儀御許可被成下度檀家總代連署ヲ以テ此段本派管長副申相添

奉願候也

年月日 何縣何郡何村何字何々

何宗派何寺住職 級 氏 名
 右檀家總代 三 名

府縣知事宛

●別書寄附募集從事者

住所番地 職業 氏 名 生年月日

同 上 同 上 同 上

右之者ヲ以テ寄附募集ニ從事セシメ決シテ前記已外ノ者ヲシテ募集セシメ間敷候也

年月日 連署人前記ノ通り

(備考) 寄附募集從事者ハ身分確實ナルモノヲ選ミ認可ヲ得タル者ノ外他人ヲ用ユルコト能ハス若シ己外ノ者ヲシテ募集セシムルトキハ規定ノ處罰ヲ受ケルニ依リ從事者ヲ變更シタルトキハ直ニ手續ヲナスヘ

又募集ノ目的カ本堂再建ナルトキハ建築設計書及圖面ヲ添附スヘシ

○佛像開扉許可願

府縣市郡區町村大字

新義眞言宗智山派 何 寺院

開扉佛像何々

右ハ當寺秘藏ノ佛像ニ有之候處今同諸人結縁ノ爲メ開扉スヘキ様信徒ノ懇請ニ依リ何年何月何日ヨリ何月何日迄開扉仕度勿論勸財強制的行爲ハ決シテ致間敷候間御許可相成度關係者連署シ本派管長副申相添ヘ此段出願候也

年月日 連署人住職、檀徒總代、法類、本寺

地方長官宛

(選考) 更ニ開扉執行方法書一通添ノ附コト

○佛像他管出開帳ノ件

(明治十七年三月十九日) 府縣宛
 (内務省乙第一六號達)

明治九年教部省第四號布達廢止候條自今寺院佛像他管へ持出開帳ノ義ハ該寺住職檀家總代無檀家ノ寺院及本寺法

補遺

類連署ノ上本山ノ添書ヲ以テ甲乙兩管廳へ出願セシムヘシ此旨相達候事 但寶物持出ハ不相成儀ト心得ヘシ

○佛像出開張許可願

府縣市郡區町村大字

新義眞言宗智山派 何 寺院

開張佛像 何々

右ハ當寺靈像ニ有之候處從來ノ例ニ依リ今同何縣管内へ出開張仕候明治十七年三月内務省乙第十六號達ニ基キ出願仕候間御許可被成下度尤モ御許可ノ上ハ更ニ某縣官廳ノ許可ヲ受ケヘク關係者一同連署シ本派管長副申及規約書相添ヘ此段出願候也

追テ開張ノ時間並ニ場所ノ確定次第當寺住職ヨリ御届申ヘク候也

年月日 連署人前記ノ通り

●別書開張執行規約書

一 何佛像開張法式執行スルハ素ヨリ教法ヲ擴張シ庶民化導ヲ主トシ王法ヲ翼賛スルヲ專トスルコト
 一 開張中ハ連日午前何時ヨリ始メ午前何時限リ閉閉嚴重ニ致スヘキコト

一信徒取締又ハ執行者共ニ毎日出席シ百事ヲ監シ參詣者等混雜ナキ機致スヘキコト
 一偽物ヲ飾リ衆人ヲ眩惑シ或ハ金錢強制等ノ義決シテ致間敷コト

其他必要ノ條項ヲ記載ス
 右之條々確實ニ相守リ不都合無之儘可仕此段規約致候也
 年月日 開張從事者連署

(備考) 出開張ハ内務省令第十六號ニ基キ他管内ニ出
 シルトキハ甲乙兩官廳ノ許可ヲ得タル上開張スヘシ
 又開張場所ハ豫メ決定シ當事者主任ヨリ其都度届出
 ナ爲スヘシ

●傳法灌頂及大曼荼羅供修行ハ
 管長ノ臨鑑ヲ請フヘキ件

(明治三十四年十月五日乙第三號達)
 本派ノ寺院ニ於テ傳法灌頂及大曼荼羅供等ノ大法會ヲ修行セントスルトキハ管長ノ臨鑑證明ヲ請フ儀ト心得ヘシ
 但兩大會已講ノ者ニシテ權少僧正以上ノ

教師ニ代理ヲ命セラル、コトアルヘシ
 ○托鉢取締ニ關スル件

(明治十四年八月十五日) 府縣
 (内務省達乙第三十八號)
 今般戊第二號ヲ以テ佛道各管長ヘ別紙ノ通相達候第萬一不都合ノ所業有之節ハ直ニ托鉢差止顛末詳細取調該宗管長若クハ其地方取締ヘ通知スヘシ

●本派托鉢免許方法及取締規約

(明治三十四年二月二日内務省指令管甲) 第五號認可同年二月三日甲第一號達

- 第一條 托鉢免許證ノ下附ヲ請ハントスル者ハ別紙書式ニ準シ各其宗務支所ヲ經テ宗務所ヘ願書ヲ差出スヘシ
- 第二條 免許證ハ教師試補以上ノ教師ニアラサレハ之ヲ下附セス
- 第三條 免許證下附ノ上ハ宗務所ハ地方廳(東京ハ府廳及警視廳)ヘ通知スルモノトス

但各本人ヨリモ其宗務支所ヲ經テ届出ツルモノトス

第四條 免許證紛失又ハ其他ノ事故ニ依リ更ニ下附及書替ヲ請ハントスル者ハ左ノ手數料ヲ宗務所ヘ納附スヘシ

- 一金 壹圓 一寺住職ノ者
- 一金 五拾錢 非住職ノ者

第五條 托鉢者ノ行裝ハ必ス如法ノ制服ヲ被着シ威儀嚴肅ニ步行シ若シ信施ヲ受ケタル時ハ異口同音ニ廻向スヘシ

第六條 遊廓魚市又ハ其他喧雜ノ地ニ於テ托鉢修行スヘカラス

第七條 托鉢中ハ勿論往還其他人ト談話シ又ハ猥リニ店舗ニ入り物品ヲ購求スヘカラス

第八條 托鉢免許證ハ修行中常ニ所持シ決シテ他人ニ貸與スヘカラス

第九條 内務省達ノ托鉢者心得及本取締規約ニ違背シタル者ハ其修行ヲ停止ス

修行ヲ停止シタルトキハ托鉢免許證ハ之ヲ宗務所ニ返附セシム

本人死亡ノトキハ免許願書ニ副書シタル者ヨリ免許書ヲ宗務所ニ返附スヘシ

第十條 宗務支所役員ニ於テ托鉢者心得條項及本取締規約ニ違背シタル者之アルコトヲ發見セシトキハ直チニ托鉢ヲ停止シ委細其顛末ヲ宗務所ヘ具伸スヘシ
 (書式) (住職ハ禮祿金貳圓ヲ非住職ハ金壹圓ヲ添付スヘシ)

托鉢免許證下附願
 何府縣何々宗務支所下
 何府縣郡市町村何寺住職(又ハ徒弟)
 教師稱號 姓 名
 何年月日生

補遺

一 何年月日現級拜命
私儀托鉢修行仕度就テハ内務省達ノ旨趣
ハ勿論本派取締規約ハ屹度嚴守仕候條托
鉢免許證御下附被成下度此段上願候也
年 月 日

右本人

教師稱號 姓 名印

右本寺住職

教師稱號 姓 名印

管長宛

前書之通相違無之ニ付與署進達候也

年 月 日

何府縣何々支所

管理 教師稱號 姓 名印

○僧侶托鉢解禁

(明治十四年八月内
務省甲第八號布達)

明治五年(十一月)教部省第二十五號達僧侶

托鉢禁止之儀相廢候條此旨相達候事

但托鉢者ハ管長ノ免許證ヲ携帶スヘシ

○僧侶托鉢免許方并托鉢者心得

(明治十四年八月
内務省戊第二號)佛道各宗派管長

僧侶托鉢解禁ノ儀今般別紙甲第八號布達候
ニ付テハ自今左ノ條件遵守各派僧侶(教導
職試補以上)ノ内托鉢ヲ爲サント欲スル者
免許方法及取締規約取調可伺出此旨相達候
事

○托鉢免傾方并托鉢者心得

一 托鉢ヲ免許セシトキハ左ノ雛形ニ照シ
免許證ヲ交附シ其都度願者所在ノ地方廳
ヘ通知シ東京ハ警視廳ヘモ通知スヘシ
一 托鉢ヲ行フハ午前七時ヨリ同第十一時
迄ヲ限リトス
但遠路往返ノタメ時間ヲ遷延スルハ此

限ニ非ス

一 托鉢者ハ如法ノ行装ニテ免許證ヲ携帶
シ行乞スルヲ常トス施者ノ請フアルニア
ラサレハ人家ニ接近シ濫リニ歩ヲ駐ムヘ
カラス且施物ハ施者ノ意ニ任セ敢テ餘物
ヲ乞フヲ許サス

一 托鉢者ハ一列三人以上十人以下タルヘ

ク且公衆來往ノ便ヲ妨クヘカラス

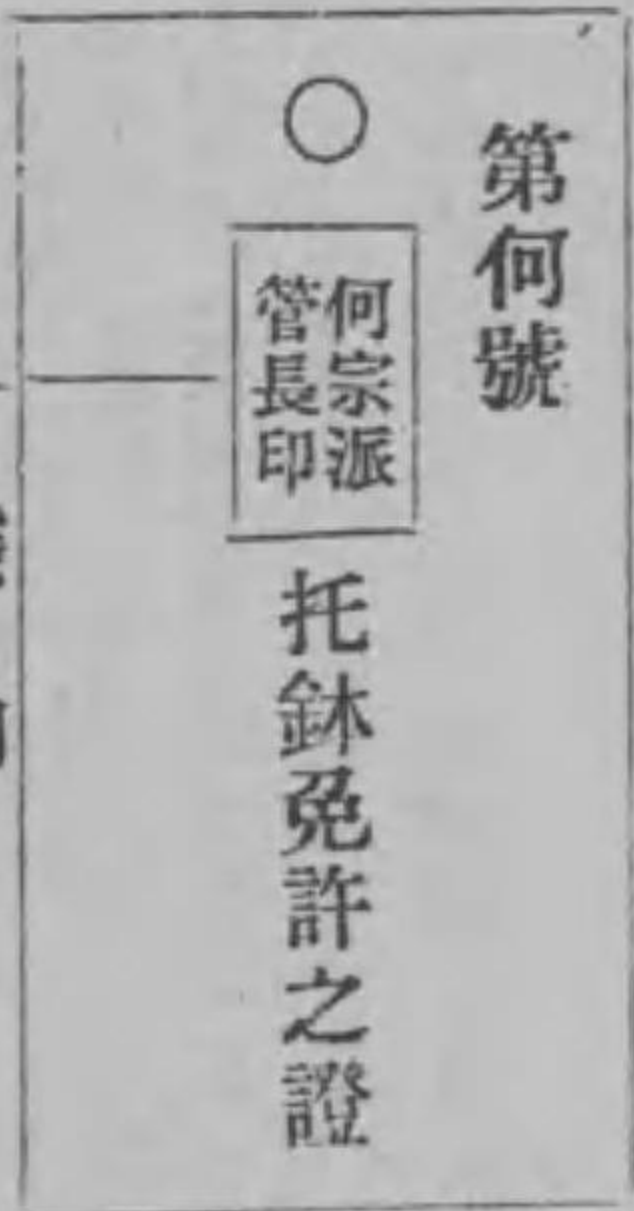
一 免許證ハ何時タリトモ警察官等ノ檢閱

ニ供スヘキモノトス

標牌雛形(木製)

縱六寸 横貳寸

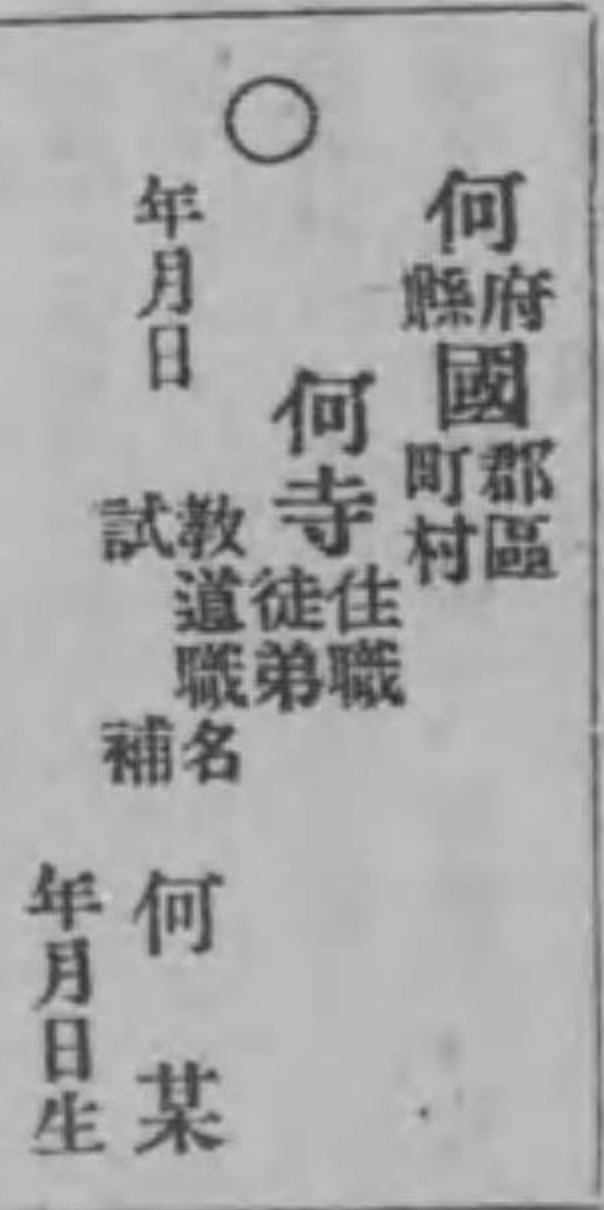
表



燒印

補遺

裏



●主務官廳移管ノ件

主務官廳左ノ如ク移轉セララル 明治維新以前ハ省略ス

民部省 明治三年七月社寺掛ヲ置キ同十月社寺寮ト改

大藏省 明治四年七月民部省ヲ廢シ大藏省ニ戶籍寮社

寺課ヲ置キ(神祇省所管外ノ社寺ノコトヲ掌

祇官ト改メ明治五

教部省 明治五年三月大藏省社寺課ヲ廢シ教部省ヲ置

キ四月教道職ヲ設ケ三條ノ教憲ヲ定ム六月佛
道各宗ニ教導職管長ヲ置キ(八月神官總テ教
職試補)十一月大教院ヲ設ケ六年二月神官僧
侶ニ限ラス有志者一般教導職ニ補ス三月大教
院事務章程并教導職々制ヲ定ム明治七年三月
佛道各派ニ管長ヲ置クコトヲ許サル明治八年

三月神佛合併大教院差止メラル(神道事務)
内務省ハ明治六(局ヲ設ク)
年十一月設置
内務省ニ社寺局ヲ置ク明治十七年八月教導職
ヲ廢シ教宗派ノコトハ神佛各管長ニ委任セラ
ル明治三十三年四月社寺局ヲ廢シ神社局宗教
局ヲ置ク

文部省
大正二年六月内務省ヨリ宗教局ヲ文部省ニ移
管セララル(文部大臣ハ教育學藝及宗教ニ關ス
ル事務ヲ管理ス宗教局ハ左ノ事務
ヲ掌ル 一、神佛各派、寺院、宗教ノ用ニ事
スル堂宇其他宗教ニ關スル事項 二、古社寺
保存ニ關スル事項 三、僧侶及教) 以上
師ニ關スル事項 現行官制如此)

○憲法(信教自由ニ關スル規定)(明治二十二年二月十一日發布)
第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ
義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

○民法(祭祀、宗教等ニ關スル社團又ハ財團ヲ法人ト爲
シ得ル規定)(明治二十九年四月二十七日法律第八十九號)
第三十四條 祭祀、宗教、慈善、學術、技藝其他公益ニ
關スル社團又ハ財團ニシテ營利ヲ目的トセサルモノハ
主務官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ法人トナスコトヲ得

所在地及設立許可ノ年月日
第二條 前條ノ法人カ前條第一項第一號又ハ第四號ノ事
項ヲ變更シタルトキハ直ニ届出ツヘシ
第三條 第一條ノ法人カ第一條第一項第二號又ハ第三號
ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ認可ヲ受クヘシ
前項ノ規定ニ違背シタルトキハ民法第七十一條ニ依リ
其設立ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
第四條 本令ニ依リ書面ヲ差出ス場合ニ於テ神佛道ノ教
派又ハ宗派ニ屬スルモノニアリテハ凡テ管長ノ添書ヲ
付スヘシ

○墓地及埋葬取締規則

(明治十七年十月四日
太政官布達第二十五號)

第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限
ルモノトス
第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クヘ
キモノトス
第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋
葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス
但シ別段ノ規則アルモノハ此限ニアラス

○民法施行法(寺院祠宇及佛堂ニハ民法中法人ニ關
スル規定ヲ適用セサル規定)(明治三十一年六月十
五日法律第十一號)
第二十八條 民法中法人ニ關スル規定ハ當分ノ内神社、
寺院、祠宇及佛堂ニハ之ヲ適用セス

○宗教ノ宣布又ハ儀式執行ヲ目的トスル法
人設立規定(明治三十三年八月内
務省令第三十九號)

- 宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル法人ノ設
立等ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ
- 一 宗教ノ名稱及所屬教派宗派ノ名稱
 - 二 儀式及布教ノ方法
 - 三 布教者ノ資格及選定方法
 - 四 信徒ト法人トノ關係
 - 五 信徒及社員タルヘキ者ノ員數
 - 六 宗教ノ用ニ供スル堂宇、教會所、會堂、説教所
又ハ講義所ノ類ヲ備フルモノニ在リテハ其名稱、

第四條 區長若クハ戸長ノ認許證ヲ得ルニ非サレハ埋葬
又ハ火葬ヲ爲スコトヲ得ス
但シ改葬ヲナサントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受
クヘシ

第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戸長ノ認許
證ヲ得タルモノニアラサレバ埋葬又ハ火葬ヲナサシム
ヘカラス又警察署ノ許可證ヲ得タル者ニ非サレハ改葬
ヲナサシムヘカラス

第六條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬
場ニ於テ行フヘシ

第七條 凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ
許可ヲ受クベシ其許可ヲ得シテ建設シタルモノハ之
ヲ取除ケシムヘシ 但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準
ス

第八條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監、府知事、
縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ツベシ

○同上施行細目標準(明治十七年十一月十八日
内務省達乙第四十號)
本年第二十五號布達第八條ニ記載セル方法細目ハ左ノ條
件ヲ標準トスベシ此旨相達候事

第一條 墓地ハ從前許可セラレタル者ニ限ル 但己ムコトヲ得サル事アリテ之レヲ取廣メ又ハ新設スル場合ニ於テハ地方廳ニ願出ベシ

第二條 墓地ヲ新設スルハ國道、縣道、鐵道、大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡六十間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障ナキ地ヲ撰ムベシ

第三條 墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニテモ之ヲ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラス 但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其ノ内ニ埋葬スルモノトス

第四條 墓地ノ周圍(墓地ト非サル地トノ境界ヲ云フ)ニハ樹木ヲ栽ユベシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木塀牆ヲ存スヘカラスルモノトス 但從前ヨリ現存スル者ハ此限ニアラス

第五條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第六條 火葬場ハ人家及人民輻輳ノ地ヲ隔ル凡ソ百二十間以上ニシテ風上ニ位セザル地ヲ撰ヒ火爐烟筒ヲ備ヘ臭烟ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ塀牆ヲ設クヘシ 但山林原野ニシテ人家ヲ隔タル場所ナキトキハ格別ナリトス

第七條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フヘシ

第八條 曠穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ格別ナリトス

第九條 墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名ハ區役所又ハ戶長役場ニ届ケ置クヘシ

第十條 死者ノ姓名、族籍、官位、勳、爵、法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止マリ誌、銘、傳、讚等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クルノ限ニアラス

第十一條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡届書ヲ添ヘテ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ 醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セント欲スルトキハ醫師ノ檢案ヲ差出シ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ

變死ニ係ルトキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡證書寫ニ司獄官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

第十二條 區長ハ前條ノ届書證書ヲ領收スルニアラサ

レハ埋火葬ノ認許證ヲ與フヘカラス

第十三條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル區長ノ認許證ヲ編纂シ毎三ヶ月所轄警察署ノ檢閱ヲ受テ之ヲ區役所又ハ戶長役場ヘ差出スヘシ

第十四條 管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置クヘシ

第十五條 「此標準ニ據リ難キモノハ其事情ヲ具シ伺出ヘシ」(十九年内務省達甲第(五)號ヲ以テ本條削除)

○刑死者ノ墓標及祭祀等ニ關スル件
(明治二十四年七月二十(七)日内務省令第十一號)

第一條 刑死者ノ墓標ニハ氏名、法號、族籍、年齢、生死ノ年月日ヲ記入スルニ止メ他ノ事項ヲ記スルコトヲ得ス

其墓標ハ遺骸埋葬地又ハ祖先塋域ノ外之ヲ建設スルコトヲ得ス

異様ノ標墓ヲ建設シ及文字ニ彩色ヲ施スコトヲ得ス

第二條 所轄警察署ノ許可ヲ得スシテ刑死者ノ爲公然祭祀ヲ行フコトヲ得ス 但親族ノ香花ヲ供スルノ類ハ此限リニ非ス

第三條 刑死者ノ寫眞其他肖像ヲ公然陳列シ又ハ販賣ス

其他總テ刑死者ヲ賞揚哀悼スルコトヲ得ス

第四條 前各條項ニ違背シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金若クハ十一日以上二十五日以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五條 犯罪ニ關シ現ニ捜査起訴拘留服刑中ノ者若クハ捜査起訴拘留服刑中ニ死去シタル者及刑ヲ免レント欲シテ自殺シ或ハ犯罪現行ノ際殺害セラレタル者ニ付地方長官(東京府ハ警視總監)ハ安寧ノ秩序ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルトキハ特ニ命令ヲ下シ第一條第二條第三條ニ掲ケル所爲ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ背違シタル者ハ第四條ニ據リ處分ス

○禮拜所皮墳墓ニ關スル刑法ノ規定
(明治四十年四月二十(三)日法律第四十五號)

第百八十八條 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

說教禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ニハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十九條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十條 死體遺骨遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞遺棄又ハ領得シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十一條 第百八十九條ノ罪ヲ犯シ死體遺骨遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十二條 檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

○檀家ノ外埋葬セサル習慣ノ寺院境内墓地ハ他宗派ノ埋葬ヲ拒絕シ得ルノ件

(明治二十五年一月三日東京市本郷區駒込眞淨寺伺)

明治十七年内務省達乙第四十號第三條ニ墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ於テ死タルモノハ何人ニテモ之ヲ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限リニ非ニト有之從來本寺ハ檀家ノ外他宗派異教者等ヲ葬ラサル習慣アル墓地ニ付縱令該地使用者ノ子孫ト雖モ習慣ニ適セサル他宗派並ニ異教式ヲ以テ埋葬セントスルモノアルトキハ管理者ハ之ヲ拒絕致シ可然哉

警視廳令(同二月二日) 墓地埋葬ノ件伺ノ通

○禁厭祈禱ヲ以テ醫藥ヲ妨クル者取締ノ件

(明治七年六月七日) 府縣(教部省達第二十二號)

別紙乙第三十三號ノ通神道諸宗管長ハ相違候條向後禁厭祈禱ヲ以テ醫藥等差止メ政治ノ妨害ト相成候條ノ所業致候者有之候ハ、於地方官取締可致此旨相違候事

(別紙)

同日教部省乙第三十三號達 神道諸宗管長

禁厭祈禱等ノ儀ハ神道諸宗共人民ノ請求ニ應シ從來ノ傳法執行候ハ元ヨリ不苦筋候處間ニハ之レカ爲メ醫藥ヲ妨ケ湯藥ヲ止メ候向モ有之哉ニ相聞以ノ外ノ事ニ候抑教導職タルモノ右等貴重ノ人命ニ關シ衆庶ノ方向ヲモ誤ラセ候條ノ所業有之候テハ朝旨ニ乖戾シ政治ノ障礙ト相成甚以テ不都合ノ次第ニ候條向後心得違ノ者無之候迄度取締可致此旨相違候事

○禁厭祈禱ハ醫師診斷施療中ノ者ニ限ル件

(明治十五年七月十日) 府縣(内務省達乙第四十二號)

別紙戊三號ノ通神道副總裁ハ相違候條今後違背ノ體有之候ハ、直ニ差止置委詳當省ハ具狀可致此旨相違候事

(別紙)

同日内務省達戊第三號 神道副總裁、神佛各管長 禁厭祈禱ノ儀ニ付七年六月教部省乙第三十三號達ノ趣有之候處病者治療ノ際之カ爲メ投藥ノ時機ヲ誤リ候儀モ有之哉ニ相聞不都合候條今後信者ヨリ請求候節ハ先服藥ノ有無ヲ證明セシメ果シテ醫師診斷施療中ノ者ニ限リ其望ニ應シ不苦候條其旨迄度可相心得此段相違候事

●佛教聯合會規則

- 第一條 本會ハ佛教聯合會ト稱シ本部ヲ東京ニ出張所ヲ京都ニ設置ス
- 第二條 本會ハ佛教各宗派ニ關スル共通ノ事件ヲ審議シ之ヲ處辨スルヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ各宗派管長及宗務ノ要職者ヲ以テ組織ス
- 第四條 本會ニ幹事十二人ヲ置ク
- 幹事ハ左ノ振合ニ依リ各宗派ヨリ之ヲ選出ス但シ數宗派聯合ノモノニアリテハ其ノ組合セ宗派ノ協定ニ依リ幹事ヲ選出ス

天台宗	天台寺門派	一人
天台宗	眞盛派	一人
眞言宗	高野派	一人
眞言宗	御室派	一人
眞言宗	醍醐派	一人
眞言宗	大覺寺派	一人
眞言宗	東寺派	一人
眞言宗	泉涌寺派	一人
眞言宗	山階派	一人
眞言宗	小野派	一人
新義眞言宗	智山派	一人
新義眞言宗	豐山派	一人
淨土宗	天龍寺派	一人
臨濟宗	相國寺派	一人
臨濟宗	建仁寺派	一人
臨濟宗	南禪寺派	一人
臨濟宗	妙心寺派	一人
臨濟宗	建長寺派	一人

補遺

臨濟宗東福寺派	臨濟宗大德寺派	臨濟宗圓覺寺派	臨濟宗永源寺派	臨濟宗方廣寺派	臨濟宗佛通寺派	臨濟宗國泰寺派	臨濟宗向嶽寺派	曹洞宗	真宗本願寺派	真宗大谷派	真宗高田派	真宗興正派	真宗佛光寺派	真宗木邊派	真宗出雲路派	真宗山元派	真宗誠照寺派	真宗三門徒派
								一	一	一				一				
								人	人	人				人				

三百四十二

真言律宗	淨土宗西山派	融通念佛宗	時相宗	法嚴宗	華嚴宗	日蓮宗	顯本法華宗	本門法華宗	本門法華宗	法華宗	妙法華宗	日蓮宗	日蓮宗	同不受不施講門派

第五條 本會幹事ハ本會ヲ代表シ會務一切ノ責ニ任ズ

第六條 本會ニ評議員會ヲ置ク

評議員會ハ左ノ二種トス

一 定期會 毎年一回東京又ハ京都ニ於テ之ヲ開會

二 臨時會

必要ニ應ジ臨時會之ヲ開會ス

第七條 評議員會ハ各宗派ヨリ選出シタル評議員ヲ以テ組織ス

各宗派ヨリ選出スル評議員ノ數ハ一宗派一人トス但シ所屬寺院一千箇寺ヲ超ユル宗派ニアリテハ二千箇寺ヲ増ス毎ニ一人ノ評議員ヲ加フルコトヲ得

第八條 本會ノ經費ハ評議員會ニ於テ其ノ豫算ヲ定メ左ノ割合ニ依リ各宗派ヨリ之ヲ徵收ス

- 一 管長割 十分ノ二
- 一 寺數割 十分ノ八

第九條 本會ノ幹事及評議員ハ無報酬トス但シ事件ニ依リ旅費又ハ其ノ他ノ費用ヲ支給スルコトアルベシ

第十條 此ノ會則施行ニ關シ必要ノ規程ハ幹事ニ於テ別ニ之ヲ定ム

附則

第十一條 此ノ會則ハ幹事ノ提案ニ依リ評議員會ノ決議ヲ經ルニアラザレバ之ガ改更ヲ爲スコトヲ得ズ

第十二條 此ノ會則ハ大正五年一月一日ヨリ施行ス

佛教聯合會

補遺

三百四十三

寺院明細表

智山派寺院明細表

第壹教區 百五十八ヶ寺

京都上品蓮臺寺宗務支所下 五ヶ寺

本寺 市郡町村 等級 寺名

智山 京都府鷹野十二坊町 六 上品蓮臺寺

上品蓮臺寺 京都府鷹野十二坊町 一四 引接寺

同 京都府鷹野十二坊町 二五 寶泉院

同 同 二五 大慈院

同 同 二五 眞言院

同 同 同 同

同 同 同 同

同 同 同 同

同 同 同 同

同 同 同 同

同 同 同 同

同 同 同 同

同 同 同 同

同 同 同 同

同 同 同 同

智山 伏見町 二二 觀音寺

安樂壽院 竹田村 一九 寶積院

同 乙訓郡大山崎村 一五 觀音寺

同 同 一七 法泉寺

同 同 二〇 大德寺

同 同 一八 西福寺

同 同 二二 西光寺

同 同 二二 西光寺

同 同 二二 西光寺

同 同 二二 西光寺

同 同 二二 西光寺

同 同 二二 西光寺

同 同 二二 西光寺

同 同 二二 西光寺

同 同 二二 西光寺

同 同 二二 西光寺

同 同 二二 西光寺

同 同 二二 西光寺

京都府宗務支所下

智山 京都市松原通因幡堂町 九 平等寺

同 六角通烏丸東 九 愛染院

同 松原通大和大路東 九 六波羅密寺

同 五辻通千本西 一 大報恩寺

同 七本松通一條北 一八 清和院

同 清閑寺町 二五 清閑寺

同 西錦小路 二五 龜龍院

同 紀伊郡竹田村 七 安樂壽院

同 同 同 同

同 同 同 同

同 同 同 同

寺院明細表

寺院明細表

智山	綴喜郡富野庄村	二三	光明寺	大傳法院	那賀郡上岩出村	二二	觀音寺
同	久世郡宇治町	二四	惠心院	同	同	二二	神明寺
平等寺	南桑田郡東別院村	一五	金輪寺	同	粉川村	二二	地藏寺
智山	大阪府南河内郡彼方村	八	明王寺	同	岩出町	二三	地藏寺
同	奈良縣山邊郡波多野村	二四	自作寺	智山	同	二三	無量壽寺
安樂壽院	同	二五	釋迦寺	大傳法院	同	二五	毘沙門寺
智山	同	等外	大保寺	同	上岩出村	二五	觀音寺

和歌山縣宗務支所下 三十六ヶ寺

岩出組 二十三ヶ寺

智山	那賀郡岩出町	一五	關伽井寺	同	同	二二	榮福寺
大傳法院	同	一六	國分寺	同	同	二二	圓滿寺
同	池田村	一八	正覺寺	同	同	二四	毘沙門寺
同	岩出町	一八	地藏寺	同	同	二四	地藏寺
智山	同	一八	地藏寺	同	同	二四	毘沙門寺
大傳法院	同	一九	地藏寺	同	同	二四	毘沙門寺
同	池田村	一九	知足院	同	同	二四	毘沙門寺
同	同	二〇	阿彌陀寺	同	同	二〇	毘沙門寺
同	上岩出村	二〇	阿彌陀寺	同	同	二〇	毘沙門寺
同	岩出町	二一	安樂寺	同	同	二四	正樂寺
同	川原村	二一	西方寺	同	同	一九	安祥寺
同	同	二二	觀音寺	同	同	二五	藥師寺
同	岩出町	二二	觀音寺	同	同	二五	藥師寺
智山	同	二二	壽福寺	同	同	二五	藥師寺

十三ヶ寺

愛媛縣宗務支所下 三十九ヶ寺

第一組 十二ヶ寺

智山	溫泉郡和氣村	三	太山寺	智山	松山市唐人町	一五	觀音寺
同	同	八	圓明寺	同	溫泉郡雄群付	一五	藥師寺
同	同	一〇	長隆寺	同	同	一四	長樂寺
同	東中島村	一五	長善寺	同	垣生町	一五	安樂寺
同	同	一五	玉善寺	同	生石村	一五	善喜寺
同	睦野村	一六	安祥寺	同	同	一五	福泉寺
同	久枝村	一九	善福寺	同	朝美村	一五	教明寺
同	和氣村	一九	善福寺	同	伊豫郡岡田村	一七	金蓮寺
同	同	一七	眞福寺	同	同	一九	圓盛寺
同	堀江村	一八	東林寺	同	溫泉郡道後村	二五	三寶寺
同	同	一八	常福寺	同	松山市道後町	一八	光明寺
智山	同	一八	常福寺	同	溫泉郡生石村	一八	光明寺
同	湖見村	一九	教本坊	同	同	一八	光明寺
同	久枝村	二一	高音寺	同	同	一八	眞成寺

第三組 八ヶ寺

智山	伊豫郡郡中村	五	寶珠寺	同	同	八	稱名寺
同	同	八	稱名寺	同	同	一四	宗通寺
同	同	一四	宗通寺	同	同	一六	地藏寺
同	同	一七	法壽院	同	同	一七	常願寺
同	同	一七	常願寺	同	同	一八	善正寺
同	同	一八	眞成寺	同	同	一八	眞成寺

寺院明細表

第二組 十一ヶ寺

第四組 八ヶ寺

寺院明細表

寶珠寺	伊豫郡南伊豫村	一三	傳宗寺
同	同	一二	正圓寺
同	同	一五	本願寺
同	同	一七	長泉寺
同	同	二〇	入佛寺
同	同	一〇	理正院
同	同	一三	永代寺
同	廣田村	二二	光明寺

長崎縣平戸宗務支所下

十六ヶ寺

最教寺	北松浦郡江迎村	一〇	壽福寺
智山	平戸村	一四	最教寺
最教寺	鹿町村	一四	潮音院
同	同	一四	西光寺
同	同	一七	福滿寺
同	同	一七	妙觀寺
同	同	一八	善福寺
同	同	一八	金剛院
同	同	一九	阿彌陀寺
同	同	二〇	東漸寺
同	同	二二	西禪寺

四

宮崎縣宗務支所下

七ヶ寺

智山	東彼杵郡日字村	七	青蓮寺
最教寺	同	二〇	淨漸寺
青蓮寺	同	等外	清岩寺
智山	壹岐郡香椎村	六	能滿寺
最教寺	同	一八	金藏寺
智山	兒湯郡都於郡村	一五	黑貫寺
黑貫寺	同	一八	延命寺
智山	北穂北村	一八	竹尾寺
黑貫寺	宮崎郡吉村	一八	淨土院
同	同	一八	伊滿福寺
同	同	一八	伊滿福寺
同	同	一八	天林寺

熊本縣宗務支所下

二ヶ寺

智山	球磨郡黒肥地村	一八	青蓮寺
同	同	一五	生善院

高知縣宗務支所下

十七ヶ寺

智山	長岡郡五臺山村	一二	竹林寺
----	---------	----	-----

第貳教區

百六十三ヶ寺

智山	國分村	三	國分寺
竹林	西豐永村	一三	豐樂寺
同	同	一三	定福寺
同	同	一九	東光寺
同	同	二〇	寶珠寺
同	同	一一	乘臺寺
同	同	一五	清光寺
同	同	一七	岩本寺
同	同	二五	觀音寺
同	同	一二	寶幢院
同	同	一五	大日寺
同	同	一七	金剛寺
同	同	一五	中之院
同	同	一九	清水寺
同	同	一七	延光寺
同	同	一四	金蓮寺

福井縣宗務支所下

十七ヶ寺

智山	坂井郡三國町	五	瀧谷寺
----	--------	---	-----

寺院明細表

滋賀縣東部宗務支所下

十六ヶ寺

智山	同	五	性海寺
性海寺	同	一九	糸崎寺
同	同	一九	大善寺
同	同	二〇	圓福院
同	同	二〇	教授院
同	同	二四	總持寺
同	同	等外	龍泉院
同	同	一三	持寶院
同	同	二〇	普賢院
同	同	二〇	地藏院
同	同	二〇	壽命院
同	同	二四	常福院
同	同	一四	愛染院
同	同	一七	觀音寺
同	同	一五	藥王院
同	同	二二	泰澄寺

山東組

五ヶ寺

智山	坂田郡東黒田村	八	光明院
光明院	同	一九	正覺寺

五

